
リトルウイング雑務日誌 カオスとヤバスとクロスオーバー

オンドゥル侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リトルウイング雑務日誌 カオスとヤバスとクロスオーバー

【Nコード】

N5219S

【作者名】

オンドウル侍

【あらすじ】

ある日突然、リトルウイングに、仮面ライダーが、万事屋が、フェアリーテイルの魔導師が、ガンダムマイスターが、デュエリストが、MSFが、被魔師が、スケルト団がやってきた！

下ネタ、捏造設定、その他キツイかもしれないネタが飛び交うクラッド6は、この先どうなるのか？

カオスなグダグダギャグ小説、始動！

この小説はコラボフリーです。コラボしたい場合は遠慮なく申し出てくだちい。

（注：この作品はキャラ崩壊が多々見られたり、一部のキャラが性癖に目覚めたりするので、そういうのが嫌いな方は回れ右して前進前進！）

ブローグ／増員パラダイス！

士「今日からリトルウイング所属になった、門矢士と」

翔太郎「左翔太郎と」

刹那「刹那・F・セイエイと」

銀時「坂田銀時と」

ナツ「ナツ・ドラグニルと」

以下略

クラウチ「というわけでメンバー大分増えたから、お前ら、仲良くやれよ。」

エミリア「ウエエエエイ！！??」

ワイナル「ナギサちゃん、あの人らと仲良くできたら…」

ナギサ「バカにするな。いちいち言われなくてもそうするつもりだった。」

ユート「増員、増員～～」

ルミア「またずいぶんにぎやかに…」

シズル「この人たちが僕をおちよくりませんように……」

フィリップ「ここがグラールか。非常に興味深い。」

新八「個人のキャラ濃すぎじゃないですか。ますます僕が存在が…」

グラハム「この世界で、新生オーバーフラッグズ結成できるのか…
…いやできる。私ならできる！」

スネーク「カズ、ここなら仕事が多そうだな。」

銀時「何言ってるの？カズって誰？俺銀時だけど？」

ナツ「うおおお！！燃えてきたぞおおお！！！！」

エミリア「大丈夫かな…ウチ。」

ミカ「不安です。」

エミリア「ミカの中の人って大は…」

ミカ「言わないでください。」

キャラ紹介その？

エミリア・パーシバル

リトルウイング所属の少女。天真爛漫な性格だが、時たまメチャクチャ投げやりな態度を見せる。『マジでだらけた女の子』、略してマダオである。バカっぽく見えるが実はコンピューターにも引けを取らない演算能力の持ち主。

ユート・ユン・ユンカース

カーシュ族の少年。純朴な性格で、文明とかけ離れた行動をとる野生児。『負けが大嫌いな男の子』、略してマダオである。好物はプリン。一度に10皿は余裕で食う。

ルミア・ウェーバー

ガーディアンズ所属の少女。初登場時はエミリア並みに明るかったが、キャラかぶりを防ぐためかPSP02でイメチェンして登場。今では『マジメ代表の女の子』略してマダオである。

刹那・F・セイエイ

ガンダムマイスター。何故かリトルウイングに入社。モビルスーツに乗って戦うほか、2丁拳銃を使ったり、ウルトラマンに変身したり、ポケモン使ったり、サッカーしたりもする。

ガンダムを信仰しているといってもいいほど信じている。『真守ボイスだからおったまげなほど技バリエーションある』略してマダオである。

坂田銀時

元攘夷浪士で、今は下町で静かに暮らしてる。何故かリトルウイングに入社。死んだ魚みたいな目。杉田ヴォイス。普段は甲斐性なしだが、決める時は決める。『まあ何とか墮落してない男』略してマダオである。

シズル「何で肩にヘーゲルバスターが付いてるんだ？ガン○ヤノン
じゃあるまいし！」

ミカ「左腕がヌイ……バランス悪そうです……」

フィリップ「おい、右腕がオーバーエンドになってるぞ。」

ワイナル「頭は何気にグラニル（PSZERO参照）だし！」

エミリア「これが、ナノブラを超えたナノブラ、名付けて『ユート
ブラスト』……」

クラウド「ちよつと待て……色黒くねえか？これって……」

シズル「ぎゃあああああ暴走してるうううう……」

Bユート「ガルアアアアアア……」ヘーゲルバスター発射

エミリア「きゃあああああ……」

ルミア「エミリア！」

海藤「僕に任せろ！」

『カメンライド ガイ！』

『カメンライド トラスト！』

ガイ「あれ、何で俺変身してギヤアアアア……」

トラスト「何だこれは？私は今レースでギヤアアアア……」

海藤「どうだ！名付けてダブルガイバリア！！」

ルミア「鬼！悪魔！鬼畜！グロンギ！屑ヤミ！」

海藤「orz」

エミリア「あたし、助っ人連れてくるから待ってて！もし息絶えても、皆はあたしの中で生き続けるから。」 走り去る

皆「」「ふざけんな！お前が俺らの中で生き続ける！」「」

士「俺が食い止める！」

Bユート「ガルアア！」

ズガアアアアン！ 火焰ノ咆哮

士「ソゲブアアアアアアアアアア！！！！！！」 変身解ける

皆「」「クソモヤシ！役立たず！」「」

士「orz」

Bユート「ガアアアアアアアア！！！！！！」

シズル「ギアアアアアアア！！！！！！」

クラウチ「オゲエエエ！！！！！！」

ルミア「バーバーバーダンドンデデンダンドンデデン」
ド パント出た時の音楽

フィリップ「BGMはいいから避難しなよ！」

エミリア「ゴメーン待った？」 刹那を連れてくる

ミカ「何をするつもりですかエミリア？」

エミリア「刹那！アイツ左右の腕で武器が違っよー！」

刹那「……ホントだ…ムシズが走る！」

エミリア「イエース！」

皆「中の人ネタ来たよ！」

刹那「貴様あ！何だそのバラバラ度は！しかも背中の中のオーラの形も
ちよつと違っじゃないかあ！邪魔！邪魔邪魔邪魔邪魔邪魔邪魔邪魔邪魔
魔アアアア！！！！！」 2丁拳銃発射

バンバンバンバンバンバン！！！！

Bユート「ギエエエエエエエエ！！！！！！！」

刹那「邪魔邪魔邪魔、全部邪魔だあああああ！！！」

ユート「あ……ああ……」 ダメージで変身が解ける

刹那「……存在が許せん。」

皆「「刹那最強！」」

ユートのナノブラ大作戦！（後書き）

ユートブラスト：エミリアに遺伝子改造され、キャストのパーツを一部埋め込まれたユートが使えるようになったブラスト技。火力がすごい。でも暴走する危険が大。これを使うと、ユートはまさしく人間ファイナルベントになる。

ZEROのスタートウインクル(前書き)

やさぐるま「どうせ俺達なんて」

影山「どうせ俺たちなんて」

5103「どうせ俺たちなんて」

ナギサ「どうせ俺たちなんて」

やさぐるま「せーの」

四人「」「」「どうせ俺たちなんて」「」「」

ごめんなさい。きっと僕は疲れている。

ZEROのスタートウインクル

バスク「クラウド、事務所の一角にやたらと負のオーラが立ち込めているような気がするんだが。」

クラウド「ん？」

カイ「……………」

サリサ「……………」

オギ「……………」

レーヴェ「……………」

アナ「……………」

クラウド「誰だあの五人？」

カイ「……………ほら言っただろ？誰も俺らの事なんか覚えてないんだよ……………」

サリサ「現実を見ようよ、レーヴェ、アナ。」

オギ「どうせ…………どうせワタシ達なんて……………」

アナ「じぶんの価値は自分で決めるものさ…………orz…………orz…………orz…………カモン……………」

レーヴェ「俺だけ歓迎会にいない あれあれ 存在感がない
ロンリ ロンリ (嵐の『トラブルメーカー』の替え歌)……」

ウルスラ「クラウチ、今の発言はひどいでしょ。彼らはDSで出た
PHANTASY STAR ZEROのキャラよ。たぶん自分達
だけ1作品だからへこんでるんでしょ。」

バスク「確かに、言ってしまったら彼らに失礼だが、彼らはかなり
存在感が薄いからな。」

オギ「言われた…はつきり言われた…」

ユート「案ずる事はないよ諸君！この作品には4人の天才がいる！
彼らに科学の力でどうにかしてもらってはどうかだね？」

伊達「お前が言うと言得力が違うな。」

クラウチ「おいユート、それ誰のマネだ。」

ウルスラ「4人の天才…エミリア、シズル、トムレイン博士、真木
博士の4人かしらね。じゃあ彼らに頼んでみるわ。安心しなさい、
ZEROのみんな。」

カイ「オ、お前…」

サリサ「有難う……ぐすっ」

という訳で……

クラウド「つーわけで、存在感が出せるようになる機械、作っても
られますか博士？」

トムレイン「いいとも。科学の力で救える人がいるのなら、私は努力を惜しまないよ。」

ユート「エミリア、いいか？」

エミリア「やだよー何であたしがしなきゃ……」

ユート「HGブリッツガンダムあげるぞ。」

エミリア「……じゃあ、やろっかな。」

E3「シズル、頼めるか？」

シズル「断わ……」

イーサン「ツンデレメイド喫茶で飯おごってやるよ。」

シズル「喜んでやります！」

伊達「ドクター、いいか？」 キヨちゃんにバースバスター（セル
バーストモード）を向ける

レーヴェ「うおおおおお!!!」

ギュピアアアア!!

エミリア「凄い!あまりの存在感で、体が輝いて見える!」

トムレイン「大成功だ!本当に良かった!」

シズル「これで、ツンデレ(以下略)」

真木「……彼らによき終わり(以下略)」

サリサ「今なら何でもできる気がする!」

カイ「ヨッシャア!じゃあオルガフロウを で討伐だあ!

オギ「行くぞ皆!」

レーヴェ「オアアアア!」

アナ「やってやりましょう!」

タッタッタッタッタッタッタ…… 走り去る
トムレイン「いや、本当によかったよ。」

エミリア「いい事したら気持ちいいね!」

シズル「ツン(以下略)」

真木「これで彼らによき(以下略)」

アビス「頼みがある!その機械私にも……」

伊達「なあ、何か聞き覚えない声聞こえないか？」

ウルスラ「そう言えば…でも知らない人はここにいないわよ？」

アビス「無視するな！私はここに……」

エミリア「そんな人いないわよ！さあ撤収撤収！」

シズル「ツ（以下略）」

アビス「無視しないでええええ！！！！」

アビス「ひょっとして……ホントに見えてない？……orz」

シンジ「お前はライダー史上一番存在感ないからな。」

アビス「じぶんの価値は自分で決めるものさ…orz
…orz…orz…カモン…」

ZEROのスタートウインクル（後書き）

アビスはマジで存在感ない。ディケイド映画のスピンオフでもサメのライダーが云々って問題（正解はファイズ）でモヤシに

「そんなのいたか？」
って言われてた。

聖剣伝説前編 ロキとエミリアの小冒険？

図書館

エミリア「ロキ、何読んでるの？」

ロキ「ああエミリアか。ちょっとこれを。」 エミリアに本を見せる

エミリア「…何これ？…イ…ケ…ス…クリ…バー？」

ロキ「エクスカリバーだ。手にしたものは光の翼を身にまとい、その一撃は空間をも切り裂くという、あの。」

エミリア「あ！聞いたことある！岩から聖剣を抜けた勇者は勝利と栄光を約束され、英雄になれるっていうあれでしょ？」

ロキ「そう、それだ。…それでエミリア…ちょっと…取りに行かないか？聖剣。」

エミリア「行く行く！やってみる！」

ミカ「面白そうですね！せめて一目みたいです、聖剣！」

それから数時間後、某洞窟……

ロキ「おや？」

妖精「あ、こんにちわ。旅のお方ですか？」

エミリア「へえ、聖剣が眠るにふさわしい所ね。ねえ、あたし達工
クスカリバー探してるんだけど、この奥であつてる？」

妖精「……………」

グオオオオン！！！！

妖精「……………うん。」 めっちゃいやそうな顔をする

ミカ「…急に愛想が悪く…嫌われたんでしょうか？」

エミリア「さあ…分かんない。」

そして、聖剣のあるところ……

ロキ「エミリア、見ろ！聖剣だ！」

エミリア「凄い……輝いてる。」

ミカ「美しい……」

ロキ「じゃあ僕から行くぞ。」

エミリア & a m p …ミカ「……………」

ロキ「……………」

しゅらん

ロキ「……………あれ？……………抜けた……………」

三力「ええええええ！！！！待って下さい！抜きましたよ！」

エミリア「ちよつ、今のなし！今度はあたしにやらせて！」

ぐつ

しゅらん

ロキ「ええええええええ！！！！どうなってるんだ？穴ガバガバにな
ってたりして」

「ようこそ！勇者よ！君達を歓迎しよう！」

エミリア「だ……誰？」

「?????失礼、紹介が遅れたな。私がエクスカリバーだ!!!」

キュアアアアアアアアアア！！！！！！

エミリア「ス……すごく……しょぼっ！」

エクスカリバー「君たちは何者だね？何処から来た？」　白いバク
みたいな感じの頭で、体も真っ白。高いハットをかぶり、ズボンは
ナシ。

口キ「あ、僕はろ……」

エクスカリバー「私の伝説は十二世紀から始まった！」

ロキ「聞かないのかよ。」

エクスカリバー「聞きたいか、私の伝説を！」

エミリア「杖向けないでよ！」 払う

エクスカリバー「私の朝は一杯のコーヒーから始まる。」

ミカ「また話変わりましたね。」

エクスカリバー「私の午後は一杯のアフタヌーンティーから始まる！そして私の夜は」

エミリア「どうせ酒から始まるんですよ。おっさんと同じじゃん。」

エクスカリバー「ヴァカめ！夜はパジャマになるに決まっておろつが！」

エミリア「バ、バカあ？あたしは天才だっつーの！あんたより…」

エクスカリバー「ヴァカめ！」

エミリア「だから天…」

エクスカリバー「ヴァカめ！そして、私のパートナーになるにあたって、守ってもらいたい千の項目がある！」 大量の紙を渡す

エミリア「……これを…全部守れと…？」

ロキ「凄い…裏までびっしり書いてある……」

エクスカリバー「では伝説を語るとしよう！！」

エミリア「話変えんな！そして杖を向けるな！」

聖剣伝説前編 ロキとエミリアの小冒険? (後書き)

エクスカリバー：ソウルイーターに登場する聖剣。パートナーになると、千の制約に従わなければならない。特に五時間に及ぶ朗読会はかなり難関。これを持ち切れるものはある意味勇者である。ちなみに声は高杉慎介と同じ。

聖剣伝説後編 アーサーはある意味勇者

エミリア「何こいつ！メチャクチャうざい！」

ロキ「相手のペースに乗るな。自分のペースを維持すればいい。」

エクスカリバー「あれはまだ私が若かったころの晴れ渡る土曜の話、私は悪かった、いや月曜だったかもしれない。私はかなり悪かったが同時に気品も兼ね備えて、いややはり土曜と見せかけて月曜だったかもしれない（ウザくなるので以下略）」

ミカ「……………長いですね。」

エクスカリバー「しかしやはり……………
……………分からん！」

エミリア「溜めがうざい！」

ミカ「あの、そろそろまともな話を聞きたいです……！」

エクスカリバー「そして私の五時間にわたる朗読会には必ず参加して……ん？きみ、それは本心かね？」

ミカ「ハイ！」

エクスカリバー「ではその言葉に敬意を表し……………」

三人「……………ごくりっ……………」

エクスカリバー「私が一曲歌って進ぜよう……!!」

ドシャアッ!! ずっこける音

エクスカリバー「ヒアウィゴー!!」

エミリア「何でこうなる訳?」

エクスカリバー「エークスキャーリヴァー…… エークスキ
ヤーリヴァー……」

フロムユナイテドステイツ アイム（長いので以下略）

刹那「何、あの二人、聖剣を取りに行つたのか? くそつ、忠告で
きなかった!」

クラウチ「どうした、そんなに危険なのか?」

刹那「いや……… 取りに行く途中に特に問題はない。」

クラウチ「じゃあ聖剣が危険なのか?」

刹那「いや、奴も危険はない。だが…問題はそのあとなんだ。」

クラウチ「どういう事だ?」

刹那「奴は意外とだれでも受け入れる。だが……」

（洞窟内 三人は正座して歌を聴いている）

カラス「カーカー」

エクスカリバー「エークスカーリヴァー…… エークスカ
ーリヴァー…… フロムユナイテステイツ……」

エミリア「いつまで続くのこれ……」

ロキ「僕に聞かないで……………」

ミカ「長いうえに単調です……………」

エクスカリバー「エークスカーリヴァー……………エークスカーリヴァッ！」 突然固まる

ミカ「あれ…あの…エクスカリバーさん？」 恐る恐る手を伸ばす

ドン！

ミカ「ひゃあっ！」

エクスカリバー「エークスカーリヴァー……………エークスカーリヴァー……………」

ドシャアッ！

エミリア「もう勘弁して……………」

刹那「いくら聖剣に受け入れられても、あいつと人としての相性が合わせられる奴がいらないんだ。あれで伝説を作ったアーサーとかいう奴はある意味勇者だ。」

オオカミ「ワオーンオンオン……」

エミリア「エミリア「や、やっと終わった……」

エクスカリバー「さて、一通りは終わったな。それでは！」 剣に変身

ミカ「うわぁっ！」

エクスカリバー「さあともに行こう、勇者たちよ！ いざ、勝利と、栄光を！」

ロキ「勝利と……」

エミリア「栄光……」

（光の翼がエクスカリバーを中心に広がる）

カスン

エクスカリバー「……………え？」

ロキ「ふざけんな。誰がお前なんかと。」

エミリア「今後あたしの前に現れたらブットヴァスゾ。」

ミカ「死んでください。」

（三人とも先ほどの妖精と同じような顔（以後『ウゼエ』フェイス）をする）

エクスカリバー「……………」

三人「カアアアッ ペッ!!」
「タンを地面に吐いて立ち去る」

エクスカリバー「分かった、千の項目を八百まで減らそう。でも朗読会には、ぜひ参加してもらいたい……………」

妖精「あ、エクスカリバーには会えた？」

三人「……………」
「ウゼエ」フェイスになる

妖精「会ったみたいね……………」

エミリア「……ただいま……」

クラウド「おうお前ら、なんか花輪が届いてるぞ。」

ロキ「こ、これは……！……！」

花輪の文字『Dear ロキ エミリア・パーシバル ミカ 刹那・
F・セイエイ いつでも待ってるよ！ エクスカリバー』

ユート「うわぁ、キツイな……」

ロキ「超絶ウザい」

エミリア「死ねばいいのに」

ミカ「吐き気がします」

刹那「ムシズダッシユ。」

(四人とも『ウゼエ』フェイスになる)

ドクタースランプアラレちゃんって、原作の名前は『ドクタースランプ』だけだ

エミリア「はぁ……………」

ナツ「どうかしたか？」

エミリア「最近、演算能力がスランプ気味……」

ナツ「……………1 + 1は？」

エミリア「……………11。」

ナツ「うっわ、ヒデエ。」

シズル「エミリア、何を言ってるんだ！1 + 1は85479だ！常識だろ！」

ルーシィ「いやあんたの方が酷い事になってるからね！」

（ウルスラが来る）

ウルスラ「あ、エミリア、この電卓直してほしいんだけど……」

ナツ「悪いこと言わねえからやめてオゴアア！」

エミリア「ハイ黙ってる！」 ナツにチョップ

シズル「とりあえず直してみるか？スランプ脱出のきっかけになるかも。」

5 時間後

ウルスラ「電卓一つ直すのにどんだけ時間かかってるのよ。」

エミリア「……………ゴメン、無理だった。」 直った電卓を出す

ナツ「どういう事だ？直ってるじゃねえか。」

ミカ「いや、それが……………」

ルーシー「どれどれ？えつと753+193は……………」

電卓『その命、神に返しなさい！』

ルーシー「……………ええええええ！？どういう直し方したらこんなになるの？」

ナツ「じゃあ5103+000は……………」

電卓『せいやあああああああああああ！？』

後藤「orz」

ハッピー「555+913は……………」

「邪魔なんだよ、俺の思い通りにならないものは全て！」

ナツ「確かにスゲえことになってる。」

シズル「エミリア、これはスランプで片づけていいことなのか？何かもつと深い部分に秘密があるんじゃないのか？」

[illegible][illegible]

エミリア「フィリップに検索してもらった方が早くない？」

ナツ「エミリアナイス！」

フィリップ「閲覧完了。これは海藤が『アタックライド ステイール』というカードを使って二人の能力を盗んだのが原因だ。」

シズル「ほら！僕が正しかった！」

エミリア & amp; ルーシィ「シズル！それでもせめてほかの可能性疑えよ！」

ハッピー「そうと分かったらガーディアンズに通報だ！」

ルミア「もう逃げられんぞ海藤大樹！貴様には逮捕状が出ている！おとなしくお縄を頂戴されろ！」

イーサン「逮捕となるとノリノリだなルミア。」

海藤「知らないよそんなの」

カレン「フィリップが検索したんだから間違いない。」

海藤「何い！？」

シズル& amp・エミリア「さあ能力返せー！」

海藤「ゴメン……………元に戻る方法が分からん……………」

シズル& amp・エミリア「……………はえ？」

クラウチ「……………じゃあ二人は」

ルーシー「このままずっと」

ウルスラ「バカのまま？」

シズル& amp・エミリア「ウゾダンドコードーーーーー
ーン!!!!!!!!!!」

剣崎「ナデイドンドコドン？」

海藤「だって…だって…僕も頭良くなりたかったもん…頭良くなつてルミアさんに振り向いて欲しかったんだもん……」

カレン「それからお前、グラールに来てから映司のパンツ15枚とユートのプリン39個も盗んだんだっただな。」

海藤「そこまで分かったの？」

映司「おい teme え、俺のパンツが最近ないなと思ってたら……」

ユート「顔上げるクソヤロ。お前、プリン返せ。」

海藤「か、勘弁して！もうプリンは食べたし、パンツはサイズ合わなかったから捨てちゃった！」

ブチッ！

映司「よくも…ヨクモオレノアシタヲ！」 頭リアル鷹、腕リアル虎、足リアルバツタのオーズにナノブラスト

ユート「ボクノアシタヲカエセエエエエ！！！」 暴走ユートブ

ラスト

海藤「ゴメンゴメンゴメンゴメン！……！！……！！」

Wブラスト「アシタノカタキイイイ！……！！」

海藤「あんばさだああああ……！！……！！」

剣崎「あれは……」

クラウチ「ファイナルベントならぬプリンベント……！！」

ウルスラ「パンツベント……！！」

シズル「僕らもやるぞ」

エミリア「当然。」

海藤「もう勘弁してくれえ……！！」

シズル「やれ、ガロス軍団！」

エミリア「レグナントビーム！」

チュッドオオオオオオオオオオオオオオオオ……！！

海藤「アバアアアアアア……！！……！！」

ドクタースランプアラレちゃんって、原作の名前は『ドクタースランプ』だけだ

パンツベント：元ネタはハルルさんの『おいでよライダータウン！』のパンツミラクル。誤解しないでいただきたい。ちゃんと許可はもらいました。

通常時（パンツが風に飛ばされた時等）は身体能力が極限まで跳ね上がるのみだが、映司の怒りが頂点に達すると頭リアル鷹、腕リアル虎、足リアルバッタの『リアルタバコンボ』にナノブラスト。この時の戦闘力は完全復活した5人のグリードを秒殺できるほど。ブラストユートがドラゴンファイアーストームなら映司は疾風弾である。

エミリア「喜んで行きます！」

海藤「態度激へんごふああ！」 ゴミバケツの中から登場し、ルミアに殴られる

E3「ブエツクシヨオオオオン！」

カレン「大丈夫か？」

合宿当日

エミリア「ここで待てっていわれてたよね？」

シズル「なんかいやな予感が」

遊星「待たせたな。案内を任されてる不動遊星だ。今からお前達には旅館で一泊二日の勉強合宿をしてもらう。」

ルミア「それにしても、大きな旅館ですね。お金かかったんでしょっ？」

遊星「それはもう。さあ、その入り口をくぐった瞬間から合宿はスタートだ。気を引き締めろ。」

ユート「よし、やるぞ！」

合宿スタート！

エミリア「いや 綺麗だねえ。」 微笑む

デデン

『エミリア O U T』

エミリア「え？」

遊星「言い忘れていたが、ここで笑ったらM S F兵士にケツをぶたれる。」

エミリア「早く言え！」

バシン！

エミリア「あ痛あ！」

五分後

遊星「さあ、ここがお前達の部屋だ。」

ガチャリ

ユート「何だ、普通の部屋じゃないか。」

遊星「俺が呼びに来るまで待機している。」 立ち去る

シズル「机とテレビがあるな……」

エミリア「引き出しになんかあるんじゃないの？暇つぶしの道具。」
引き出しを開ける

皆「……ブッ！」「……」 相川ムッコロフェイスのドアップパ
ネルが入った

デデン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「痛い！」

ユート「あおっ！」

シズル「ほげえ！」

ルミア「はあん！」

エミリア「お尻痛い……」

ルミア「1発でこれって……終わった時にはどうなってるだろう。」

ユート「見る！DVDあるぞ！」

シズル「怪しい！」

エミリア「いいじゃん見ようよー」 デッキに挿入

相川「全員アウトでシズルがタイキック！逆らったらスタッフムッ
コロス！」

デデーン

『エミリア ルミア ユート OUT』

『シズル タイキック』

バシン！

エミリア「痛あ！」

ユート「おうつ！」

ルミア「あふん！」

ドガン！ドゴン！ マジで2発蹴られる

シズル「ギヤアアアアア！！！！！」

エミリア「前途多難な感じ……」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 1 (前書き)

ただいまのケツを叩かれた回数(キック込み)

エミリア：3発

ユート：2発

ルミア：2発

シズル：3発(内タイキック2発)

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 1

遊星「お前達、最初の勉強タイムだ。」

エミリア「嫌だアアアアアアア」

ルミア「あきらめなさい。私達にもう選択の権利はないのよ。」

シズル「まあ、頑張ろう。」

ユート「やるぞー！」

数分後

真木「一時間目は理科です。シズルさん号令を。」

シズル「起立！礼！着席！」

真木「では最初に、軽くあなた方の実力を試させていただきます。
15分間テストに挑んでああああああ！！！！！！！！」 窓から
の突風でキヨちゃんが吹っ飛ぶ

ルミア&ユート「ぶぶっ」「

デデーン

『ルミア ユート O U T』

バシン！

ユート「おあっ！」

ルミア「あひい！」

エミリア「ルミアって、ぶたれた時の声がいちいちエロいよね。」

シズル「またルミアファンからバッシングが来そうなネタを……」

真木「そ、それでは……始め！」

エミリア「よし！理科は得意分野！」

シズル「一瞬で終わらせる！」

バッ！

エミリア & a m p : シズル「……………さっぱり分からん……………」

チュッドーン！

ルミア「撃沈した！」

ユート「ぷっ」

デデン

『ユート O U T』

バシン！

ユート「いったあ！」

真木「私語は慎む！」

20分後

真木「では結果発表。」

エミリア「ドキドキ」

シズル「そわそわ」

ユート「わくわく」

ルミア「はらはら」

真木「……ルミア・ウェーバー 78点！」

ルミア「ほっ」 胸を撫で下ろす

真木「……ユート・ユン・ユンカース 62点！」

ユート「どんなもんだ！」 胸を張る

真木「……エミリア・パーシバル 2点！」

エミリア「ウゾダンドコードン！」 爆沈

真木「……シズル・シュウ 3点！」

シズル「オンドウルルラギッタンディスカー！」 轟沈

ルミア「ブフフッ」

デデーン

『ルミア OUT』

バシン！

ルミア「はひい！」

真木「では授業を始めます。」

エミリア & a m p : シズル 「……………」 燃え尽きる

ルミア 「元気出しなさいよ。」

ユート 「エミリア、すぐに調子戻るって！」

遊星 「次は昼食だ。マナーに気をつけろよ。」

エミリア 「よっしゃあ飯だあ！」 復活

大広間

ルミア「大広間で4人だけって、寂しいわね。」 座布団に座る

ブーブークッション『ブッ』

エミリア「フフッ」

デデーン

『エミリア OUT』

バシン！

エミリア「いつてえ！」

シズル「とにかく、頂きます。」

ルミア& a m p・エミリア& a m p・ユート「」「頂きます」「」

ユート「あ、音楽だ。」

（ナギサ、切れたマイクでジャーニースルーザディケイドを熱唱）

エミリア「アハハハハ！！！」

シズル「ブフッ！」

ルミア「ププッ」

「ユート・ブツ！」

デ
デ
ー
ン

全員 OUT

バ
シ
ン
！

エミリア「オアア！」

ユート「あおっ！」

シズル「いったあ！」

ルミア「あはあん！」

ガッシャアァン！
ルミアがこけて、お膳を全部ひっくり返す

エミリア「アアアアアアアアアアアア！！！！！あたしのご飯がアアアアあ！！！！」

ユート「僕の……プリン……わなわな」

シズル「ここでプリンベントはやめろ！ 僕らが死ぬ！」

ユートを押さえる

ユート「わなわなわなわなわなわなわな……」

エミリア「誰かアアアア！！パンツベント・映司持ってきてえエ
エエエエ！！！！」

ルミア「もうお尻が……限界……」

仕掛け人部屋
クラウチ「おい！パンツベントはまだか！」

スネーク「そう簡単に呼べるもんじゃない！」

アंक「この際ガメルでもいいだろ！」

カザリ「いや無理だよ。ガメルじゃ止まんないよ。」

士「ここはガードベント・海藤を盾に使え！」

海藤「君は僕を何だと思ってるんだ？」

士「コソ泥」

クラウド「ルミアのストーカー」

スネーク「顔にライドプレート刺さりまくって血の気が無くなった
青白い奴」

アंक「バイクなし」

カザリ「頭脳泥棒」

海藤「orz」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 2 (前書き)

ただいまのケツをぶたれた回数(キック込み)

エミリア: 5 発

ユート: 5 発

ルミア: 5 発

シズル: 4 発 (内タイキック 2 発)

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 2

遊星「突然だが、この温泉旅館を陰から支えている人たちを知っているか？」

ルミア「受付の人たちですよね？」

遊星「正解。という事で、社会勉強の一環としてこのビデオを見てもらう。」 DVDをルミアに渡して退室

エミリア「怪しすぎる！」

ユート「でもここで見ないとテレビ的、あつ違った小説的にダメなんじゃないか？」

シズル「ここは腹を括って見るしかない。」

ルミア「再生するわよ？準備はいいわね？」 デッキに挿入

『この温泉旅館のお客の中には、ここに不満を持つ人もいる。そのクレームに対応するのは、我々が誇るカリスマ受付嬢たちだ。これは、彼女達の1日を記録したものだ。』

エミリア「ものすごく嫌な予感がする」

『今回協力してくれるのは、鳴海亜樹子さん、アマンダ・バレンシアノ・リブレさんと』 カメラが移動

『ナギサさんだ。』

エミリア「ブホッ！」

デデーン

『エミリア O U T』

バシン！

エミリア「あうち！」

『トゥルルルルルル トゥルルルルル』

ナギサ『はい、こちら受付でございます。』

客1『ちよつと、ここの仲居さん、メチャクチャ態度悪いんだけど、どんな育て方してるの？』

ナギサ『はい、そ、その節につきましては、大変申し訳なく思ってるございで……！ございでございます。』

シズル「うぶっ」

デデーン

『シズル O U T』

バシン！

シズル「おあつ！」

ナギサ『そ、その節につきましては、大変申し訳なく思ってるございで……ございでございます』

客1『ほんとに済まないと思ってるんだったら、ちゃんと謝ってよ。』

ナギサ『は、はい……本日はお日頃もよく……賑々しく……』『ご参照しあげまして……親族一同大変喜んでおります。』

エミリア「ぶふふっ」

ユート「ぶぶぶ……」

ルミア「ぶほっ」

デデン

『エミリア ユート ルミア O U T』

バシン！

エミリア「あいたあ！」

ユート「ほげっ！ ぶふっ」

ルミア「あはあ！」

ナギサ『本日はお日頃もよく……賑々しく……』、ご参照申しあげ
まして……親族一同大変喜んでおります。』

客1『ふざけてんの!?!』

ナギサ『け、決してそんなことは……あの、私あまり勉強してない
もので………』

客1『もういいよ!』

ナギサ『ハイ、有難うございました。』

『トゥルルルルルル トゥルルルルル』

ナギサ『はい、こちら受付でございます。』

客2『ちよつと、朝起きたらかゆくてしょうがなかったんだけど、
ここ何かいるんじゃない?』

ナギサ『そ、その…あの、そのような、お虫は、あの、存じないで
ございますです』

客2『なんかないの?殺虫剤みたいなの』

ナギサ『あの、その部屋、お花がありますですよね?』

客2『花ってこれ?これをどうするのよ?』

ナギサ『あの、その花びらをあの……めし取っていただいて……ひ
としべ、ひとしべ……』

4人「ハッハッハ！」

デデーン

全員 OUT

バシン！

エミリア「ほええ！」

シズル「はうああ！」

「ユートーぶえ！」

ルミア「はひん！」

ナギサ「あの、その、それで…それで…」

客2「で、どいつなの?」

ナギサ「あの、その花びらをあの……スミマセン、これ以上はご存知あげないでございます……」

エミリア「ナギサ、まさかあそこまで喋るの苦手だとは……」

シズル「彼女が違う意味でだんだんかわいく見えてきた……」

ルミア「DVDは要注意ね。」

遊星「お前達、2回目の勉強タイムだ。」

シズル「もう嫌だ……」

数分後

マヤ「はい！では出席を取りまーす！えっと、ル……ミア・ウォー……バー」眼鏡の度があってない

ルミア「は、はい……」

シズル「ぷはっ」

デデーン

『シズル OUT』

バシン！

シズル「オウ！」

マヤ「エミリア・パー…ス…ボル…」

エミリア「はい……………」

マヤ「ユート…ユン…ヤン…ガス……………」

ユート「はい……………」

マヤ「では授業開始です。」 シズルは無視

ユート「ぷぷぷつ」

デデーン

『ユート O U T』

バシン！

ユート「あいてえ！」

マヤ「2時間目は社会です。グラールの歴史について学びたいと思います。えー、今日は500年戦争についてです。早速ですがこの戦争の引き金になったのは何か、分かる人はいますか？」

シズル「はい」

マヤ「ゼロなんてだめじゃない、これくらい基本中の基本よ。正解はヒューマンによる多民族への圧政、早い話が種族問題ね。」 シ

ズルは無視

エミリア「ふふふっ」

デデン

『エミリア OUT』

バシン！

エミリア「痛い！」

マヤ「そしてこの戦争では、今のグラールでは当たり前のあるものが開発されました。何だか分かる人？」

ユート「はい！」

マヤ「ユートくん？」

ユート「プリン！」

マヤ「残念！アウト！」

ユート「え？」

デデン

『ユート OUT』

バシン！

ユート「おわぁー！」

マヤ「正解はナノトランサーです。」

エミリア「うそーん！外れたらアウト？私聞いてない！」

マヤ「あ、言い忘れてたけど、次に回答者ゼロの場合は全員アウト。」

シズル「ウゾダドンドコドーン！！！」

マヤ「では3問目。500年戦争に勝利したのはどの種族？」

シズル「ハイ！」

マヤ「ゼロ、と……」シズルは無視

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「おうつー！」

ユート「ひゅっー！」

シズル「あえっー！」

ルミア「ひいんー！」

シズル「orz」

エミリア「元気だしなよ、明日があるよ！」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part3 (前書き)

ただいまのケツを叩かれた回数

エミリア：10発

ユート：10発

ルミア：8発

シズル：8発

エミリア「こ……これは負けらんない！」

遊星「では、ファンタシースターの『ふ』から！始め！」

（順番 エミリア ユート ルミア シズル）

エミリア「ふ菓子！」

ユート「シラヌイアカツキガ○ダム！」

ルミア「ムバ○ク大統領！」

シズル「ウガンダ！」

エミリア「ダークファルス！」

ユート「スイカ！」

ルミア「香取信○！」

シズル「ゴリラカンドロイド！」

エミリア「ド○イド！」

ユート「ドルバヴェール！」

ルミア「ルクセンブルク！」

シズル「久保泰斗！」

遊星「○って付けなかったからシズルの負け！」

デデー
ン

シズル
タイキック

ドガン！

シズル「おげえ！」

天道「よし、シズル以外の三人は来い、量を指定したい場合は遠慮なく言ってくれ。」

シズル「ウゾダドンドコドーン！」

三人「「「いっただっきまーす！」」」

エミリア「うーん ウマー……イ！」

ユート「天道って料理の天才だな！」

天道「当然だ。俺は天の道をゆく男だ。」

ルミア「凄い……どうやってたらこんな味を出せるんですか？」

シズル「甘い！甘すぎる！誰か辛いもの食べさせてええええ！！！」

「マヤ、はい特製麻婆豆腐！ほらあーん。」

シズル「オンドルルラギッタンディスカー……!!」

ぎて口から火を吐く

遊星「よし、次は風呂だ。男子は俺が、女子はマヤが案内する。」

マヤ「どっちも露天なんで、覗かれた時のために、女子はウェットスーツを着て入浴してもらいます！」

シズル「あゝ ああああああああああああ！！！！！！！！！！」

ユート「シズルドンマイ。」

男子風呂

シズル「ほう、なかなかいい風呂じゃないか。……ん？」

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド

海藤「あのー、ここ突貫工事中なんで別の風呂行ってもらえますか？」
「ドリルで仕切りの壁に穴をあける」

シズル「すいませんねー！あなたの頭を突貫工事しまーす！」海藤

を湯船に叩きこむ

海藤「ルミアさあああああああん!!!!!!!!!!」

ユート「うわっ！シズルの『ドキューン（自主規制）』ちっさ！」

シズル「わああ！言うなああ！」

エミリア「えー？シズルの何が何だってー？」

シズル「仕切りの向こうまで聞こえてるの？」

ユート「シズルの『ドキューン』が！僕よりちっさいんだ！僕より四つも年上なのに！」

エミリア「マジで！？シズルあっちの方は超お子様？」

シズル「僕の『ドキューン』を馬鹿にするな！」

エミリア「具体的にどれくらいちっさいの？シズルの『ドキューン』」
『。』

ルミア「女の子が気軽に『ドキューン』なんて言わないの！」

シズル「やめてくれ！気にしてるんだから！」

ルミア「エミリア、今普通に笑わなかった？」

デデー

『エミリア O U T』

エミリア『ちよっちよっちよっ！ウェットスーツにケツバツトはきついギヤアアアアアアア！…！』

ルミア『シズルの『ドキューン』って……はっ！笑っちゃった！』

デデー

『ルミア O U T』

バーン！

ルミア『あひいん！…！』

シズル「ルミアはMだな。」

ユート「間違いない。猿飛並みとまでは行かなくても、マダオぐらいとは並んでるな。」

シズル「おい、さっきから僕の『ドキューン』見ないでくれないか

「？」

ユート「エミリア！定期持っていないか？」

シズル「計る気かお前！『ドキューン』の長さ！」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part3 (後書き)

すみません。下ネタ入れてみました。

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 4 (前書き)

ただいまケツを叩かれた回数

エミリア：11発

ユート：10発

ルミア：9発

シズル：9発

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 4

エミリア「はぁーいいいお湯だったぁ…………ん？」

(怪しいボタンとDVDが部屋の机にスタンバイ)

ルミア「…………ボタン押してみる？」

シズル「おい、さりげなくMキャラアピッてるぞ。」

ユート「ルミアのドM趣味を抜きにしても、小説的に押さないとだめだろう。」

ルミア「ドって何よ!」

エミリア「で、誰が押す？」

皆「……………」

ルミア「ぼちつとな!」

ポーン

放送『遊ーー星ーーデュエルだぁぁぁ!!!』

ユート&シズル「ふふっ」

デデーン

『ユート シズル O U T』

バシン！

ユート「おあっ！」

シズル「えうっ！」

ルミア「なんだ、おのれディケイドとかだったら絶対笑ってたけど。」

エミリア「これは……ねえ？」

シズル「で、DVDはどうする？」

ルミア「さっきみたいなのだったらどうする？」

記憶（逆らったらスタッフムツコロス！）

シズル「どうせ僕がキックを喰らうのを期待してるんだろ？」

エミリア「とりあえず再生しよ。まずはそこから。」

芦川シヨウイチ『俺を呼ぶなアアアアアアアアアア！……！！……！！』

皆「……ブフッ！」「……」

デデーン

『全員 O U T』

バシン！

エミリア「いつたい！」

ユート「おう！」

シズル「うげえ！」

ルミア「はひいん！」

遊星「お前達、三回目の勉強タイムだ。」

ルミア「次は何が来るの……？」

銀時「えー三時間目は数学だ。お前らバカコンビのかつての得意科目つつーことで、ハイレベルな授業をするぜ。」

エミリア & a m p ; シズル「「orz」」

銀時「じゃあ早速実力を試すぜ。エミリア！ $(x+2)？$ を展開しろ！（ちなみに正解は x^2+4x+4 ）」

エミリア「展開ってなんだっけ……………」

銀時「はいアウトー！」

デデーン

『エミリア O U T』

バシン！

エミリア「おうー！」

シズル「はい！」

銀時「ハイシズル！」

シズル「『ドキューン』？+85452『ドキューン』+5644
6744654654！」

銀時「はい『ドキューン』マシンー！」

デデーン

『シズル 『ドキューン』マシン』

シズル「ちよっ！やめてくれ！僕の『ドキューン』が！」

ルミア「いいじゃない、そこで腫れたらあなたの『ドキューン』少しはおつきくなるんじゃないの？」

シズル「ふざけるな！そんな事したら最悪の場合僕は二度と『ドキ
ューン』とか『ドキューン』とか出来なくなるんだぞ！」

エミリア「ユート、定規あるから計つといて。」

「ユート、シズル、『ドキューン』出せ。」

シズル「嫌だ！」

銀時「お前ら、罰ゲームやつとけ。」

MSF兵士「サーイエッサー！」

バ
シ
イ
ン
！

シズル「ギヤアアアアアアアアアアアアアアアア！」

ド
サ
ッ

ルミア「だらしのないわね。」

シズル「女には分らないこの痛さ……」

エミリア「ルミア、ちよつとはあいつの事考えてあげないと、真木博士に頼んであんたが寝てる間に『ドキュン』股間に植え付けてもらつて思いつき蹴り上げるわよ。」

ルミア「ハアハアハア……悪くないかも……」

エミリア「すいませーん、ここにドMがいまーす！」

海藤「ルミアさあぁん！蹴りあげる作業はぜひ僕に……」

ユート「ファイナルベント！」 ミステーラスラッシュ

海藤「ヴォワァー!!」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 5 (前書き)

ただいまケツを叩かれた回数(キック、『ドキューン』マシン込み)

エミリア：13発

ユート：12発

ルミア：10発

シズル：12発

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 5

遊星「お前達、この旅館には、お抱えのパフォーマーがいる。少し観に行くぞ。」

エミリア「うっわ……お笑いとかだったら確実にアウトじゃん。」

大広間

士「長らくお待たせしました。まずはこのかたです!どうぞ!」

『イエイエイエイエイイーイー!』 M-1のハヤシ

(ナギサ、切れたマイクでジャーニスルーザディケイドを熱唱)

シズル & ルミア「ぶふふっ」

デデン

『シズル ルミア OUT』

バシン!

シズル「あう!」

ルミア「はひい！」

エミリア「同系ネタで二度来るとは……………」

ユート「これは今後も出てくるかも……………」

士「では、つぎはこの方！どうぞ！」

『イエイエイエイエイエイエーイー！！』

（地獄兄弟、映画『天使にラブソングを』の主題歌（本来は女声のゴスペル）を合唱）

皆「……………ぶふっ！……………」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「えああ！」

ユート「おげえ！」

シズル「はうっ！」

ルミア「あっひい！」

エミリア「歌系って何度めだろう……」

士「では、次はこの方！どうぞ！」

『イエイエイエイエイエイエイイーイー！』

音楽『デデデンデデデンデデデンデデデンデデデンデデデン
デデデン』

剣崎「ウェーイー！！ウェーイー！！ウェーイー！！割れてるよ〜」
「小島よしおルックス

皆「「「ぶっはっはっは！！！！」」」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「おええ！」

ユート「あああ！」

シズル「ほげえ！」

ルミア「はうん！」

ルミア「何か新しい世界が開けてきたかも……」

[illegible]

土「最後はこの方！」

カズ「カメンライダーストライク、ジェームズ・トレードモアのものだね！」

シズル「こ、これは……！」

カズ「さあ！祭りの時間だあ！」

[illegible]

デデー
ン

全員 OUT

バ
シ
ン
！

エミリア「あいて！」

「ユー・ト・ほげえ！」

デデン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「ひええ！」

ユート「あごお！」

シズル「おげあ！」

ルミア「にゃひい！」

（寝室 四人は浴衣に着替える）

遊星「それじゃあ、就寝時間だ。電気消すぞ。」 部屋を出る

エミリア「おやすみー。」

（布団の順番：入り口側から ルミア エミリア ユート シズル）

ルミア「何で部屋分けてくれないの？」

シズル「とにかく寝ろ。明日もあるんだから。」

皆「……」

鳴滝（放送）『おのれディケイドおおおおお！……！』

皆「……ぶふっ！」「」「」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「ふええ！」

ユート「ごああ！」

シズル「あがぁ！」

ルミア「ひいん！」

エミリア「寝る時まで仕掛けが……………」

シズル「きつつい……………」

ルチアーノ（放送）『ちょービックリだよ!』

皆「……………」

相川（放送）『そんなこと言ってみろ……………オルアクサマヲミュッコロ、あつ噛んだ』

皆「……………ぶはははは!……………」

デデン

『全員 OUT』

バシン!

エミリア「あげえ!」

ユート「ほごああ!」

シズル「あげおお!」

ルミア「あふうん!」

数分後

シズル「やっと静まった……」

エミリア「お休み。」

ユート「おわあ！ なっ、なんだ？」

ルミア「あふう！ 重い重い重い重い！」

シズル「うわあ！ なんだ？」

エミリア「ぬふふー！ このケーキみんなウマーイ……」

ぐるぐるぐる

ルミア「エミリア、寝像悪すぎ……」

シズル「僕の所まで転がってきた……」

ユート「ちょっ！エミリア！パンツ見えてるぞ！」

シズル「うらやましいい……あ……やば……」

（四時間後 やつと全員就寝）

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 6 (前書き)

ただいまケツを叩かれた回数

エミリア：20発

ユート：19発

シズル：20発

ルミア：19発

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 part 6

シズル「……うー……エミリアのせいで全然寝れなかった……」

ルミア「起きなさいエミリ……」

(エミリア、ユートの上で寝てる。)

シズル「……どうやらそう言う事らしいな。」

ルミア「いつの間に……」

ユート「う……ん……どうおああ……！エミリアなんで僕の上に……」

シズル「故意じゃなかったのか。」

ルミア「つまんないの。」

エミリア「ふあああ……良く寝た。」

(四人、黙って布団を畳む)

デデン

皆「「「「! ! ! !」」」」

遊星（放送）『なーんちゃって。十分後に朝食だ。大広間に来い。』

エミリア「あー おなか減った ! ! ! !」

シズル「この無芸大食野郎が。」

エミリア「何だこのリトル『ドキューン』が!」

ルミア「ふふっ」

デデン

『ルミア OUT』

バシン!

ルミア「ふえん!」

遊星「朝食はバイキング形式だ。好きな物を取って食べるといい。
おかわりもしていいぞ。」

エミリア「しゃあああああ！……！！！」

ルミア「あ、スクランブルエッグがある。」

シズル「……朝からコルトバステーキがある……」

ユート「プリン プリンー！」

エミリア「こらー！少しはほかの物とりなさ……あれ？ハムサンドに
なんかついてる……何これ？マイク？」

ぼん！！ サンドイッチが爆発

エミリア「ひえああ！……」

ユート「ぶっ！」

シズル「ぷくくっ」

デデーン

『ユート シズル O U T』

バシン！

ユート「いてえ！」

シズル「あうち！」

エミリア「あゝ ああああああ！……！あたしのサンドイッチいいいいいい！……！」

ルミア「もぐもぐ」 黙々と食事中

シズル「エミリア落ち着け！まだあるだろサンドイッチくらい！」

ルミア「もぐもぐ」 黙々と食事中

エミリア「ルミアはなんか喋れ！」

ルミア「…なんか。」

エミリア& a m p・ユート& a m p・シズル「」「ぶぶっ！……」「」

デデン

『エミリア ユート シズル O U T』

バシン！

エミリア「あう！」

ユート「おう！」

シズル「おああ！」

遊星「よし、食事タイム終了。早速今日最初のお勉強タイムだ。」

数分後

エルザ「よし、今回は国語だ。」

エルザ2「頑張ってください！」

エミリア「ちょっと？エルザが二人いるんだけど？」

エルザ2「あ、私はミカです。真木博士が作ってくれた機械の体を使わせてもらっています。」

シズル「ほう、で、中の人関係でエルザになった訳か？」

ミカ「そう言う事です。」

エルザ「さあ、授業を始めるぞ！」 女教師ルックスに換装

シズル「やる気満々だな。」

ミカ「今日はニューデイズ古典文学です。手元のプリントを見てください。」

（手元のプリントは枕草子。）

エルザ「さあ、この作品の作者が分かるものはいるか？」

ルミア「はい！」

エルザ「ルミア？」

ルミア「清少にゃ言、あ、噛んだ。」

エルザ「……アウトだな。」

ミカ「心が痛みますが、アウトですね。」

デデー

『ルミア O U T』

バシン！

ルミア「はひい！」

エルザ「正解は清少納言だ。」

エミリア「基準きつくない？噛んだらアウトって。」

ミカ「答えが違ったらタイキック、誤答を噛んだらお尻にヴィタス・リーチャーです。」

ユート「ウゾダンドコードン！」

ルミア「ハアハア……悪くないかも……」

エミリア「あゝ ああああああああ……！！！！！！！！ルミアのM心が刺激されてるうウウウウウウ！！！」

エルザ「では次の問題だ。『春はあけぼの』は現代文にどう訳す？」

シズル「はい！」

エルザ「シズル？」

シズル「春は曙が素敵。」

エルザ「正解！」

ミカ「では三問目。この作品は何時代の物？」

ルミア「はい！」

ミカ「ルミアさん？」

ルミア「かみゃくら時代！」

ミカ「誤答を噛みましね……」

エルザ「ヴィタスリーチャー！」

デデン

『ルミア ヴィタスリーチャー』

バシン！

ルミア「はっひいん！もつと私を殴ってえ！」

シズル「ルミアアアアアアアアアアア！……戻って来い！ルミアアアアアアアアアア！……！」

エルザ「それでは、授業終了だ。」

シズル& a m p・エミリア「ちーん……」 撃沈

ユート「二人とも、もともと文系は苦手だもんな。」

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 ファイナル（前書き）

ただいまケツを叩かれた回数

エミリア：2 1 発

ユート：2 1 発

シズル：2 2 発

ルミア：2 2 発

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 ファイナル

遊星「それぢわ 確認テストを はじめる！」

エミリア「ちよっ、何でガ○ツ風？」

エルザ「これまで勉強した四教科のテストだ。どれくらい理解しているかすぐに分かるからな。」

遊星「まずは、数学。始め！」

ババツ！

エミリア（えー、第一問は、と……）

問題1『シズル君とルミアさんはブック○プラザでアダルトビデオを合わせて35本買いました。しかし、その内いくらかは新作だったので、シズル君は4本、ルミアさんは6本を翌日返却しました。シズル君が借りた本数をx、ルミアさんが借りた本数をyとして、二人が何本のアダルトビデオを借りたか求めなさい。』

エミリア& a m p・ユート「「ぶふっ！」」

デデーン

『エミリア ユート O U T』

バシン！

ルミア「よっしゃあ！」

遊星「ユート、四教科合計299点！」

ユート「あああー！」

遊星「エミリア……四教科合計6点……」

エミリア「ちゅっどーん！」 撃沈

遊星「シズル……四教科合5点……」

シズル「どつかーん！」 爆沈

翔太郎「そして、いよいよ合宿の終わりがやってきた……」

遊星「お前達、よく頑張ったな。合宿はもうすぐ終わりだ。エミリアから感想を述べる。」

エミリア「ルミアの性癖がショッキングすぎてここでのほかの記憶が吹っ飛んだ……」

ユート「点数はそんなでもなかったけど、プリンがいっぱい食べれたから結果オーライだ！」

シズル「僕が意外と勉強嫌いだったと分かった……」

ルミア「おかげさまで新しい世界にたどりつけました！」

遊星「では旅館を出る。出口をくぐったら、もう笑ってもオーケーだ。」

そして出口

エミリア「もうごめんだわ……」

ルミア「そう？私は楽しか」

シズル「これ以上は言っな！」

ユート「ん？何か聞こえないか？」

『デーンデーン チャンチャランチャーン チャーララーララー
テレレーテレレーテーーー』

皆「……これは……！」「……」

ナギサ「みあーげるっほっしー！それーそれーのーれきーしがー！
かーがーやいーてー！」 マイクが切れてる

皆「……ぶっはっはっは！」「……」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

エミリア「あいたあ！」

ユート「ほげえ！」

シズル「あうち！」

ルミア「あつふん！もっと！もっとぶったいて！そして私をメス豚野郎と蔑んで！」

エミリア（ルミア……お願い元に戻って……）

絶対に笑ってはいけない勉強合宿 ファイナル（後書き）

ハイ、笑ってはいけない終了です。ルミアの性癖については、真面目キャラが壊れたら面白いだろうなあという安直な考えから思いつきました。

ちよっ、ルミアファンの方々、分かった、分かったからバースバスターとかスカルソーサラーとか向けないで。

あと、コラボ募集します。

海東「ウソオオオオオン!?!」

ユート「ファイナルベント!」 海東に容赦なくキック

ドゴオン!

海東「らとらーたあ!?!」

ポーン! パンツとプリンが飛んでいく

映司& a m p・ユート「ああああ明日アアア!?!?!?!」

ゼイビアックス「ハッハッハ!見たかライダーども!」

キット「うつゝ、こいつ……強すぎる……」

レン「あきらめるな……」

ケイス「そうよ……ここで私達が負けたら地球まで奴の手に落ちる……」

アダム「皆が来るまで持ちこたえるんだ……ん？なんだあれ？」

ピラリ

ゼイビアックス「何だこれは？お前達のパンツか？」

ケイス「男物だから私のじゃないわね。」

レン「俺のでもないぞ。」

キット「僕のじゃないよ。」

アダム「俺のはもう少し控え目だ。」

映司「ああああああ明日アア……！！」 ゼイビアックスに生
身でベノクラッシュ

ゼイビアックス「がたとらばあああああ！」

アドベントマスター「……これは……リンクベントいらな……」

マスターゼロ「形があるから壊すだけだ！」

ナツ「ふざけんな！そんな事させねえ！……ん？」

ピューン

ナツ「プリン？」

マスターゼロ「ほいつ」 プリンをキャッチ

ユート「ああああボクアシタああああ……！！！！」 ユー
トブラスト

チュツドオオオオオオン！

マスターゼロ「たかきりばあああ……！！！！」

ナツ「こいつ……（違う意味でも）つええ！」

映司「良かった……良かった！」

ユート「僕の……僕の明日………！」

エミリア「ダブルベント最強！」

医務室

マヤ「いったい何があったの？」

ゼビアクス「突然生身でベノクラッシュを……………」

マスターゼロ「突然エンドオブザワールドを……………」

マヤ「わけが分からない……………」

ユート「プリン美味ーい！」

映司「ふんふふーん……………」 パンツを洗濯

クラウチ「こいつら……………」

ウルスラ「コアを超えてるかも……………」

ライア「いや、もうラス（アメリカ版オーディン）を超えてるって……………」

グ
イ
ッ
ク
&
a
m
p
・
コ
ア
「
o
r
z
」

エピソード1とエピソード2でシズルのキャラが変わってると思うのは僕だけか？

士「ではお待たせしました！ただいまより、『シズルの部屋をガサ入れして趣味を暴こう大会』を開催いたします！」

シズル「もがーもがー！」 縛られてる

ルミア「何が出てくるかしら……鞭とか…ロウソクとか…」

E3「誰かこの人をSM スパイラルから解き放ってえエエエエエ
！……！」

ユート「美味しい物とかあるかな？」

エミリア「よっしゃああ！！大恥かせてやる！」

ミカ「エミリアの笑顔が黒いです……」

士「一番多くの物を見つけた優勝者には賞金50万メセタ！時間は1時間！では……始め！」

刹那「こ、これは……ガンダ○ウォーの女子キャラのカードが20枚以上……」

アレルヤ「……figmaメルディ（実際には存在しません）だ……それも8個……」

クラウド「おい！ベッドの下から大量のラノベが！」

グレイ「……レー○ガンのフィギュアが大量にあったぞ……」

映司「見てユート！S・H・ハナが34個もあったぞ！」

エミリア「インデッ○スのポスターが……ひいふうみい……27枚……」

シズル「モガアアアアアアアアア！！！！！！！」

士「結論……シズルの趣味は……アレだな……」

夏ミカン「ヲタ？」

士「それぞれ。」

シズル「グモオオオオ！！！！！！！」

シズル「もがー（まずほいてえええ！父さあああああ
ん！）！！！」

ナツメ「なんてことだ……」 部屋から退場

シズル「うごおおおお（ちょっとオオオオオ放置プレイはやめ
てえええ！！！！）！！！！！」

5時間後

エミリア「さあてどうなってるかなあ？」

シズル「……………」 完全にハートブレイク

エミリア&ユート「heart breaker!!」

ミカ「ごめんなさい……」

エピソード1とエピソード2でシズルのキャラが変わってると思っているのは僕だけか？（後書き）

近々歌唱大会をやるうと思うのですが、こいつらのユニット名を募集してます！

エミリア&シズル

映司&ユート

ダブルアंक

クラウチ&ウルスラ

E3&カレン&ヒューガ

翔太郎&フィリップ

もちろん単独で出場する奴らもいます！

歌わせる曲は、リクエストがあれば分かる範囲で実現するかも！ちなみに作者は流行歌とか全く知らないので、エグザイルとかAKBみたいなのは無理です。出来ればこの小説の出版作品の関係の歌で。

あと、公平性重視という事で、自分の歌は禁止ってルールです。

空想科学世界で強盗をやるやつらはドラクエの主人公より勇者である。

（前書き

歌唱大会のユニット名と、曲のリクエストはまだまだ受け付けてお
ります。

あと最初に言つときます。5103とナギサはデキとります。理由
？同じ地獄に叩き落とされたこいつらをくつつけたら面白いだろう
と……

ちよつ、ナギサファンの方々はブレストキャノンとかギガキャノ
ンとか向けないで。

キング「おいおい物騒なものをこつち向けるな。俺は下りるぜ。」

ワイナール「俺は狙った獲物は逃さない。」

ドオン！

キング「ぎゃあー！」

ワイナール「ベントしてやる」

『ファイナルベント！』

ドオンドオンドオンドオン！

キング「ヴォエエエエエー！！！！！」

（ドラゴンナイト9話風に）

剣崎「オンドウルルラギッタンディスカー！」

ルミア「ハアハア…私今縛られてる…ダメもうたまんない興奮してきた…ハアハア」

5103「すまないナギサ…初デートだつて言つのに……」

ナギサ「いや、悪いのはあの屑どもだ……」

ワイナル「ナギサちゃん？君最近口悪くない？」

真司「ローン！」

強盗2「な？まともな人質がない。」

（強盗にはミカが見えてない）

エミリア「もー、切り札のユートはGANTZで餌付けされてシズルと一緒に男の本能丸出しだし、どうしたらいいのよ……」

強盗1「だったらこうしたらいいじゃねえか。オイ店員よー早く金ださねえと人質全員こうなるぜえ！」ルミアをゴムの棒で殴る

店員「あ、あの、失礼ですが……むしろ喜んでません？」

ルミア「あひいい！！もつとーもつと私を殴つてえ！」

強盗1「どんだけMなんだこいつ！」

シズル「何をするんだ！彼女を殴りまわして興奮していいのは僕だけだ！僕にも後でやらせる！」

エミリア「いやキレるとこ、そこ？」

ユート「じゃあその後は僕が引き受けるぞ！」 鼻血ダラダラ

エミリア「ユウウウトオオオオオ！！！あんたいつの間に目覚めたのおおお！！！！」

ユート「勘違いするな！僕はルミアに『ドキューン』とか『ドキューン』とかしたりしないぞ！ただ全裸にして全身撫でまわしたいだけだ！」

エミリア「お願い戻ってきてえええエエエエエ！！！！！！！！」

強盗1「お前の言ってることが分かってきた……」

強盗2「だろ？」

照井「観念して出て来い！お前達はもうすでに包囲されている！お袋さんは泣いてるぞ！」

強盗2「こ、こっちには人質がいるぞ！撃てるものなら撃ってみる！」

照井「まいったな…どうするルウ？」

ルウ「こういうときは犯人ではなく人質を撃ちましょう。構え。うて。」

ガーディアンズ「「「サーイエッサー！」「」」

ズガガガガガガガガガガガガガ！……！

エミリア&mp;5103&mp;強盗ズ「「「ぎゃああああああああ！！！！撃つてきたアアアア！！！！」」「」」

照井「何をする（ムス力風に）！」

ルウ「返事がなかったので撃つても良いのかと。」

照井「アホか！」 「なんでやねん」スリッパでルウを殴る

ルウ「奥さんと同じスリッパですか……こういうときはヒューヒュー！奥さんとラブラブみたいですなー！」

エミリア「ルウがいつになく感情豊か……」

リュウガ「……見ないふり見ないふり。」 ガラス窓の中から観察

真司「いやちよつと待て助けるだろ普通うううう！！！！」

リュウガ「……めんどい。無駄な汗かきたくない。」

真司「柿〇ー？」

キット「この辺で出とく？」

レン「行くぞキット！」

キット「オーケー！」

キット&レン「そこまでだ（キメッ）！」
ベンタラから登場

強盗ズ「ギヤアアアアゲルニユートとレイドラグウウウン
！」「
気絶

キット「むかつ」

レン「いらっ」

ナギサ「確かに色は似てるような……」

照井「絶望がお前達のゴールだ。」

強盗2「いやお前何もしてなくね？」

ルウ「これは私の手柄です。」

照井「それだけは100パーセントない。」

キット「おい、誰がゲルニユートだって？」

レン「誰がレイドラグーンだって？」

強盗ズ「……やべ」

音痴なキャラは最近少なくなってきた。

エミリア「歌唱大会？」

クラウチ「ああ。この辺の文化祭にかこつけて。」

ウルスラ「文化祭？そんなのあったっけ？」

クラウチ「あるよ！」

シズル「で、優勝賞品は？」

クラウチ「賞金100万メセタもしくは欲しいものの一つ。」

ユート「映司！組んで出場するぞ！」

映司「ああ！優勝して揚饅頭1年分だ！」

エミリア「ルミア、一緒に」

ルミア「あ、私は単独で。」

エミリア「……………じゃあシズル……………」

シズル「じゃあって何だ……………」

E3「俺らも出るぞ！」

カレン「ああ！」

エミリア「で、歌う曲は『only my railgun』って決まったけど……」

シズル「……ほかのチーム偵察してみるか？」

映司「まずは選曲だけど、俺はデュエットがいいと思っただけど。」

ユート「確かに僕の中の人は女だからな。」

映司「で、候補を用意してきたんだけど。」

エミリア（意外と真面目。この二人は要注意ね）

アंक「おいお前！優勝賞品変えろ！何だ『僕の体』って！」

アंक「君こそ『俺の体』ってなんだい？」

シズル（こいつらはほっとしても大丈夫そうだな）

猿飛「ほら！そんな声で勝てると思っての！」　鞭でルミアを殴る

ルミア「はひい！ひゃいスイマセン！」

猿飛「発声練習からそんなじゃダメじゃない！ほらもっとエロい感じで！」

ルミア「ひゃいいい！」

エミリア（どんな発声練習してんだお前らアアアアアアア）

エミリア「結論。半分くらいは驚異じゃないね。」

シズル「というか、明らかなアホがいたな。」

エミリア「ルミアとか？」

エルザ「せーの！」

5103「マメマメマメマアーーーーー」

ナギサ「何やってるんだ？」

5103「発声練習だ。」

ナギサ「もう5時間ぐらいやってないか？」

エルザ「後藤、ほら今のうちに。」

5103「ああ。…………ナギサ、これ」

ナギサ「これって……チケット？」

5103「最前列の特等席だ。優勝したら伝えたいことがある。来てほしい。」

ナギサ「あ、ああ……」

ハッピー「でえきてえる」

試験前日だけ徹夜してもはつきり言って無駄。(前書き)

キング「コラボ募集したら早速リクエストがあったので、しばらくこいつらコラボ連中が出てきまーす！」

永司「やっほー！カイルさんの「仮面ライダー〇〇〇 オメガブレイクストーリー」から参戦！」

リイマジアंक「……永司に同じく。」

澤木翔太郎「うつす。カイルさんの「仮面ライダー NEW S TOR Y」から参戦。」

リイマジフィリップ「やあ。翔太郎に同じく。」

聖夜「おっす。空刀さんの「フェアリーテイル 空の刀を目指すは雷の神」から参戦。」

エミリア「またメンバーふえんの？ウゾダンドコードン……」

試験前日だけ徹夜してもはつきり言って無駄。

歌唱大会前日

ジュビア「……………」

ユート「何かあったのか？」

ジュビア「…………ぐすっ、 그레이様に… 그레이様に一緒に出場しまし
ようって言ったら……………」

그레이『ワリい。おれ複数で歌うの苦手だから。ほか当たってくれ。』

ジュビア「って言われました……………」

ユート「好きな人にそれ言われるのはきつい……………」 PSGではエ
ミリアが好き

ジュビア「恋する人には分かりますよねやっぱり!」

猿飛「安心しなさい!彼のハートを射止める方法を私が伝授」

ジュビア「ウォータースライサー!」

ユート「ストーカーは消える。」

ブランバイザー『ア ターック ベーント!』

ブランウイング「ピィィィィィィィ！」

ズドン！

猿飛「だにーちよお！」

ジュビア「……こうなったら私が単独で出場します！優勝して、私と一緒に歌わなかった事を後悔させてやります！」

ユート「結局一人で解決してんじゃん……」

聖夜「…………だからって何で俺がつきあわさるんだアアアアアア！！」

ジュビア「選んだのは何となくです！」

聖夜「言っとくけど俺も出場するよ？ほかのコラボ連中と出るよ？」

ジュビア「黙りなさい！さあ一曲目行きます！」

聖夜「俺は何すればいいんだよ……」

永司「あれ？聖夜は？」

澤木翔太郎「なんかジュービアに『特訓に付き合わないとウォーターロックスの刑』って言われたらしい。」

アंक「はっ、俺なら絶対断ってるがな。」

フィリップ「こうなったら僕らだけでやるよ！四人でも！やってやれない 事はない！」 5・7・5

永司「じゃあまずは慣らしでこの曲を……」

エミリア「なんか参加者ふえてるし。」

シズル「大丈夫だ！僕らは選曲の時点で勝っているから！」

エミリア「あたしはHEART BREAKERの方が良かったけど。あ、そう言えばシズル、あんた優勝したら何が欲しいの？あたしはトリ○バーガー！」

シズル「愚問を！かつてを上回る演算能力に決まっている！」

エミリア「未練ぶかつ！あたしはもうバカになったこと受け入れてるけど。」

シズル「バカな博士が何処にいる！」

エミリア「何なら博士号返上してもいいって思ってるけど。」

シズル「……君はもうあれだな……ダメだな……」

エミリア「いや、演算能力が賞品でもらえると思ってるアンタの方が駄目だと思う。」

シズル「何だと！ルーシィとキャラ被りまくってるくせに生意気な！！」

エミリア「ムギイイイイ！……！気にしてる事を言っ たなこの
リトル『ドキューン』が！」

E3 「よし！一通りはこんなもんかな。」

ヒューガ「はい。イーサンが前に出過ぎてるような気がしますかね。」

カレン「あとは明日の本番だ。」

アंक「この賞品変えろって言ってたんだろ！」

アंक「君が変えなよ！」

フィリップ（オリジナル）「よし、だいぶ良くなってきたね翔太郎。」

翔太郎「ああ！賞金は俺らのもんだ！」

映司「饅頭うまうま」

ユート「プリンサイコー」

ルミア「今度こそお兄ちゃんに勝ってやる……」

クラウチ「まだやるぞウルスラ！」

ウルスラ「上等よ！」

5103「絶対優勝して……」

ナギサ「頑張れよ。」

そして大会当日！

士「お待たせしました！ただいまより『第一回クラッド6歌唱大会』を開催いたします！」

（ステージの背後には巨大なガ○ツ）

士「では審査員を紹介します！ウヴァ、カザリ、ガメル、そして審査員長はメズールです！」

（グリード一家、ガ○ツから出てきた席に座っている）

ユウスケ「そんな審査員で大丈夫か（『そんな装備で大丈夫か』的な感じで）」

シンジ「大丈夫だ。問題ない。」

士「ではファンファールとしてこの曲を！」

『あーたーらしいーあーさがっきった きーばーおのーあーさーが……』

シズル「僕の前であの曲鳴らさないでほしい。」

エミリア「PSGで自分の出番がほとんどなかったからって落ち込まない。」

人気投票：ファンタシースター枠（前書き）

キング「中途半端な感じの時期に、人気投票開催！」

エミリア「第一回はファンタシースター枠です。」

シズル「僕に票をよろしくお願いしまアす！」

ユート「という訳で、投票時にネタとかがこんがらがったりしないように、キャラの捏造設定をまとめてみたぞ。」

キング「オリジナルって言って頼むから！」

人気投票：ファンタシースター枠

オリジナル設定

エミリア

1：ドバカ

2：メシ大好き

3：エクスカリバーの被害者

ユート

1：白鳥のデッキ

2：ユートブラスト

3：プリンベント

4：ノーマルヘンタイ

5：映司と仲良し

ルミア

ドM

シズル

1：ドアホ

2：S

3：リトル『ドキューン』

ミカ

1：時々機械の体

2：エクスカリバーの被害者

ナギサ

5103とでえきてえる

書き洩らしがあつたら言つてくだちい

ちよつ、読者の方々、分かったから。短すぎる事は謝るからXガンとかガンツソードとか向けないで。やばい逃げ…あれ！？誰だYガン撃った奴！ちよつ、動けない動けない！やめて！Xガンは！Xガンはやばいって！ちよつと！聞いてんの？ってあああ！ガンツバイクが迫ってきてrギヤアアアア！！！！

人気投票：ファンタシースター枠（後書き）

エミリア「一番捏造設定が多いのってユートだったんだ。」

シズル「でも崩壊度はルミアが一番ひどい。」

ナギサ「エミリア、サブヒロインに蹴落とされた恨み、今こそ晴らしてくれる！」

エミリア「上等！返り討ちにしてやんよ！」

シズル「暴力反対！」

ユート「暴力変態！」

ナギサ「ナギサラリアットオ！」

エミリア「エグナーウィップウ！」

ナギサ「水樹コブラツイスト！」

エミリア「斎藤サイコデスロック！」

シズル「ナギサ、斬らないんだ！」

ウヴァ「息は割とあっていたと思うが。」

カザリ「イーサンが前に出過ぎた感あるね。」

ガメル「息 あった」

メズール「1組目から結構レベル高かったわ。これはほかの選手の
プレッシャーになるかもね。」

士「カザリの評価が少し芳しくありませんでしたが、これは高得点
を期待していると思います！」

ではエントリーナンバー2、ダブルベント！曲はD a i - K i
t h iでH E A R T B R E A K E R！どうぞ！」

ガ○ツ文字『めえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

ダブルベント

特徴：つよい

あかるい

好きなもの：明日

口癖：俺の明日アアアアああ！！！！』

（前奏は省略）

映司「イエエエエ！！！！盛り上がってるかああ？」

ユート「行くぞオラアアア！！！！」

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「中の人を活かしてくるとは。」

カザリ「戦術ってやつだね。歌自体も上手かったし。」

ガメル「まえふり かつこよかった」

メズール「相当特訓したと思えるけど、実はあの二人あんまりやってないらしいのよ。それでここまでってのはすごいと思うわ。」

士「おつとお！最初から好評価続出！プレッシャーで倒れる人が出ないか心配だあ！」

ヴィヴィアン「さあ次行きましょう！エントリーナンバー3、ルミア・ウェーバー！曲はおニヤン子倶楽部でセーラー服を脱がさないで どうぞ！」

ユウスケ「曲古う！」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてください

るみあ・うえーばー

特徴：きまぢめ

どえむ

好きなもの：鞭

ろつそく

E3

口癖：あひいい！』

『デッデッデッデデー デッデッデッデデー デッデッデッデッデデー デッデッデッデッデデー』

（歌詞は省略）

ユウスケ「……クソ音痴……」

シンジ「よくあんなんで出場する気になったな……」

亜樹子「ジミー中田の次にひどい……」

壘亜「言っちゃ悪いけど女版ジャイアン……」

クロウ「あゝ ああああああああ止めてくでエエエエエエ
！……！！」

ヴィヴィアン「それぢわ 審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「無茶な賭けはやめよう？な？」

カザリ「自分に自信持ちすぎだよ。」

ガメル「ルミア 下手」

メズール「そもそもいまどきの18の女の子がおニヤン子って時点で引く……」

ルミア「あはぁんいいわぁ！審査員の方々もつとさげすんでえ！」

メズール「いいわよ。ヘタクソ！メス豚！ロバート絶壁ス！」

ルミア「あはぁん！言葉責めも悪くないかも！」

士「ルミアが気色悪く体をくねらせながら興奮しています！これはもう蔑まれるために出場したとしか思えません！誰か彼女をステージから連れ出して！次が歌えない！」

10分後

士「ルミアのSMSパイラルを鎮めた所で次行きましょう！」

ヴィヴィアン「エントリーナンバー4：半分こ怪人（命名：亜樹子）
曲は鳴海壮吉で
Nobody

's Perfect!どうぞ！」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

半分こ怪人

特徴：ふたりでひとり

好きなもの：おやつちゃん

口癖：ちあ、お前の罪お数えろ』

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ 審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「この曲をデュオと聞いた時は心配してたがな。」

カザリ「二人とも違和感なく歌えてたね。」

ガメル「選曲も いい」

メズール「流石は歌ってる人の弟子とその相棒ってところかしら。」

士「ルミアがぶち壊した場の空気を見事に再構成してくれました！」

ヴィヴィアン「盛り上がってきましたね！続きは次回に持ち越し！」

歌上手い選手権より歌下手選手権の方が面白かったりする（後書き）

歌唱大会の打ち上げの会場を、次の中から投票で決めたいと思います。投票お願いします。

1：チエルシーのクラブ（仮店名募集中）

2：クスクシエ

3：フェアリーテイル

4：スナックお登勢

5：ガイクの酒場

音痴な奴はキャラ的に結構オイシイ

ヴィヴィアン「さあ、どんどん行きましょう！」

士「エントリーナンバー5、グレイ・フルバスター！」

曲は嵐でtruth、ではどうぞ！」

シズル「あゝ ああああああああ！！！！！！！！！！その曲はやめてエエエエエ！！！」

エミリア「あんたあれでタイキツク二発喰らったもんね。」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてください

ぐれい・ふるばすたー

特徴：脱ぎ癖あり

さむさに強い

好きなもの：ウル

口癖：うおああ！」

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「上手い……んだがなあ……………」

カザリ「……華が無いね……………」

ガメル「グレイ 地味」

メズール「周りのレベルが高いからどうしても普通に聞こえるわね。」

グレイ「…おや？屋内だから日光が当たanneえのかな。自分の影が薄く見える……」

士「グレイが完全に傷心しています！メンタルの修復を早く！」

ヴィヴィアン「それでは、エントリーナンバー6、ジュビア・ロクサー

曲は松本梨香でArrive at 1

ife!ではどうぞ！」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

じゅびあ・ろくちー

特徴：あめおんな

みづにんげん

好きなもの：ぐれい

口癖：しんしんと』

（歌詞は省略）

ユウスケ「ジュビア顔こわっ！」

クロウ「勝ちたいうって気持ち現しすぎ……」

龍亜「ファントム編の時みたいになってる……」

カズ「般若みたいだな……」

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします!」

ウヴァ「上手いけど顔怖い」

カザリ「もっと明るい感じで行こう?ね?」

ガメル「怖い」

メズール「顔怖すぎ。これじゃグレイに後悔させるなんて無理。」

士「これはかわいそうなほどの酷評だああ!」

ジュビア「がつしゃーん!」 爆沈

ヴィヴィアン「さあ、続きましては、エントリーナンバー7、右腕君と胴体ちゃん

曲はA A Aでc l i m a x j u m p ではどうぞ
!」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

右腕君と胴体ちゃん

特徴：もともと一人

好きなもの：アゐス

口癖：ぼくわどこ?』

(歌詞は省略)

アंक「おいてめえ、ここは俺のパートだろ！」

アंक「何言ってるんだ？僕の所だよ！」

アंक「お前この前からナマばつか言いやがって！」

アंक「こっちのセリフだ！」

アंक「もううんざりだ！ここでお前を始末する！」　タイガーオ
ルフェノクに変身

アंक「上等だああ！！」　怪人体に変身

士「リアルファイトが始まってしまいました！誰かあの二人を止めて！」

ナギサ「合体必殺！」

5103「ど根性バット！」

（ナギサ、5103をフルスイング）

ドガン！

ダブルアंक「ぐげらぽげえ！」　屋根をぶち破って天空にキ
ー

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします……

結果は分かり切ってますが。」

ウヴァ「決定的に息が合っていないな。」

カザリ「単独で出ればよかったのに。」

ガメル「仲 悪い」

メズール「しかも賞品は『自分の体』らしいわよ。バカじゃないの。」

ヴィヴィアン「もう聞いているこっちが哀れになって来るほどの酷評の連続！審査員の方々が急に辛辣に
なりました！」

シズル「僕らの出番はまだかな……」

エミリア「これ、順番は作者の気まぐれで決まるらしいわよ。」

シズル「作者ふざけん……ん？何か聞こえないか？」

ダブルアंक「……あああああああああ……！！！！
！！」 屋根をぶち破ってシズルの真上に落下

シズル「まきはかせええ！」

PSUのころはスケプ10個持って行けたから、ぶすぽ2で一個だけってなった

ヴィヴィアン「さあ、次行きましょう！エントリーナンバー8、元天才現アホ組

曲はfrissideで『only my rai
l gun』ではどうぞ！」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

元天才現アホ組

特徴：あたまわるい

それでも学者

好きなもの：めし

ツンデレメイドきつち

口癖：ウゾダンドコードン！』

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「選曲ナイス！」

カザリ「シズルの男声もちゃんと違和感なく溶け込んでたね。」

ガメル「曲 かつこいいし 二人も 上手い」

メズール「学者じゃなくて歌手になった方が良かったのかもね、二人とも。」

士「さっきの三組（特にアングズ）とはうって変わって物凄い好評！」

ヴィヴィアン「では残るは三組。エントリーナンバー9、後藤慎太郎
曲は嵐で『one love』ではどうぞ!」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてくだちい

後藤慎太郎

特徴：いし頭

好きなもの：ナギサ

口癖：俺は石だ」

(歌詞は省略)

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします!」

ウヴァ「やっぱり歳のおかげか?嵐合ってるな。」

カザリ「単独で、前振り一切ナシ。小細工なしで行ったね。こういうの好きだよ。」

ガメル「ラブソング よくわからない」

メズール「この歌選んだのは理由があるらしいけど、それは言わないでおこうかしら。」

士「嵐で被ったことには一切突っ込みなしです!それだけ評価もいいという事でしょう。」

ヴィヴィアン「さあ、ラスト二組!エントリーナンバー10、新婚夫婦

曲は上木彩矢&TAKUYAの『W-B-X
W Boiled Extreme』ではどうぞ!」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてください

新婚夫婦

特徴：共働き

好きなもの：ちけ

口癖：無し』

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「流石この二人と言ったところか。」

カザリ「息ぴったり」

ガメル「カザリと おなじ」

メズール「ちゃんとクラウチが歌うところも増やしてたわね。やるじゃん。」

士「さあ！次でラストです！」

ヴィヴィアン「エントリーナンバー11、コラボ5

曲は嵐で『troublemaker』ではどっぞ

！」

ガ○ツ文字『てめえ達は今からこの方の歌を聴いてください

コラボ5

特徴：コラボキャラ

好きなもの：ばらばら

口癖：しらん」

（歌詞は省略）

ヴィヴィアン「それぢわ審査員の方々、コメントお願いします！」

ウヴァ「五人で嵐とはな。」

カザリ「人数揃える組があるなんてね。振付も完ぺきだったし。」

ガメル「嵐 いい」

メズール「まさかリーダーが列には入れない奴まで再現するなんてね。すごいじゃない。」

士「さあこれですべての組が歌い終わりました！審査員の方には後ろのガ○ツの中で得点を入力してもらいます。一人25点ずつ、合計100点満点で採点が行われます！」

（審査員席が巨大ガ○ツの中に引っ込む）

数分後

ガ○ツ文字『それぢわ ちいてんを はじめる』

士「さあ！まず、第三位は……………」

ダララララララララララララ ジャーン！

ガ○ツ文字『だいさんい コラボ5 85てん
嵐をもほつし過ぎ』

永司「あああ！そう来たかあ！」

澤木翔太郎「ああ畜生！」

リイマジフィリップ「気にすることはないさ。次頑張ればいい。」

聖夜「おい！あのリーダー仲間はずれ、俺聞いてないぞ！」

リイマジアंक「何のっ事っかな〜？」

士「さあ！続いて、第二位の発表です！」

ダララララララララララ ジャーン！

ガ○ツ文字『だいにい 5103 96点

目的分かりやすすぎ』

5103「……………！！！！！！」

ナギサ「後藤……………」

士「さあ！いよいよ第一位！」

ダララララララララララ ジャーン！

ガ○ツ文字『だいいちい 元天才現アホ組 100てん

いうことなすだす』

エミリア「一位……」

シズル「っしやああああああ！！！！！！」

士「それでは、二人に優勝賞品を贈呈します。まずエミリアにト○コバーガー一年分（一日に3個食う計算）を贈呈。ここで全部渡すと確実に運びきれないので、この場にある一日分を除いた分はただ今配送してもらってます。」

エミリア「やったあ！ついに念願のト○コバーガー……だーらだら」
よだれを垂らす

シズル「エミリア！汚い！」

士「そしてシズルが所望した『演算能力』ですが、現代の科学技術ではさすがに無理なので代わりにGRM社製の最新型ノートパソコンを送ります！」

シズル「ウゾダンドコードーン！」

数時間後

5103「……」

ワイナル『元気だしなよ。』

5103「あ、ああ…済まない。」

ナギサ「ところで、優勝したら伝えたかった事って何なんだ？」

5103「……言いにくいんだが、俺、優勝賞品は指輪だったんだ。お前に送るための」

ナギサ「……え？それってつまり……」

5103「もういい！この場で言う！ナギサ！俺はお前が好きだ！だから結婚してくれ！」

ワイナル『え、ええええ！！じゃあ、優勝したら表彰の時にプロポーズする予定だったの？』

5103「あ、ああ……」

ナギサ「……なるほど、お前の気持ちはよく分かった。だが、それには応じられない。」

5103「え？」

ナギサ「だって、私とお前はまだ付き合いだして1年もたっていないだろ？もう少し、お互いを見る期間が必要なんじゃないか？」

5103「……」

ナギサ「次にプロポーズするときは、そんな工夫なんていらんか

ら、普通にしてほしいな。」

5103「ナギサ……」

ナギサ「だが、今の言葉、すごくうれしかった。……ありがとう……」

エミリア「これでいいのかな、あの二人」

ルミア「まあ、ナギサの言う事にも一理あるんじゃない？」

ユート（僕もいつか、エミリアと……）

シズル「ああ……僕はとうしようもない豚野郎だ……ゴミ溜め的存在……ダメだ……死のう……」

張り込みとは忍耐力を試される究極のテスト（前書き）

打ち上げの会場、まだ募集しています。

まだ2票しか来てないので、場繋ぎです。

今回はユートの心理描写を語りにします。

張り込みとは忍耐力を試される究極のテスト

○月？日 曜日

今、僕ユート・ユン・ユンカースは仕事で張り込みをやっている。相手は街で書店を経営する女性。イルミナスの残党を統率している者の姉だ。その組織はこないだ同盟軍に重要拠点を落とされたらしい。ここ以外にも同じように張り込みをやっている奴もいるが、ここが一番奴が来る可能性が高いらしい。

今日でもう張り込み生活3日目。もう三日間ランチパックと牛乳しか食べていない。いい加減プリンの味が恋しくなってきた。

相手はまだ動きを見せなかった。

張り込み生活四日目。

最近、明らかにコンビニの店員に顔を覚えられている。『うわっまた来たよこいつ』みたいな顔をされた。ウザい。

相手は今日も動きを見せなかった。最近伸びてきた産毛を気にしながら、今日も僕はランチパックを喰らう。

少し飛んで張り込み生活十日目

今日はエミリアが差し入れを持ってきてくれた。食べ物かと思つて袋を開けてみたが、中にあったのは、明らかにGANTZのパチモンと思われる「GAMTZ^{ガムツ}」とかいう漫画5冊だった。エミリアはすぐ帰ったが、それにハマっているとだけ言われた。これがまたつまらない。こんなもん読んでもくらいなら何もしてないでボーっとしてる方がマシしてくらいつまらない。こんなもん書いて金もらつてるやつがいるなんて、ある意味犯罪だ。

相手はまだ動きを見せない。デマカセの感想を考えながら、今日

も僕はランチパックを喰らう。

張り込み生活十一日目

相手はまだ動きを見せなかった。こちらら毎日ライフルの手入れ欠かしてないんだよいい加減動き見せる糞が。風呂入りたいとか考えながら、今日も僕はランチパックを喰らう。

張り込み生活十二日目

今日は怪しい奴が入店した。グラスンをかけ、スナイパーライフルのスコップ越しにじっと観察していたが、そいつは無言でヤンジャンを手に取り、無言で会計を済ませ、無言で店を出た。腹が立ったのでそいつの頭にスタンビームをお見舞いしたらクラウチに怒られた。

他には何もなかった。今日も僕はランチパックを喰らう。

張り込み生活十三日目

相手はまだ動きを見せなかった。今日も僕はランチパックを……

……
壁に叩きつける。

張り込み生活十四日目

今日も僕はランチパックを……………
床に叩きつける。

張り込み生活十五日目

前の道路をポテチ食いながら通り過ぎるエミリアの顔面にランチパックをスパークリング！

張り込み生活

上空の筑波洋にランチパックをスパークリング！

張り込み生活十七日目

コンビニの客にスパークリング！

張り込み生活十八日目

スーパーの店長にスパークィング！

張り込み生活十九日目

クラウチの顔面にスパークィィィィング！

張り込み生活二十四日目

目を覚ますと僕のケツにムカトランドが刺さっていた。しかし相手に動きはない。いい加減動き見せろ。そんな事を考えながら今日もランチパックを喰らう。

張り込み生活二十八日目

今日もランチパックに動きはない。いつも通りランチパックにランチパックを撒きランチパックが昇るころランチパックをランチパックしてランチパックがランチパックにランチパックをランチパックランチパックランチパックランチパックランチパックランチパック

クランチパツクランチパツクランチパツク.....

張り込み生活二十九日目

ランチパック ランチパック ランチパック ランチパック
ランチパック ランチパック ランチパック ランチパック
ランチパック ランチパック ランチパック ランチパック
ランチパック ランチパック ランチパック ランチパック

ランチパック生活三十五日目

気がつくと部屋には砕け散ったランチパックが四散していた。何
がどうなってるんだ。

今日は気分を変えてあんパンを食ってみた。

あんパン生活二日目

その日の夜、女は突然店を逃げた。いつの間にやら弟も合流して
いた。すぐさまライフルを構え、殺気をむき出しにして追走する。

追走生活二日目

道端に落ちていたXガンで奴らの車を爆破する。しかし奴らはマ
マチャリを路上でパクると逃げ続ける。

追走生活三日目

道端に落ちていたXショットガンで奴らのママチャリを爆破。し
かし飛行機で逃げられた。仕方がないのでブランウイングに乗って
追いかける。

追走生活五日目

空から降ってきたZガンで奴らの飛行機を撃ち落とす。しかし海に落ちても奴らは泳いで逃げ続けた。

追走生活十日目

夜の駐車場。宙に浮かんでいたYガンで奴らを捕らえガーディアンズに身柄を引き渡す。後ろからどこかのマザコン高校生の悲鳴が聞こえてきたが知ったこっちゃない。

?月〇日 曜日

やっとリトルウイングに戻ってこれた。「お疲れ様」と言ってくれたクラウチの

顔面にランチパックをスパークイイイイイイイイイングッ！

行事の一番の楽しみは打ち上げ（前書き）

打ち上げ会場、とりあえずフェアリーテイルに決まりました！人氣投票はまだまだ受け付けております。

グラールの飲酒可能年齢は分からないので、FTにのっとなって15歳からおKって事にしました。

行事の一番の楽しみは打ち上げ

士「歌唱大会お疲れさん！」

皆「」「」「カンパイ！」「」「」

ミラ「聞いたわよ、エミリアとシズルが優勝したんだってね。」

ルーシィ「チツ、あの小娘が。最下位になればよかったのに。」

ミラ「ルーシィ？ニルヴァーナで闇に落ちたみたいになってるけど？」

エミリア「ブアックショオン！コノヤロー。」

ナギサ「エミリア、あなたは飲まないのか？」

エミリア「そりゃ、飲みたくないって言ったら、もぐもぐ、うそになるけど、もぐもぐ、アレ見てよ。」

ナギサ「？？」

シズル「だから何度言ったらわかるんだ！僕はアルコールが苦手なんだ！」

ルミア「生一杯くらいなら大丈夫でしょうがほれほれ飲みなさいよ
ー。」 テンションがヤングルミア化

ウルスラ「ングッングッ、ぷはーっ！ やっぱ打ち上げで飲む酒は違
うわ！」

クラウド「おら！どんどん追加だー！」

ユート&映司「ドンペリ持ってこーい！」

E3「IIEYASUUUUUUUU!!!!」

カレン「悔しいからつてえ絶叫しながらあ飲む奴がああどこにいる
つてんだよおら」

ヒューガ「……………」
酔い潰れてダウン

エミリア「ね？あたしまで酔ったら、もごもご、ツツコミが、もごもご、いなくなるじゃん。」

ナギサ「シズルはシラフだが。」

エミリア「あいつは、
んぐんぐ、存在自体がポケだから、
んぐんぐ、
ダメ。」

シズル「……ちょっと泣いていいか？」

ナギサ「と言うかエミリア、貴女の食いつぶりもすでにボケの領域に達していると思うのだが。」

エミリア「んん？あんのふおほ？」 フライドポテトを口いっぱい
に頬張る

ミラ「エミリア？今完食したそれぞれ4人前なんだけど？」

エミリア「何言ってるの？こんなの一人前にもならないんだけど？」

士「あいつの胃はどうなってるんだ？」

ヴィヴィアン「きっと彼女のお腹の中には胃の代わりに亜空間発生
装置が入って「ごへえ！」

エミリア「ハイ黙ってる！」 ヴィヴィアンにボディーブロー

ヴィヴィアン「……ちょっとトイレ行ってきます……………」

すたすたすた……

ナギサ「……………」

ヴィヴィアン（トイレの中）「オエエエエエエエエエエエエエ
エエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ
……………」

5103「盛大にもどしてるなオイ。」

ナギサ「後藤、あなたは飲まないのか？」

5103「エミリアと同じ理由で。」

ワイナル「確かにこの二人は数少ないツツコミだからね。」

グレイ「後藤、お前ツツこんだ事あったか？」

5103「正直言つとあんまり。」

シズル「ちよつと用を足してくる。」

ルミア「必殺、ズボン（場合によってはパンツも）ずらし！」

シズル「ギヤアアアアアアア！！！！！！」

エミリア「年頃の女の子が酔いに任せて何やってんだああ！！！！」

ズドオン！

ルミア「いゃんくつくう！」 頭が天井に刺さる

澤木翔太郎「うわっシズルのガンツソードちっさ！」

聖夜「ホントだ。シズルのビームサーベル小振り過ぎるだろ。」

永司「いやサーベルと言うよりはビームナイフ?」

翔太郎「エターナルエッジだろ。」

アングル「翔太郎、今うまいこと言おうとしたでしょ?」

ジュービア「起動してもGNショートブレードが落ちでしょうね。」

シズル「……ちょっと泣いていいか?」

ユート「ちなみに僕のは起動しなくてもGNソードだ!もしスイッチ入ったらライザーソードってどこか?」

5103「刹那が怒るからその例えはやめろ。」

エミリア「みんなもつと節度を持てないのかなあ?」

ナギサ「いいんじゃないか?たまには遠慮なくこつやって飲んでも。」

エミリア「と言うか、あんたは飲まないの?」

ナギサ「私は酒より烏龍茶の方がいい。」

5103「言っちゃ悪いけど地味だな。」

士「さあ、みんな大分盛り上がってきたので、そろそろやりますか！」

ウヴァ「王様ゲエエエエエエエエム！！」

カザリ「ドンドンドンパフパフドンドンドンパフパー」

エミリア「ナギサ、王様ゲームって分かる？」

ナギサ「ああ、くじ引いて王様がその権力にかこつけているんな拒否不能のヤラシイ命令を出すあれだろ？ワイナールに教えてもらった。」

ワイナール「似たようなのが旧文明にもあったからね。」

ミカ「あ、私もやった事あります。確か『クソツタレ太陽王バカヌハーンゲーム』でしたっけ？」

ワイナール「え？僕は『能書き太陽王バカヌハーンゲーム』って呼んでたけど。」

エミリア「どんだけ嫌われてたのよあのドS野郎。」

士「さあファーストラウンド！」

士「じゃあセカンド！」

皆「王様だーれ！」

ユート「あ、僕だ。……じゃあ、9番、五分間全裸になれ！」

シズル「……………9番は僕だ。」

ユート「何お前が引いとんじゃあ！」

ズドン！

シズル「ひぶのつく！」

ユート「お前の下半身なんか誰が見たがるんだよああん？僕は女子が当たることを期待してんだよ！特にお前みたいなショートブレードなんか願い下げなんだよ分かるかよああん？」シズルをボコ殴り

シズル「止めて止めて止めて！」

5103「お前は性欲を押さえんかああ！」バズーカ発射

ドカーン！

ユート「ぎるくうぜー！」

数分後

士「さあサード行ってみよう！」

（シズルの股間には本人の顔写真がついてるのを想像してください。）

皆「……王様だーれ！」「……」

フィリップ「僕が王様か。なら、7番は一番近くの異性と上着を交換するんだ。」

シズル「やっぱり7番僕だ。一番近くの異性は………」

エミリア「………」

数分後

シズル「………」 エミリアのジャケットを着用（下半身は全裸）

エミリア「シズルこの状態だったらただの変態じゃん。」

ヴィヴィアン「上着なしのエミリアさんも結構新鮮ですね。」

士「じゃあ次行くぞ！」

皆「……王様だーれ！」「……」

ヴィヴィアン「あ、私だ。じゃあ10番は外に出て酔いを醒ましてください。」

シズル「……もう分かるだろ？」

士「ああ、大体どころか全部分かった。」

（シズル外に出る）

グレイ「なんかサイレン聞こえねえか？」

ジユビア「気のせいですよ。」

翔太郎「そんなこんなで盛り上がった打ち上げも、やがて終りの時がやってきた……」

リイマジフィリップ「誰に話しているんだい左翔太郎？」

士「お愛想お願いしまーす！」

ミラ「はいはい！」

クラウド「よし！チェルシーの『スコッチド・アース』で二次会やるぞ！」

ダブルベント＆なんです隊「「「「「おー！！」「」「」」」」

永司「ちょっと待ってて、お土産頼まれてるから。」

マックス「いらっしゃーい！ここでしか手に入らないオリジナルグ

ツズがいっぱいあるよ！お勧めは魔導師フィギュア！」

永司「ルーシィのフィギュアだ。キャストオフできるんだっけ？」

マックス「もちろん！しかもこの間天道がここにきて」

天道『こんなものがキャストオフだと？俺が本当のキャストオフを教えてやる！』

マックス「って言つてさ、キャストオフ機能に改良を加えてくれたんだ。見てろよ？」

カチン ギュイイイイイイイイン！

マックス「キャストオフ！」

『キャスト オーフ！』

バン！ フィギュアの服が弾け飛ぶ

『チエーンジ ネイキーツド！』

マックス「更にこれ！ハイパーキャストオフ！」

永司「おおお！！」

澤木翔太郎「全裸か？全裸だろ？絶対そうだろ？」

マックス「あつたりー！じゃあ……」

ルーシィ「無許可でなに着けとんじゃああ!!」

ズドドドオン!

マックス「ちゃちゃぶー!」

澤木翔太郎「どすふぁんご!」

永司「みおがるな!」

ナギサ「どれだけマニアックなモンスター出したら気が済むんだ。
大体作者モンハンにトラウマあったんじゃないか?」

行事の一番の楽しみは打ち上げ（後書き）

安藤ポジションのキャラを出したいのですが、皆さんのアイデアをまたもや募集したいと思います！オリジナルでも、自分で使ってるキャラでも、何でもいいんで、興味ある方は次の項目を送ってください！

1：名前

2：種族

3：性別

4：服装

5：髪形

6：その他外見的特徴（メガネとか仮面とかみたいな）

7：一人称

8：性格

キャラ紹介その？

シズル・シュウ

インヘルト社代表取締役の息子。一言でいえばボンボン。もともとは100億人に一人の天才だったが、海東の軽はずみな考えのせいでエミリア共々一世一代のドアホになる。エミリアとは違って失った頭脳への未練が深い。

『ドキューン』が以上に小振りで、最近ではリトルウイングならぬリトル『ドキューン』のあだ名で親しまれている(?)。分かりやすく言えば、普通のがプリズムビッカー、シズルのがエターナルエッジ。かつて彼に憑依していたカヌハーン同様DSで、そのためやけに打たれ弱い。またインフィニティでカナズチかつオクテである事が露呈。真偽を知りたい人は水着イベントの選択肢発生の時、シズルに話しかけよう。

門矢士

世界のは会社にしてリトルウイングの名司会。地味に登場回数が多い。しかしそれ以外に取り立てて特徴もない。その理由は作者がディケイド嫌いだからである。ブラストユートに瞬殺される。

海東大樹

天下一のコソ泥にしてルミアのストーカー。エミリアとシズルの演算能力を奪い、ダブルベントを覚醒させた張本人。

火野映司

カッコよく言えば流浪の民、悪く言えばプー太郎。ユートとは大のなかよしである。

パンツに何か非常事態が発生するとパンツベントが発動。怒りが頂点に達すると『リアルタトバコンボ』にナノブラストし、ラスを

超越する戦闘能力を発揮。

ルーシィ・ハートフィリア

鍵の魔導師（よく家に不法侵入されるけど）で、フェアリーティルの一員。金髪でツツコミでヒロインとキャラがかぶっているためかエミリアとは仲が悪い。天道によって、フィギュアにハイパーキヤストオフ機能をつけられる（無許可）。

不動遊星

チーム5D'sのリーダーで、作者の中のアダ名は『仮面ライダーインサイザー』。合宿編で藤原ボジションを担当、『デデン』のSEをフェイクで流すなど、冗談が過ぎる一面あり。

ナギサ

以上に強いインフィニティEP2のヒロイン。しかし途中でエミリアによってサブヒロインに蹴落とされる（トゥルーエンドでのみ何とか復帰）。5103の彼女。カーナーリ着やせしてるらしい。

ちなみに、目が鋭くてなんか怖いという理由から、作者はこいつがあまり好きではない。

ア・ダ・ム！アダムア・ダ・ム！（前書き）

一向に票が来ないので安藤投票を打ち切ります。人気投票ですが、もつぷすぽ知らない人もここでの印象のみで投票してください。まだ一票しか来てません。コラボもまだまだ受け付けてます。

ア・ダ・ム！アダムア・ダ・ム！

アダム「PSGから出張出演！俺参上！」

ミユラー一家「「「どんどんぱふぱふー！」「」「」

ルミア「アダムさん、おめでとぅございます！」

アダム「ありがとな、ルミア。」

エミリア「やっと安藤来たわね。」

ナギサ「彼と刃を」

ワイナール「ナギサチャン！ナニイッテルンディスカ！」

OZ I S A N「アダム・マクスウェル……ルミアと許可なく付き
合いよって……話が双刃の錆にしてくれる！」

エミリア「その表記にはツツコミなし？」

アダム「所でエミリア、一つ聞きたいんだが……」

エミリア「はいはい、何？」

アダム「何でヤオロズレースに誘ってくれなかったんだ？」

翌日

クラウチ「よおエミリアにユート…」

ミーナ「こんにちはわ、ウェーバーさんにカレンさん…」

GRM秘書「おはようございます社長…」

ナツメ「おお、来てたのかシズル…」

ペナルティ6人組「……ドスコスコスコドスコスコスコ
ドスコスコスCOVE注入！バーン！アダム& amp・ルミア
！
「「「「「「「

[illegible]

o o o o o o o Y U u u u u u u u u u T O o o o o o

! ! ! ! ! ! !

L

anan!!!
ミナ WEeeeeBAaaaaSAaaaa

KAREN
s a a a a a a a a a a a N ! ! ! ! !

ナツメ「S I i Z U R U u u u u u u u u u
uuuuuu!!!!!!」

アダム「おはようござ…あれ、エミリアとユートは？」

クラウチ「S・A・U・Lに突き出した。」

ルミア「あれ、兄さんとカレンさんは？」

ミーナ「精神科医に運ばれました。」

ヒューガ「ずびばぜんでじだ。」

秘書「フルボッコにしたのは謝りますから自分の立場を考えてください。」

ナツメ「シズル……何という事だ……」

どやっ

シズル「父さん違うんだあアアアアアアアアアア!!!!」

んんんんんんんん！！！」

エミリア「何なにー？何やってるん……げっ、そのメモリって……」

海東「レッツブラスト！」　メモリを投げる

キーン！

エミリア「はうああ！」　ナノブラが刺さる

銀時「ごぺえ！」　PBが刺さる

ユート「うぱひい！」　ユートブラストが刺さる

シズル「あゝ あああああああ最悪の事態がアアアアアあ！！」

Nエミリア「……………」　ジnkス3に変身

銀時「さあ、祭りの時間だ！」　ストライクに変身

Bユート「……………！！！！！！！！」

シズル「どうした？」

Bユート『ギヤアアアアアアアアアア！！！！！
蛇イイイイイイイイイイ！！！！
杉田アアアアアアアアアア！！！！
ストライクウウウウウウ！！！！』

アダム「これって……」

ルミア「ケースがストライクにベントされたからでしょうね。」

Bユート『ドツカイケエエエエエエエエエエエ！！！！！
エンドオブザワールド』

シズル「ルミアシールド！」

海東「ダブル・ガイ・バリア！」

『カメンライド ガイ！』

『カメンライド トラスト！』

ガイ&トラスト「ぎゃあああああああ！！！！！！
！！！！」

ルミア「あっひいいいん！もつとお！もつと痛めつけてくらひゃい
い！！」

トントン

海東「ん？」

アダム「俺の彼女に何してくれとんじゃ。」

キット「ブラッドに何してくれてんの？」

レン「芝浦はどうでもいいけどブラッドにあれは許さん。」

クリス「殺す殺すムツコロス。」

アダム（初代ドラゴンナイトの方）「何を喰らいたい？メテバレ？DFS？リンクベント？」

クラウチ「刹那連れて来い！」

刹那「俺ならいるが。」

クラウチ「よかった。だったらあれを鎮圧……」

Nエミリア『…………セツナ…………ガンダム……………
ソレスタルビイイイイイイイイイイイイイイイグ!』 ビーム
ライフル乱射

海東「ぎゃああああ!!」

シズル「おげえええええ!!!!」

クラウチ「な、何だいたい?」

シズル「エミリアの中の人って、ルイスと同じじゃないか!」

クラウチ「それだ!」

Nエミリア『GUNDAAAAAAAAaaaaaa
aaaaaaM!!!!!!!!!!
!!!!!!!』

士「クラウチ!ミラブメモリ使え!」

クラウチ「ちっ、仕方ねえ!」 直挿してアルケーガンダムに変身

士「おい!魔ドゥー君忘れてる……」

Mクラウチ『機体八良クテモパイロットハイマイチダナ！エ？ガン
ダムサンヨオ！』

士「ぎゃああああああクラウチまで暴走したああああああア
！！！！！」

海東「誰か何とかしてえエエエエエ！！！！！」

アダム「よし、こうなったら最終奥義！」

士「何だ？何かあるのか？」

千手と阿修羅って、どっちが強いんだろ？

士「どうすんだアダム！後半始まったぞおい！」

アダム「ああん、なんも考えてなかったわ！どうすりゃいいんやバーロー！」

フィリップ「何で関西弁になってるんだい？」

士「と言うか作者、お前兵庫県在住だったよな？このクオリティは酷い。」

（言わないでください：by作者）

真木「火野映司、これを使いなさい。」 映司に何かを手渡す

映司「コレハナンディスク？」

真木「名付けて『〇〇〇ドライバーカスタム』です。」

アंक「大分スロット多くないか？」

真木「外側の二つ以外には腕のメダルを入れてください。」

映司「…………コアメダル貸して？」

グリード一家「…………仕方ねえ…………腕系メダルを三

枚ずつ渡す

映司「ああんもうメダル多いな！……よし、全部入った！変身！」

ギョーン！ギョーン！キンキンキンキンキン……

『タカ！トラ！トラ！トラ！カマキリ！カマキリ！カマキリ！ゴリラ！ゴリラ！ゴリラ！クジャク！クジャク！クジャク！ウナギ！ウナギ！ウナギ！パンダ！パンダ！パンダ！トリケラ！トリケラ！トリケラ！トリケラ！トリケラ！カメ！カメ！カメ！カニ！カニ！カニ！バッタ！セ・ン・ジュ！センジュセ・ン・ジュ！』

映司「なんじゃこりやあアアアアア！！！」 スキャンした腕メダルと同じ種類の腕が合計48本、全ての腕にメダジャリバーを握り、固定武装はアクティブ状態

士「千手コンボか。」

アダム「キモい。」

映司「ええいこうなったら……せいやアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」 メダジャリバーを振り回して突進

NエミリアあんどMクラウチ「ギヤアアアアアアアアアアキモイイイイイイイ詩c b h さ j c 簿さb h c s k j b c さb c じゃs b c s 場c j c 場s b かs l c さl c s ……」 変身が解けて気絶

アダム「あ、二人倒れた」

Bユート「ガルボアアアアアア！！！」

士「あいつには効果なしか！」

フィリップ「あ！逃亡したよ！どうにかしないとー！」

神父「あなた、後藤慎太郎は、ナギサを妻とし（以下略）」

後藤「ハイ、誓います。」

神父「では誓いの接吻を。」

ワイナル「ぐすつ、ナギサちゃんおめでとう……」

鴻上「ハッピーバースデー後藤夫妻！」

里中「会長、結婚式場では静かにして下さい。」

ドガアアアン！

ギャラリーA「何だ？」

ギャラリーB「おい！なんか入ってきたぞ！逃げろ！」

千手映司「せいやアアアアアア！！」メダジャリバーを振り回す

Bユート「ガルアア！」オーバーエンドで応戦

ギャラリーC「あのオーズキモツ！」

鴻上「アンハッピーバースデーEEEEEEEE！！！！！」ダツシ
ユで逃走

部下「逃げるの早っ。」

5103「逃げるぞナギサ……ナギサ？」

ナギサ「……………」

千手映司「行くぞ！」

「スキヤニングチャージ！」

トリプル！スキヤニングチャージ！

『タカ！クジャク！クジャク！ギン！ギン！ギガス
キャン！』

ゴックン！プットティラーノヒツサーツ！

Ｂユー「グルルル……リンクベーン」

ナギサ「よくも結婚式をブチ壊してくれたなアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」ワダジハクサマラムツコロス！」 欠片の力を発動

ギャラリーD「オooooooooooooo!!!目からビームでたアアアアア
アア!!!!」

5103「あ、あああああああああ！……勘弁してくれ
エエエエエエ！……」

5103「ギヤアアアアアア！……はあっ、はあっ、
何だ夢か。」

ワイナル「どうしたの後藤ちゃん？」

5103「何でもありません0103（お父さん）。」

ワイナル「だれが0103だ。僕まで数字で読んだらナギサちゃんだけ」

5103「713でよくないか？」

ワイナル「無理やりだね。」

アダム「夢オチはないだろオオオオオオオ！……！……！」

千手と阿修羅って、どっちが強いんだろ？（後書き）

千手コンボ、感想なりメッセージボックスなりで断わってくれれば使ってもいいですよ。

あと千手コンボの必殺技名募集します。

笑ってはいけない第二弾 プロローグ的な？（前書き）

ハイ、ただいまテスト初日です。こんなことしてる場合じゃねえ
だろとか言わないでください。

それから、今回から『転生してもうた！』とのコラボで、「宇都
宮咲魔」が登場します。

笑ってはいけない第二弾 プロローグ的な？

エミリア「いったいなんだって言うの？いきなり集めてさ。」

アダム「クラウドさん、一体何なのか教えて下さ…くだちい。」

ルミア「私まで何なんですか？」

ユート「早く教えろ！僕知りたいぞ！」

シズル「嫌な予感しかないんだが……」

クラウド「よし全員集まったな。では、お前たちに伝えることがある。」

5人「……ドキドキ……」

クラウド「笑ってはいけない第二弾の開催を発表する！」

エミリア「ふーん、参加者って誰なの？ライダー？FT？」

クラウド「何言ってるんだ、お前らに決まってるだろ。」

4人（ルミアは除く）「「「ウゾダンドコードン！」」「」」

ルミア「ハアハアあの企画がまたあるなんて、パラダイスじゃないのハアハア……」

クラウチ「アダムがヤオロズレースで一人だけ仲間はずれだったから、その代わりだ。」

シズル「だったらせめて僕はやめてくれ！」

ユート「何言ってるんだ！シズルの不憫はあそこから始まったんだろ！」

アダム「クラウチさん、もっと別のやり方あったんじゃないですか？」

クラウチ「問答無用！」

アダム「鬼だ悪魔だグリードだ……」

エミリア「で、ここで待ってって言われてたわよね。」

アダム「今回はバスからか。」

ユート「ん？誰かいらないか？」

咲魔「やつほー、今回からコラボ参戦した宇都宮咲魔、もしくはバーサーカーだよん」

シズル「ひよつとして君が案内役？」

咲魔「私が半分、もう半分は遊星よ。」

アダム「っていうかよ、ルミア参加させて大丈夫なのか？」

咲魔「ああ、それに関しては大丈夫。ルミアの性癖は強力な催眠術で押さえてあるから。」

エミリア「じゃあそれはもういいとして、今回は何するの？」

咲魔「今回、あなた達にはホテルで働いてもらうわ。早い話がホテルマン。ちなみに私服で働いてもらって大丈夫だから。」

ユート「ほ、ホテル……」 鼻血ダラダラ

咲魔「そっちのホテルじゃないから。」

ユート「何だ、つまらない。」

エミリア「純粹だったころのユートを返して……」

アダム「純粹さゆえに自分の性欲にも忠実なんだろうな。」

咲魔「さあ、そのバスに乗り込んで。30分くらいで着くから。」

ルミア「えーっと何々……『ケンジャキウエーイプリンスホテル』
？」 バスの行き先を読む

エミリア「名前テキトーね」

アダム「よし、腹くるぞ。」

シズル「早く終われ。」

笑ってはいけないスタート！

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 1

エミリア「10分たったけど何の仕掛けもないね。」

アダム「これノーアウトでやれんじゃね?」

ユート「……あ、オイあの川見る!」

ルミア「え?」

剣崎「ス・ツガ! ス・ツガオジャカルナッタ!」 川に立って絶叫

アダム&エミリア&ユート&ルミア「
「「ブフツ!」」」

デデン

『アダム エミリア ユート ルミア O U T』

バシン!

アダム「いだあ!」

エミリア「ぎい!」

ユート「ぎゃあ!」

ルミア「あがぁ！」

シズル「西の名セリフをオンドウル変換……」

ユート「西君ファンにムッコロされるぞ。」

アダム「てか作者も西ファンじゃなかったっけか？」

3分後

プーーツ

アダム「停留所着いたか。」

ルミア「アレ、この人たちって……」

5103「皆さん、このバスに爆弾犯が乗っています！」

照井「失礼ですが、今から皆さんを調べさせてもらいます。」

エミリア「マッコポジションって、やっぱ泉鏡水かな？」

シズル「いや、誰か忘れているような……」

マスターボブ「ちょっと、ここにいるじゃない、怪しい奴らが！」
バスに乗車

5103「た、隊長！」

5人「「「「「ブッ！」「」「」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「ぎゃあ！」

エミリア「うあっ！」

ユート「えうっ！」

ルミア「ぐえっ！」

シズル「あごお！」

ユート「そっか、こいつがいたか。」

マスターボブ「もういいわ、この五人は私が検査するから！」

アダム&ユート&シズル「「「ガクガクブルブル」

「」

(マスターボブ、シズルとユートとエミリアの検査終了)

マスターボブ「…あんたは後でゆっくりね。」 アダムにウィンク

アダム「ウゾダンドコードン！」

エミリア「ふふっ」

デデン

『エミリア OUT』

バシン！

エミリア「あいたあ！」

ルミア「…アダムさん……」

アダム「ルミアアア…助けてええ……」

ルミア「……ドンマイです。」 検査が終わる

マスターボブ「遅くなったわね。」

アダム「嫌だアアア……」 マスターボブに抱きつかれる

エミリア「ふふっ」

ユート「ぶっ！」

デデン

『エミリア ユート O U T』

バシン！

エミリア「げえっ！」

ユート「おああ！」

氷川「隊長！爆弾犯が逃走しました！」

マスターボブ「！！！」

アダム「…た、助かったあ……」

（爆弾犯、バスを飛び出して逃走）

マスターボブ「全員！Xショットガン用意！」 Xショットガンを
構える

5103 & a m p : 氷川 & a m p : 照井「」「サイイエッサー！」
「

ギャコッ！

マスターボブ「構え！てええっ！」

ギョーン！ギョーン！ギョーン！ギョーン！

チュツドオオオン！

（爆弾犯、撃破）

5人「…………ふっ」「」「」

デデン

『全員　OUT』

マスターボブ「ごめんなさい……ごめんなさい……」

アダム「いや、いいですって……」

5103「隊長！早く降りましょう！」

マスターボブ「ごめんなさあぁい！！！」　バスに向かってXシ
ヨットガン乱射

乗客（5人込み）「……………止めてえええ！！！！」
「……………」

咲魔「あははごめんごめん寝てた……ってあれ？どつたの？」

アダム「……もうヤダ……」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 2

咲魔「さあ着いたよ！ここがケンジャキウエイプリンスホテルだよ！」

エミリア「思ったより普通だね。」

アダム「変な像とかもないし。」

咲魔「じゃあこれから支配人の所に行くよ。くれぐれも粗相のないように。」

支配人の部屋

咲魔「支配にーん！新人ホテルマン5人を連れてきました！」

ユート「誰なんだろうな。」

リボンス「やあ、僕が支配人のリボンス・アルマークだ。」

5人「「「「「ブッ!」」」」」

デデン

『全員 OUT』

バシン!

アダム「あいつてえ!」

エミリア「あぐう!」

ユート「あおっ!」

ルミア「うえっ!」

シズル「ぐへえっ!」

リボンス「じゃあ、みんなには社員カードを渡す。」
5人にカー

アダム「普通な感じだな。」

シズル「なっ……!」

エミリア「どうしたの?」

シズル「……僕のこれ……写真にモザイク……」

4人「「「「ブッ!」」」」

デデン

『アダム エミリア ユート ルミア OUI』

バシン!

アダム「あつぎい!」

エミリア「なああっ!」

ユート「ぐへえ!」

ルミア「んぐう!」

咲魔「失礼しましたー!」

アダム「支配人の下り短いな。」

エミリア「作者も時間ないのよ。」

咲魔「さあ着いたよ！みんなの部屋。寝室は寝るときに案内するから。」

ルミア「あれ？誰かいませんか？」

バナージ「こんにちは、ボツスンさんからのご要望でここから参加させていただきますバナージ・リンクスです。」

アダム「あ、よろしく。」

バナージ「ハイ、よろしくお願いします。」

咲魔「じゃあ、私が呼びに行くまで待機！」

エミリア「デスクあるわね。」

ルミア「って事は引き出しネタか……」

シズル「覚悟してみるぞ。」

アダム「じゃあ俺から。」

順番：アダム＞エミリア＞ユート＞ルミア＞シズル＞バナージ

アダム「まず上から……ない。

じゃあ……」 横を開ける

（ルミアの水着写真パネルが入ってた）

6人「「「「「ブッ！」「」「」「」

デデン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「いったあ！」

エミリア「痛い！」

ユート「があっ！」

ルミア「うえっ！」

シズル「がおああ！」

バナージ「うああ！」

アダム「ルミア、あの写真撮った記憶は……」

ルミア「ないです。」

エミリア「海東の隠し撮りだろうね。」

アダム「…ない。…ない。……うっわ、出たよこれ！」 怪しいボ
タンを取り出す

エミリア「とりあえず後に保留。次はあたしね。

……ない。…でた、謎のDVD。」 机に出す

ユート「これは今かけよう。」

バーナジ「キツイ奴は先にやっというた方が。」

シズル「再生するぞ？行くぞ？」

マリク「あゝ ああああああ！……！」 顔芸

6人「……………ぶふっ！……………」

デデン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「あがつー！」

エミリア「えぎゃあー！」

ユート「ぐっはあー！」

ルミア「ぶふう！」

シズル「があ！」

バナージ「ぎゃあ！」

ユート「もうボタンもかたづけけるか？」

シズル「いや、せめてボタンは持ち越して。」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv r 雑務 PART 2 (後書き)

すいません、ボッスンさんに一つ謝らなければならないことが。
家にあった週ジャンに、T o L O V E のつてましたわ。
こんどゆっくり読んでキャラを覚えときます。

絶対に笑ってはいけないホテルマンVr雑務 PART 3

エミリア「…ない。…ない。」

ユート「DVDだけか？」

エミリア「……ん？何これ？パネル？」

バナージ「何て書いてあるんですか？」

パネルの文字『勇者ニートエミリア博士（笑）』

アダム&シズル&バナージ「「ブッ！」」

デーン

『アダム シズル バナージ OUT』

バシン！

アダム「いだあ！」

シズル「ごわっ！」

バナージ「げひい！」

ユート「しかしこのボタン何なんだろうな。」

シズル「そろそろ押すか？」

ルミア「もう片付けましょうよ。」

エミリア「…だね。押すよ?」 押す

ポーン!

ガッシャン!

『オルアクサマラムツコロス!』 壁の一部が反転して巨大ムツコロフェイスパネルが登場

6人「「「「「「ブッ!」」」」」」

デデーン

『全員 OUT』

バシン!

アダム「ぎゃあ!」

エミリア「ひあっ!」

ユート「ぎい!」

ルミア「あぐう!」

シズル「おあっ!」

バナージ「ぶああ！」

ユート「じゃあ次は僕か。」

アダム「次はCO?か？」

ユート「…ない。…ない。…ない。…ふおお！これは！」

シズル「どうした？」

ユート「ス、スバラシイッ！」 ビール本ギツシリ

アダム & a m p ・ルミア「ぶっ！」

デデン

『アダム ルミア O U T』

バシン！

アダム「あげあ！」

ルミア「いたい！」

ユート「…ない。これだけか。」

ルミア「じゃあ次は私ね。」

…ない。…うわあ、二枚目来ましたよ！」 DVDを取り出す

バナージ「今のうちにかけましようよ。」

アダム「だな。」 再生

(DIVE into the MIRROR の替え歌が流れる)

デデーン

『全員 タイキック』

バアアン！

アダム「ぎゃああー！！」

エミリア「ぎゃああー！！」

ユート「いつだああー！！」

ルミア「ぐああああー！！」

バナージ「ぎゃへえええー！！」

シズル「僕だけガンツキックとか言われたけど、ガンツキックって何だ？」

アダム「だ、大体想像つくけど……」

(ガンツスーツを着た比奈が入室)

シズル「ウゾダンドコードーン！」

比奈「スミマセンシズルさん。ふんにゆうー！」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 4

バナージ「引き出しさつさと片付けましようよ。」

ルミア「分かりまし…ブフッ！」

デデーン

『ルミア O U T』

バシン！

ルミア「ぎゃあー！」

エミリア「どッたの？」

ルミア「……これ……」 アダムフィギュア（ガンツスーツバージョン）& a m p・ルミアフィギュア（ツインテール時代バージョン）を取り出す

アダム& a m p・エミリア& a m p・バナージ「……ぶっ！」「」

デデーン

『アダム エミリア バナージ O U T』

バシン！

アダム「あつぎゃあー！」

エミリア「ぎゃへえー！」

バナージ「ぐああ！」

ユート「何気にフル可動……」

シズル「ツインテール萌えええ！」 ヤングルミアフィギュアを激賞

ルミア「…ない。で、これは…」 最後の引き出しを開ける

（海東が入ってた）

6人「……」

海東「ルミアさん！笑ってはいけない頑張っ」

ルミア「寝てろ！」 超ドSブラックフェイス（笑ってはいらない）
でライフルを発射

ダン！ダン！ダン！

海東「ぎゃああー！！！」

アダム「撃つたらまずいんじゃない？ルミア捕まるぞ！」

ルミア「大丈夫ですよモシンナガンですから。」

シズル「麻醉だったら安心だな。」

エミリア「そういう問題？」

バナージ「この世界の常識その2…海東は撃つべし（麻酔で）、つと」

シズル「じゃあ次は僕だな。

…ない。…ない。…これは…アレだな…」 ボタンを取り出す

バナージ「とりあえず引き出し全部開けてください。」

シズル「…ない。…ブッ！」

5人「……ブフウ！」「……」

（バナナの皮ギッシリ）

デデン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「ぐああー！」

エミリア「うげえ！」

ユート「ぐっはあー！」

ルミア「いつだあ！」

シズル「があ！」

バナージ「げへえ！」

バナージ「じゃあ次俺行きます。」

エミリア（何もありませんように……）

バナージ「……ない。…ぶふっ！」

ユート「ぶくく……」

（恐怖心ダディのパネルが入ってた）

デデーン

『ユート バナージ O U T』

バシン！

ユート「あがあ！」

バナージ「おがあ！」

バナージ「…ない。…ない。……。」

（ポケ戦のDVDが入ってた）

5人「……………」

シズル「ボタン押すか？」

エミリア「自由に。」

シズル「じゃあ押すぞ。」

ポーン！

放送『うまやどって、いっちなあああああああああああ
……………』

6人「……………ブッハッハ！」

デデン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「ぐっああ！」

エミリア「ぐっへえ！」

ユート「あごぉ！」

ルミア「ぐひい！」

シズル「げあぁ！」

バナージ「ぼへあぁ！」

エミリア「まさかのしょうとく星人って……」

アダム「ってかこのネタ分かる人いる？」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv r 雑務 PART 4 (後書き)

しょうとく星人は『GANTZ/MINUS』に出てきた、名前の通りの見た目をした星人です。でも見た目とは裏腹にかなり強いです。

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 5

咲魔「皆！今日、『劇団ウパクラダ』ってところが新作の演劇の試写会をするから、観に行くよ！」

エミリア「あえて『バ』じゃなくて『パ』なわけね。」

アダム「まあ、ネットでもそう呼ばれてるみたいだし。」

咲魔「着いたよ。左から、アダム、ルミア、ユート、エミリア、バナージ、シズルの順で座って。」

シズル「いったい何やるんだろうな。」

ユート「個人的には原作ベースのGANTZ希望。」

エミリア「岸本全裸転送が目当てでしょ。」

ユート「違う。玄野と多恵があんなことやこんなことするシーンだ！」

ルミア「もっとタチ悪くない？」

バナージ「しっ、もう始まりますよ。」

『長らくお待ちせ頂きました。ただいまより、劇団ウパクラダの試写会を始めます。本日公演されるのは、この作品です!』

(串田アキラの『ガツガツ!』が流れる)

『「舞台版 トリコ リーガルマンモス編」です!』

アダム「マジでか!」

『では、豪華キャストのみなさんをご紹介します。』

まず、主人公トリコを演じるのは、伊達章さんです!』

ユート「伊達は結構鍛えてるからいいんじゃないか?」

『そして、トリコの相棒である料理人、小松役は、トニオ・リマさんです!』

エミリア「まあ、妥当だね。」

ルミア「中の人と一緒にすしね。」

バナージ「後、身長も?」

シズル「それは言わない方向で。」

『そして、美食屋四天王のひとりである、毒人間ココを演じるのは、グレイ・フルバスターさんです!彼は美食會の刺客、セドルも演じてもらいます!』

アダム「おお！」

エミリア「まあ、いいんじゃない？」

咲魔「みんな、静かに。」

6人「……………」

『続いて、悪の組織美食會の副料理長スタージンを演じるのは、
ロックオン・ストラトスさんです！』

アダム（中の人つながりか。）

『続いて、巨大GTRボを操る美食會の刺客ギドを演じるのは、マ
ドカ・ケイチさんです！』

アダム& a m p・バナージ「ぶっ」

デデーン

『アダム バナージ O U T』

バシン！

アダム「ぎいああ！」

バナージ「おげえ！」

『続いて、第一グルメ研究所所長マンサムを演じるのは、レオジー

ニヨ・サントサ・ベラフォートさんです!」

アダム(やっぱヅラ被るのかな。)

エミリア(全然ハゲじゃない人抜擢しちゃったよ。)

『続いて、美にうるさい美食屋四天王の一人、サニーを演じるのは……』

アダム(ロン毛って誰かいたか?) ルミアにひそひそ話

ルミア(さあ……?)

『ボッスンさんからの要望で参戦したこの方です。金色の闇さん!』

6人「「「「「「ぶふっ!」「」「」「」

デデーン

『全員 OUT』

バシン!

アダム「ぎゃあ!」

エミリア「ぐああ!」

ユート「えうお!」

ルミア「ひがぁ!」

シズル「おぐう！」

バナージ「げへえ！」

シズル（確かに両方髪の毛で戦うが。）

ユート（いやヤミは髪を変形させてるんだろ。）

『最後に、このパートのヒロイン、鈴を演じるのは』

エミリア（誰だろ。）

シズル（夏ミカンあたりか？）

『エルザ2号こと、ミカさんです！』

6人「「「「「ぶふっ！」「」「」「」

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「ぐああ！」

エミリア「あげえ！」

ユート「ばはあ！」

ルミア「うがぁ！」

シズル「ぐおお！」

バナージ「えげえ！」

アダム（合わね〜。）

エミリア（うるせえしハゲ！とか絶対言いそうにない。）

『では、開演までもう少しお待ちください。』

10分後

ブーーーーッ

アダム「始まるぞ。」

エミリア「どっからでも来い。」

ナレーション
翔太郎「誰かが言った…」

体中の肉が、脂が乗った霜降り状態の獣がいると…

ブリップリで身の詰まったタラバガニやオマールエビの身が
一年中、成る木があると…

上質で芳醇なブランデーが、一年中湧き出る泉があると…

世はグルメ時代

未知なる味を探求する時代……」

（長くなるので首脳会談は省略）

伊達「完成！名付けてトリコバーガー！」

トニオ「でかすぎですよトリコさん！」

伊達「デビル大蛇のハンバーグステーキにとろけるミネラルチーズ、
ココからもらったネオトマトも挟んで味も栄養価も満点だ！いった
だっきま　」

トニオ「いや無理でしょトリコさん！」

ゴキン！

トニオ「アゴ外して食べたー！」

アダム（へえ、しょっぱなからいい感じじゃん。）

ルミア（ちゃんとアゴ外すくだりもありますね。）

中略

研究所員A「ごちそうさまですトリコさま。奥で所長がお待ちで…」

研究所員B「大変だ！マッスルクラブが逃げ出したぞ！」

遊星「ガルバアア！！ガルボアアア！！」 涙目で暴れる

アダム「ブッ！」

エミリア「ふふっ」

ユート「ブフッ」

（既に笑いましたが最後までお楽しみください。）

トニオ「わゝ あああ！！！」

伊達「離れてな小松……ん？」

レオ「フライパンチ！」 遊星に本気で右フック（シフデバ状態）

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 6

（現在バトルウルフ登場直後。バトルウルフ役は尾上タクミ。）

伊達「見るよ、他の獣、完全にビビって、勝負になってねえぞ。」

レオ「フム、リン！もっと『匂い』を送ってくれ！」

ミカ「うつせえしハゲ！」

レオ『何い？は…は…ハンサム？』

ミカ「言ってねえし超絶だりーしマジム力つくんですけどー。一回興奮させたら鎮静化させるのに時間かかるってのに。マジこっちの苦労理解してんのかあのハゲは。」

6人「……………ぶふっ……………」

（既に笑いましたが最後までお楽しみください。）

中略

（現在マンサムによる宴会）

伊達「所で所長、仕事の話なんだが。」

レオ「んああ？仕事お？

……あ！忘れとった！リーガルマンモス！まずい！

ああ早くしないとリーガルちゃんが奴らの手に渡ってしま
う……」

ミカ「心配ないし。今、お兄ちゃんから連絡あったから。」

伊達「何……？サニーからだとか？本当か、リン？なんて言ってた？」

ミカ「リーガルマンモスは捕獲したって。もうこっちに向かっているよ。」

（中略、現在サニーがギャングフッドを倒してマンサムにマンモスを投げた直後）

レオ「う……おお！？」

ヤミ「あ、ゴメ、ちょ、重かった？」 髪はサニーカラーに染めている

レオ「サニー、ここまでブン投げるな！」

ヤミ「優しく運んできたのに感謝してほしいな。

けど、ナイスキャッチ！流石所長、腕力はみじんも衰えてない見える。ただし！美しさ（つくしさ）が足りない！マンモスを

受け止める所作に全然胸がドキヨンとしないし、そもそもガニ股で色気ないし不細工だし、もう死ねって感じかな。」

トニオ（な、何なんだこのヒトわー！？）

ヤミ「鈴！何だこの土管みたいな足わ！？皮下脂肪も半端ない！甘いもんばっか食べてる証拠だな！？」

ミカ「なっ、お兄ちゃんにはカンケーねーし！」

ヤミ「関係したくないわ、男みたいな妹と！」

ミカ「女みたいな兄貴に言われたくねえし！」

ヤミ「ねーしねーしうるせーし！」

（中略、現在美食會第一支部 ジョージョー役は真木）

ロックオン「オペレーターは誰だ？」

真木「はい、セドルさまはすでにマンモスの体内へ。後は、怪人ザイパー、野人ドーサに、ギドでございます。」

ロックオン「誰だソレ？本当にそのメンバーで大丈夫か？」

真木「大丈夫だ、問題ない。」

アダム「ブッ！」

ルミア「ぷくく……」

ユート「逆転してないか？」

シズル「ロックオンが大丈夫だって言うはずじゃ……」

ロックオン「……一機代わろう、私が行く。」

真木「ふ、副料理長自ら……？」

（盛大に中略、現在親マンモスがリーガルウォールを飛び降り、巨大G.T.ロボが現れた直後）

ケイイチ（ティガ）「美食屋四天王が三人もいやがる。リーガルマンモス仕留めるよりこいつら殺った方が手柄なんじゃねーのか？」

グレイ「皆、ここは僕が食い止める。トリコを見て思ったが、みんな思った以上に疲弊している。サニー、君が触覚をひっこめているのも、僕の毒とは関係ないだろ？」

グレイ「グアアア!!」

(中略、現在トリコがジュエルミートを発見した直後)

翔太郎^{ナレーション}「その瞬間、汗も、血液も、全て枯渴しきったはずのトリコから、唾液^{それ}はあふれた。」

エミリア「……はあああ……ウラヤマシイ……あたしもジュエルミート食べたい……だーらだら」

ユート「……僕も……」

ルミア「あなた達から唾液^{それ}があふれてどうするの!」

バナージ「ふふっ」

(中略、10連釘パンチのシーン)

ロックオン「ジュエルミート、私も食べたかったが。まあいい、次

会った時は生身で勝負だ。」

伊達「ああ。……10連、釘パンチ！」

ズドドドドドドドドドン！

ルミア「わあ、吹っ飛ぶモーションもワイヤーできっちり。」

アダム「でもすっげえグラグラしてっぞ。」

（中略、ジュエルミート実食の最中）

伊達「こりゃあ、決まりだな……」

ヤミ「決まりって、何がだ？」

伊達「俺のフルコースの『肉料理』さ。」

トニオ「わああー!!」

ミカ「サンセー！」

グレイ「……。」 微笑む

ヤミ「チヨイ待てエエエエエ！……！」 『ジュエルミート』と
書かれたプレートをけっ飛ばす

伊達「何すんだ！」

ヤミ「早まんじゃねえ！俺のこの輝きを見る！ジュエルミートは俺
を選んだくさくね？」

伊達「お前、まさか……」

ヤミ「ジュエルミートは俺のメインディッシュに決定する。」

伊達「待てコラアあああ！……！」 先ほどのプレート補弾き飛ばす

ヤミ「何すんだ！」

伊達「何でお前のメインになるんだ！」

トニオ「あの、二人のフルコースにそれぞれ入れたらいいんじゃない？」

伊達 & a m p ヤミ「ならん！なんかやだし食材カブんの！」

トニオ「何ですかその理由わー！」

デデーン

『全員 O U T』

バシン！

アダム「あいたあ！」

エミリア「ぐへああ！」

ユート「げうああ！」

ルミア「あがぁ！」

シズル「ぎゃっへえ！」

バナージ「ぐへああ！」

エミリア「ミカが鈴役はパンチ効きすぎ……」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 7 (前書き)

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：18 発

エミリア：17 発

ユート：16 発

ルミア：16 発

シズル：15 発

バナージ：15 発

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 7

土方「お前ら、晩飯持ってきたぞ。」

アダム「あれ？咲魔は？」

土方「オンドウル語会話教室のレッスンがあつたのを忘れてたらしい。」

エミリア「何それ……何を勉強するのよ……」

シズル「遊星は？」

土方「レオのパンチで頭のネジが吹っ飛んだらしくて、オンドウル語と『くぎゅううう……！』以外何もしゃべれなくなる『オンドウル釘宮症候群』とかいう病気にかかった。」

バナージ「ぶっ」

デデン

『バナージ OUT』

バシン！

バナージ「いつてえ！」

土方「ってなわけで代理として俺が来た。とりあえずこれ、飯だ。」
ジャック特製『シンクロ弁当』6人前にマヨネーズをぶっかける

アダム & amp・シズル「うぶぶつ」

デデン

『アダム シズル O U T』

バシン！

アダム「あがぁ！」

シズル「げへえ！」

（とりあえず全員食事）

エミリア「ふう、ごちそうさま。」

アダム「死ぬかと思った……」

ルミア「ただでさえシンクロ弁当なのに……」

ユート「ん？この弁当が入ってた袋見る。」

バナージ「何か入ってますね……うっわ、ボタンだ。」

ルミア「押して片づけましょうよ。」

アダム「だな。行くぞ？」

ポーン！

シズル「何も起こらないか？」

ピンポンパンポーン

『本日は、罰ゲーム強化スイッチをご利用いただき、有難うございました。これより、一部の例外を除く全ての罰ゲームの執行人はMSF兵士からライオトルーパーにレベルアップいたします。』

一同「「「「「ウゾダンドコードーン！」「」「」「」

シズル「……………」

ユート「……………喰らえシズル！」　シズルの脇をくすぐる

シズル「ああ！やめろブッハッハッハ！ギャッハッハッハッハ！」

デデーン

『シズル　OUT』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

シズル「ぐああ！」

土方「お前ら、この時間はチェックインとかが絡んで一番忙しくなるから、手伝いに行くぞ。」

エミリア「この時間が？」

土方「着いた。奥から演劇の時と同じ順で入れ。」

アダム「嫌な予感マックス。」

ルミア「……ですね。」

（スーツ姿の万事屋が入って来る）

銀時「あ、すいませーん、予約してた、万事屋の」

新八「シンです。」

銀時「ギンです。Just do it!」

神楽「グラだぜフウウ!」

6人「「「「「ぶふっ!」」」」」

デデーン

『全員 OUT』

ライオトルーパー「ファイア!」

バシン!

アダム「ぐへえ!」

エミリア「ぎゃあ!」

ユート「「ああ!」

ルミア「ぐう!」

シズル「がつへえ!」

バナージ「ぼはあ!」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 8 (前書き)

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：20 発

エミリア：18 発

ユート：17 発

ルミア：17 発

シズル：18 発

バナージ：17 発

『デンデンデン』

剣崎「ウェーイ！ ウーウェーイ！ ウェーイ！ ウェーイ！ この辺どう？」

汗でカンペが消えちゃった

でもそんなの関係ねえ！そんなの関係ねえ！そんなの関係ねえ！はい、オッバツヴィー！」

6人「「「「「「ぶぶぶつ！」「「「「「

デデー
ン

全員 OUT

ライオトルーパー「ファイア！」

バ
シ
ン
！

「アダム、げえ！」

エミリア「があ！」

コート「うお！」

ルミア「べえ！」

シズル「ばはあ！」

「バナージ、げへえ！」

剣崎「ウエエエエエー！」

シズル「おい、チェックインなしではいつてったぞ！」

数分後

土方「お前ら、これから風呂だ。何と、混浴だぞ。」

ユート&シズル「……………」

アダム「どうした？鼻血は？」

ユート「いや、この二人はちょっと……………」

シズル「僕は巨乳がいい……………」

土方「…………セクハラのペナルティだ。」

デデン

『ユート シズル 馬場チョップ』

ライオトルーパー「ファイルンドフォース！」

バガン！

ユート「ぎゃああ!!」

シズル「ごえええ!!!!」

土方「ちなみに異性のタオル剥いだりとかしたら即タイキックだ。」

ユート「マジで?」

土方「マジで。」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 9（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：21発

エミリア：19発

ユート：18発

ルミア：18発

シズル：21発

バナージ：18発

後、この話はボッスンさんがゲスト参戦します。

「アダム、覗きを快く思わない全ての男に謝れエエエエエエエエ！！！」

ルミア「やあああめえええてえええ!!!」

鏡水「イヤン！」

マスターボブ「何見てるの！」

西郷「通報するわよ！」

蒼辰「ヘンタイ！」

シズル「オカマアアア！？」

ユート「僕らのドキドキを返せえエエエエエ！！」

デデーン

『ユート ドラゴンライダーキック×6』

『シズル シザースアタック×2』

真司「ゴメンユート！」

リュウガ「当然の報いだろ。」

シンジ「……ごめりんこ。」

ボッスンさん「自分が悪いんですYO。」

キット「ゴメン、今回は君らが悪い。」

アダム「おとなしくしてろよ。」

須藤「いきますよ！」

リッチー「悪く思うな、百万ドルのためだ！」

『『『ファイナルベント』』』

『『『ファイナルベント!』』』

ドッガアアアアアアアアアアン!

「ユート、いつでええええ！！！」

[illegible]

「アダム、シザースアタックって確かいちばん低威力なんだっけ？」

ルミア「ええ。でも、トン数に直したら150t、エンペラームンブレイクを凌駕しています。」

エミリア「ギャグ小説じゃなかったら死んでたわね。」

「バーナージ……ですね。」

エミリア「そういえば、アダムとバナージは覗きとかしないの？」

「アダム、俺一応ルミアという彼女いるから。まあ俺貧乳の方が好きだからってものちょっとだけあるけど。」

「バナージ、ゲストがそんな事したらダメでしょ。」

エミリア「うっわ、アダムに興味マニアック……」

ルミア「じゃあ水着の時も……」

「アダム、うん、お前スツゲエ良かったと思う。」

ルミア「アダムさん……」

アダム「ルミア……」

エミリア「おっ、いい雰囲気……」

デデーン

『アダム ルミア O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「空気読めよジャツジグツヒヤア！」

ルミア「あがぁ！」

デデーン

『アダム O U T』

アダム「えゝ ええええええええ！？」

エミリア「あ、ケチつけたからだね。」

アダム「ウゾダンドコードーン！」

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「ぐべらあ！」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv r 雑務 PART10 (前書き)

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：23発

エミリア：19発

ユート：25発

ルミア：18発

シズル：23発

バナージ：18発

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART10

土方「お前ら、寝る時間だ。寝室に案内するからついてこい。」

6人「くくくくくへーい。くくくくく」

（寝室の入り口に入っすぐ）

土方「ベッドはもう割り振られてる。エミリアとバナージはアレだ。」

「

エミリア「二段ベッドね。じゃああたしは上で。」

バナージ「俺はどっちでもいいですよ。」

土方「ユートはあれ。」

ユート「畳みベッドか。僕は好きだぞ。」

土方「アレがシズルの。」

6人「くくくくくぶふっ！くくくくく」

（蓆の上にタオルケットが敷いてあるだけ。）

デデン

『全員 OUT』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「があ！」

エミリア「げえ！」

ユート「おう！」

ルミア「うああ！」

シズル「ごええ！」

バナージ「ばはあ！」

土方「アダムとルミアはアレだ。」

アダム「……なんでツインベッド？しかもキングサイズの。」

ルミア「しかもなんか置いてありません？ティッシュとか避妊器具

とか…」

土方「なんでって、やるんだろ？『ドキューン』とか『ドキューン』とか。」

アダム「スるか！」

ルミア「しませんよ！」

シズル「やれよ！」

エミリア & amp; バナージ「ふふっ」

デデン

『エミリア バナージ O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

エミリア「べへえ！」

バナージ「ごへえ！」

ユート「…おい、全員の枕もとに」

バナージ「ありますね。」

シズル「……ボタン……」

アダム「…俺から押すぞ？」

ポーン！

デデーン

『アダム スーツ破壊』

アダム「ウゾダンドコードン！」

ライオトルーパー「ファイア！」 アクセレイガンで首元のメー
ターを突く

バリッ！

アダム「スーツが！スーツがオシヤカになった！」

エミリア「次はあたしね。」

ポーン！

デデーン

『エミリア ボディーブロー』

ライオトルーパー「ファイランドフォース！」

ドスッ！

エミリア「ごへえっ！」

ユート「僕は何だ？」

ポーン！

デデーン

『ユート パイ』

ライオトルーパー「ファイア！」 パイをユートの顔に叩きつける

ベチャッ！

ユート「……」

ルミア「次は私ですね。」

ポーン！

デデーン

『ルミア 顔面パンチ』

ライオトルーパー「ファイナルドフォース！」

バゴォン！

ルミア「ボハア！」

シズル「僕が次だな。」

ポーン！

デデーン

『シズル お尻吹き矢』

ライオトルーパー「ファイア！」

ブッ！ドスッ！

シズル「ぎいやあ！」

バナージ「……俺は何なんだよ……」

ポーン！

デデーン

『バナージ チ○コマシーン』

ライオトルーパー「ファイルンドフォース！」

バシイン！

バナージ「ボギヤアアアアアア！……！」

エミリア「……とにかくもう寝よう。」

ルミア「あの……襲わないでくださいよ?」

アダム「お前こそヘンな気起こすなよ?」

ユート「おっこっせ!おっこっせ!」

バナージ「もう黙って寝ましょうよ。」

シズル「お休み……ん?天井見る。」

5人「……?」「」「」

(天井が開いてスクリーンが出てくる)

バナージ「俺のベッドの天板にもスクリーンが……」

相川「オレアクサマヲムツコロス！」

マリク「オオオオオ……………ア、アアアアアア！！」

（スクリーンに相川ムツコロフェイスとマリク顔芸が半分ずつ）

6人「……………ブツハツハツハ！」……………

デデーン

『全員　OUT』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「がはあ！」

エミリア「ぼへえ！」

ユート「げへえ！」

ルミア「ばはあ！」

シズル「んげえ！」

バナージ「ヴォアア！」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 PART 11 (前書き)

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：26発

エミリア：23発

ユート：28発

ルミア：22発

シズル：26発

バナージ：22発

エミリア「うーん、良く寝たー。」

シズル「…おはよう…おい！アダムがパンツ一丁だぞ！」

ユート「僕がやったんだ！起きた時にアダムが面食らった顔が楽しみだウアッハッハッハッハ！」

デデン

『ユート O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

ユート「がああ！」

ルミア「…うーん…あ、アダムさん……」

アダム「おはよー………どうおああー！なんだこりやああー!？」

ルミア「…分かりました…もう結婚しましょう…」

アダム「イイイイイ俺何が起こってるのかわかんねえって！」

エミリア「あ、それユートの悪戯だって。」

ブチッ！

ルミア「よくも……よくも私達をおおー！！！」

アダム「俺らは真剣に愛し合ってるんだよおおおおー！！！」

シズル「ト○コみたくスタンドが見える……」

アダム&ルミア「氏ねええええー！！！」

ユート「千年早いわ！」

『ファイナルベント！』

ルミア「フラッシュタイミング！マ○ック『ヴィクトリーファ○ア』
を使用！」

バナージ「いい加減にしてくだちい。」　ビームマグナムを二丁構
える

アダム&ルミア&ユート「」「」「ごめんなさい。」
「」

土方「お前ら、朝礼があるから行くぞ。」

エミリア「絶対絡み来るわね。」

（朝礼の会場）

士「えー、ただいまより、ケンジャキウエイプリンスホテルの朝礼を始めます。まず、優秀ホテルマンの表彰です。ガンを使った多彩なパフォーマンスでお客様を魅せたこの人たち！ガンライダーズです、どうぞ！」

（氷川、北岡、修二、ダディ、威吹鬼さん、風間、海東、ドリユーが登場）

ザドルノフ「眠るがいい！」　ギャラリーからモシンナガンで海東を狙撃

ダン！

海東「トラストバリア！」

『カメンライド　トラスト！』

トラスト「おげえ！」

アダム「ふふっ」

デデン

『アダム O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「ぎゃあ！」

士「えー、最後ですが、アंक副支配人愛用のハンカチが盗難に
われました。これと同じガラのハンカチです。」 ターミネー
ターのT-800がプリントされたハンカチを出す

エミリア「えーっと……ない。」

シズル「…良かった、ない…」

ユート「……………」 T-800ハンカチを取り出す

5人「「「「「ぶふっ！」「」「」」

デデン

『アダム エミリア ルミア シズル バナージ O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「があ！」

エミリア「げえ！」

ルミア「ごお！」

シズル「ああ！」

バナージ「べえ！」

アंक「おいお前、あがって来い。」

（犯人にはお仕置きビンタ）

ユート「ちょっと待って待って、僕やってないからマジでやっ
てませんから……」

アंक「まず謝れ。」

ユート「イイイイヤ待つて待つて！」

ルミア&シズル「ふふっ」

デデン

『ルミア シズル O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

ルミア「がはあ！」

シズル「ぼへえ！」

アंक「……謝れ……謝れつつてんだろおがあ！」

ユート「わああ！痛い耳がああ！！」

5人「ブフッ！」「」「」

デデン

『全員 O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「があ！」

エミリア「あばあ！」

ルミア「べへえ！」

シズル「ごああ！」

バナージ「いつだあ！」

ユート「待ってください……助かる道はないんですか？」

アंक「…もういい、齒あくいしばね。」

ユート「分かりました！分かりましたけど、あの、利き腕じゃない方でいいですか？」

アंक「よし分かった」 左手にグッダ・イツガ装着

ユート「イヤイヤイヤグーはやめてグーはやめてええ……！」

アंक「もう黙って受ける。よし、行くぞ。」

ユート「……」

ピシャアアン！

デデーン

『全員 OUT』

バシン！

アダム「がへえ！」

エミリア「ばはあ！」

ユート「……」

ルミア「うげえ！」

シズル「いったあ！」

バナージ「いてえ！」

土方「よし、帰るぞ。」

エミリア「ユートくんマイ。」

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 ファイナル（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：29 発

エミリア：25 発

ユート：29 発

ルミア：25 発

シズル：29 発

バナージ：24 発

絶対に笑ってはいけないホテルマンv.r 雑務 ファイナル

土方「お前ら、これでホテルマンとしての仕事は終わりだ。帰るぞ。」

エミリア「ホテルマンらしい仕事一回しかしてないじゃん……」

アダム「よかった、これで終われる。」

土方「ってなわけで、支配人の所に挨拶に行きたいんだが、急に仕事で出るとかだから、副支配人の所行くぞ。」

ユート「ガクガクブルブル……」

土方「副支配人、失礼しま……」

アंक「オラアアア！！もつとだ！もつとなけ！わめけ！泣き叫んで許しを乞ええええ！！」 ガンツスーツを着用し、アंकを縛り上げてコンサイコンでボコ殴り

アंक「いっだい！いっだああ！！もう許してエエエエエ！！！」

6人「「「「「ぶふふつ」「」「」「」

デデン

『全員 OUT』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「があ！」

エミリア「げえ！」

ユート「ばはあ！」

ルミア「おう！」

シズル「ごああ！」

バナージ「ぎい！」

ユート & アンクル「ガクガクブルブル……」

ルミア「アंक……意外とドSなのね……」

シズル「あの…僕も一応Sだけど……」

エミリア「あんたはSキャラじゃなくて不憫キャラでしょ。」

シズル「言つな」

アंक「おいお前ら、何くっちゃべってんだ。」

エミリア「げ・・・」

アंक「人が話してんだぞ。おいお前、ちょっと来い。」
シズル
を手招き

シズル「…いや…あの…何なんですか……」

アंक「お前何私語してんだつつてんだよ。」

シズル「いや…エミリアも話してたし…」

アंक「ああ？誰が話してんだよ？誰も話してねえだろ。」

シズル「いやだつてさっき……」

アダム「お前が喋るのがいけねえんだろ。」

バナージ「見捨てましたか…」

シズル「いや…あの……」

アंक「おいお前、齒あ食いしばれ。」

シズル「……」

ヒュイイイイン ミシミシミッ……

ピツシャアアン！

シズル「ぼべらああ！……」

5人「……ふっ」「」「」

デデン

『アダム エミリア ユート ルミア バナージ O U T』

ライオトルーパー「ファイア！」

バシン！

アダム「いつてえ！」

エミリア「なああ！」

ユート「ぼへえ！」

ルミア「があ！」

バナージ「げえ！」

(出口出てすぐ)

土方「よし、帰るぞ。もうルミアの催眠術も解けてるんじゃないかねえか？」

アダム「あの……ルミア？」

ルミア「は、はい……何です？」

アダム「あ、あのさ……こ、今度、クラッド6で夏祭りあんじゃない？
それさ……あの……一緒にいかねえか？」

ルミア「……え？」

アダム「い、いや……ダメならいいけど……」

ルミア「いいですよ！」

アダム「え？いいの？」

ルミア「はい！私でよければ喜んで！」

アダム「ルミア……」

デデーン

『アダム ルミア OUT』

土方「笑っていいなんてまだ一言も言ってねえぞ。」

ライオトルーパー「ファイア！」

アダム「詐欺だアアアアアアアアアアアア！」

ルミア「あひいい！！いいわああ！もつとお！アダムさんも殴ってええ！！！！」

アダム「……チクシヨオオオオオ！！！！ウワアアアアアアアアアアン！！」泣きながらルミアを殴る

ルミア「アッハアアアアン！もっといじめて欲しいイイイイ！……！」

ネットでの恋愛相談は非リア充の方々が怒るからやめた方がいい。

アダム「なあエミリア」

エミリア「何？」

アダム「俺今度ルミアと夏祭り行くことになったじゃん？どうすればルミア喜ばせられるか分かる？」

エミリア「うーん、あたしじゃちょっと……ネットで意見募ってみたら？いいサイト紹介するから。」

アダム「なんか反感買いそうだけど、まあやってみるか。」

（アダムのパソコン部屋）

アダム「えーっと、『安藤優 親しくしてる女性の方と夏祭りに一緒に行くことになったんですが、僕はそういう経験がないのでどうすればその人を喜ばせられるかわかりません。誰か教えてもらえませんか？』っと。」

甘党侍『安藤優さん、それは女運がない人たちにケンカを売ってると見ていいんですか？なんかいらつくんですけど。』

アダム「あ、ちょっとまづかったかな。『不快な思いをさせてしま

ったならすいません。でも僕は本当に困ってるんです。」「

緋色の剣『そうだな……まず、相手の服装なんかを褒めてみるといいんじゃないか？それと、花火のいいスポットを教えて、一緒に見るとか。』

電車侍『ご飯代全部持つとかはやめた方がいいんじゃないかな。でないと相手も気を遣いますから。』

アダム「おっ、アドバイス来た。えっと『有難うございます、緋色の剣さんに電車侍さん。』っと」

関連弁当『物陰に連れ込んで押し倒してやれ！』

漆黒の太陽『リア充氏ね氏ね氏ね氏ね氏ね』

平和鏡『コジマイズゴッド！コジマイズゴッド！』

親衛隊長サラムンダー『うるすらさんじゅうにさい！』

剣の王子『ブルアアアアアアアアア！……！』

黒翼の砲弾『ウェーイー！』

二人目のHB『ネギだけで十分ですよ！』

アダム「どんだけ荒らされんの。マジどんだけ荒らされてんの？つてか大体誰が書きこんでるか想像つくんだけど。」

フルーツポンチ侍「安藤優、貴様、ここはそんな話をする場所ではない（以下略）」

アダム「うっわ、ズラが出てきたよ。となると次に出てくんのは……」

フルーツチ○ポ侍「お前なんかより俺の方が相手を思ってるんだよ！ただ俺は人より恋の仕方が不器用でしつこくて陰湿で一方的なだけだ！」

フルーツポンチ侍「貴様、俺の名をかたって何を言ってる！」

フルーツチ○ポ侍「お前こそ俺を装いやがって！」

フルーツポンチ侍「切腹しろ切腹しろ切腹しろ切腹しろ」

フルーツチ○ポ侍「お前が切腹しろ！」

アダム「やっぱり近藤だ……えっと」口論なら別のスレでやってもらえますか？フルーツポンチ侍さんにフルーツチ○ポ侍さん」

フルーツポンチ侍「フルーツポンチ侍じゃない！ヒューガだ！」

アダム「なにやってんだあんたはああああああ！！！！お前近藤を非難できたタチか！？お前も桂のハンドルネーム使ってんじやねえか！」

天の道を往くもの『それならおれに任せろ。全てにおいて完璧な俺がとっておきのアドバイスをしよう（以下略）』

アダム「役に立つけど……なんかムカつく……」

闇の甲虫王者『お前腹立つんだよこのシスコン野郎が！サバ味噌のスクラッチカード外しまくったくせに！』

天の道を往くもの『言わせておけば……この引きこもり黄色目野郎が！』

闇の甲虫王者『バーカバーカ、ビーファイターのパクリ野郎が！』

天の道を往くもの『ならお前もあてはまるはずだ！』

闇の甲虫王者『シッスッコン！シッスッコン！バツバツコン！バツバツコン！』

天の道を往くもの『ヒドオオデョグッテルトヴツトバスゾ！』

闇の甲虫王者『オルアクサマラムツコロス！』

アダム「何やってんだこいつら……ん？新しいの来た。」

甲羅防御M『私も同じでした。親しくしてる男性の方のお宅に行くことになった時、何をしたら相手が喜んでくれるかわかりませんでした。』

アダム「このハンドルネーム……まさか……確かに一回家に呼んだけど……」

甲羅防御M『でも私は思っています。そう言う時に恥をかくのは確かに恥ずかしい。でも、そんな体験も、その後で相手と一緒にいるためのバネになるんです！だから恥をかくことを恐れないで！あなたがやりたい事をやってください！私はあなたの味方です！』

アダム「……『有難うございます、甲羅防御Mさん。分かりました。僕の遺志に従います！』っと。

………「ありがとな……」 パソコンルームを立ち去る

甲羅防御M『あ、その男性の方なんですが、すっごく素敵な人なんです！あの華麗な銃技や完璧な怪盗っぷりは』

海東『同姓だとしても見とれること間違いなしです！今度会わせてみたいです！』っと。

（甲羅防御M⇨海東）

ネットでの恋愛相談は非リア充の方々が怒るからやめた方がいい。(後書き)

突然ですがクイズをやります！

今回出てきた、以下の人たちの正体は誰でしょう？

・甘党侍

・緋色の剣

・関連弁当

・漆黒の太陽

・平和鏡

・親衛隊長サラムンダー

・剣の王子

・黒翼の砲弾

・二人目のHB

・天の道を往くもの

・闇の甲虫王者

ちなみにこの中には、最初のコラボキャラが一人だけいます！
ハンドルネームにヒントがあります。分からなかったキャラを除外

して送ってくださいてもかまいません。
答えは出来ればメッセージボックスに送信お願いします。

夏祭りでは必ず屋台泣かせが出てくる

チコ「おお、アダムじゃん！浴衣似合ってるぜ！」

アダム「へっ、ありがと。いやー今日に備えて買ったよ。
紺色の浴衣の下にスーツ着用

チコ「確かルミアとデートだっけ？アツツイね」

アダム「うるせえ！」

ルミア「あ、アダムさん！」 ライトブルーの地にアサガオが描かれた浴衣を着用

アダム「おっ、来たか……」

ルミア「ど、どうしました？」

アダム「……いや、メチャクチャかわいくなって……」

ルミア「ほ、ほんとですか？」

アダム「……ああ。ぶっちゃけスゲー好み……」

ルミア「……ありがとうございます。って言うかアダムさん……今日くらいスーツ脱いでもらえませんか？」

アダム「イヤダコレガナイトキャラガタナイ」

ルミア「…もういいです。とりあえず回りましょーよ。」

ルミア「あ、私射的やりたいです。」

スネーク「らっしやい。一回300メセタだ。」

アダム「…あれ？景品置いてくないか？」

カズ「景品を直接撃つと傷がつく恐れがあるからな。って言う事でここは点数制になってる。制限時間1分以内に海東の顔が出てくるから、それをより多く撃てばより多くの点数がもらえ、それに応じてもらえる景品もいいものになる。」

ルミア「やります。はい300メセタ。」

カズ「ハイよ。得られた得点はヒューイがモニタリングしてる。」

ルミアにM63A1の機関銃バリアントを渡す

ルミア「ヒヤアアハハハハハ！氏ね海東シネ海東氏ね氏ね氏ね氏ねええええ！」銃を乱射

アダム「ルミアがドSモード入ったよ…」

ルミア「ヒヤアアアッハッハ！」

ヒューイ「スネーク見てくれ！得点がカンストしてる！」

アダム「ウゾダンドコドーン！」

カズ「3…2…1…時間だ！ヒューイ！得点は…カンストだったな。つてなわけで一等から好きなのを選んでくれ。」

ルミア「ん…よし、これにします。」 SHカイザを取る

カズ「まいどあー」

海東「ルウウウウミイイイイイアアアアアさあああああ
ああん！」 景品の山の陰から登場

アダム「あ、リアル海東。」

ルミア「…ミラーさん、M63A1もうちょっと貸していただけませんか？」

カズ「ああ。」

海東「ルミアさん！僕と一緒に回ります」

ルミア「氏ねゴミ屑海東がアアアアア…！」 銃を乱射

海東「ギヤアアアア何するんですかルミアさああん!？」

ルミア「ヒヤッハアア!もつとよ!もつと悲鳴を聞かせなさい!私をその悲鳴で楽しませなさい!ヒヤアアアアッハッハッハッハハハハハハ!ああ海東をいたぶるのって本当に楽しい!」

アダム「ルミアアアア……」

エミリア「あ、アダムにルミア。」

アダム「うつすエミリ……」

ルミア「……」

エミリア「ん?どうしたの?……はっはーん、私の浴衣に見とれてるのね!」

アダム「……いや、金髪とその赤い浴衣……」

ルミア「…恐ろしいほどミスマッチ……」

エミリア「ガゴーン!」

ユート「アダムには言われたくないだろう!お前そのスーツが浴衣を台無しにしてるぞ!」

「アダム、コレガナイトキャラガタタナインダヨ。」

亜樹子「いや、あつてもなくても同じじゃない？」

「アダム、うわ！？いつからいた？」

亜樹子「いつからって、ずっとここで屋台やってたよ？」

翔太郎「なんかコラボWをウチに置くことになってな。んでいま家計が火の車だからこうして屋台出して金稼いでるんだよ。」

リイマジフィリップ「僕のパートナーはさいきんずっとPCで掲示板荒らしてばっかだからね。手伝いに無理やり連れ出した。」

「アダム、やっぱりあの二人目のHBって澤木か。」

ルミア「…ここはタコ焼きですか。」

「アダム……え？……タコ……」

ルミア「どうしました？」

「オオオオオオオオオオ！！！！NOoooooooooooooooooooooo
ooo!!!!」 真つ青な顔してハイパーカブトもびっくりのスー
パーダッシュで逃亡

ルミア「待って下さいよおおお！」

翔太郎「説明しよう！アダムはタコが大の苦手。P S Gパート1のキャラ紹介でもさりげなくそのことに触れているのである！」

リイマジフィリップ「誰に話してるんだい左翔太郎？」

寝転がって見る花火は意外と豪快で良かったりする（前書き）

最初に言うておく。

ルミアファンの方々ごめんなさアアアアアアアアアアアアア
い！

寝転がって見る花火は意外と豪快で良かったりする

ルミア「とりあえずご飯買いましょう。お腹減りました。」

アダム「おつ、アツチに屋台あるぞ。」

永司「イラッシャイ！」

アダム「あ、焼きそば一つ」

ルミア「私はモダン焼きにします。」

永司「ハイよ！合わせて500メセタだよ。」

アダム「おうよ。」 払う

アंक「焼きそばとモダン焼き一つずつ！」

リイマジアंक＆咲魔「ハイよ！」

ルミア「コラボキャラの屋台ですか。」

アダム「ノリノリだなリイマジアंक。」

咲魔「お待ち！モダン焼きだよ！」

ルミア「頂きます…おいしいけどなんか変わった味……あれ？なんかはいつてる…何これ？パズルのピース？」

咲魔「私特製のモダン焼きだよ！特製辛味噌ソースがポイントデス！」

アダム「咲魔がどんどんオンドウルに浸食されてる……ってか何？アイツギャレンにでもなったのか？」

ルミア「アダムさんのはどんなのなんですか？」

アダム「……何気に富士宮焼きそばだ…ヤバイ俺これ大好き」

ルミア「一口！一口ください！」

アダム「おう、いいぜ。ハイアーン」

「見ててすっごいムカつく……」

咲魔「とりあえずリア充砕け散れ」

翔太郎「店の人々を盛大にイラつかせた二人であつた…」

リイマジフィリップ「誰に話してるんだい左翔太郎？」

ルミア「あ、もうすぐ花火ですね。一緒に見ましょうよ。」

海東「ルミアさん！僕がとっておきの場所を教えて」

ルミア「今ここで死ぬのと後で歪曲空間に放り込まれるのとどっちがいい選べ。」 海東にショットガンを突きつける

海東「……」 黙って泣く

アダム「あ、それだったら任せな。隠れスポット紹介してやるよ。」

ルミア「隠れ……って言う割にはちらほら人が見えますね。」 フルボッコになった海東を縛って引きずってきた

アダム「まあ、そこは気にすんな。俺ら意外に誰かいても別に問題ないだろ？よからぬことする訳じゃないし。」 海東を近くの池に投げ捨てる

海東「ルミアさんブクブク……」

（花火が上がり始める）

ルミア「……きれいですね。」

アダム「……ああ。」

エミリア「あの二人結構いい感じになるんじゃない？」 物陰から
観察

ユート「姦れ！姦れ！姦れ！」 エミリアに同じく

シズル「いやここは無理だろう他の人もいるし。というか君たちは
何なんだ？」

E3「決まってるだろう、妹の監視だ。」 グラサンをかけてスナイ
パーライフルを構える

デレシ「あの男がルミア・ウェーバーによからぬ事などすれば、問
答無用で命を絶ってくれる！」 E3に同じく

アダム「……初めて会った時はさあ、こんな関係になるなんて思い
もしなかったよな。」

ルミア「……ホントですね。私もそんな事考えもしなくて。……でも
アダムさん。」

アダム「ん？」

ルミア「今は……もっとあなたと一緒に……いたいです。」

アダム「……俺もだよ。もっとルミアと一緒にいたい。」

ルミア「……ありがとうございます。」

アダム「……」　ルミアの肩に手を置く

E3「あいつら！もう許さなげふはあ！」　エミリアにボディープローを喰らう

デレシ「アダム・マクスぼらあ！」　E3と同じ

エミリア「二人の邪魔しないの！」

アダム「俺からも…ありがとな。俺なんか、受け入れてくれて…」

翔太郎「二人が初めての口づけを交わす上では、色とりどりの花火が咲き誇っていた……」

リイマジフィリップ「毎度毎度君は誰に話してるんだい左翔太郎？」

三人寄っても文殊の知恵とか湧かないことの方が多かったりする（前書き）

今回は下ネタに結構頼ってるので、嫌いな方は読むことをお勧めし
ません。

三人寄っても文殊の知恵とか湧かないことの方が多かったりする

ユート「おねえさん、何の用なんだ？」

ナギサ「単刀直入に言わせてもらう。……カップラーメンの作り方を教えてほしい。」

ユート「……はい？」

ナギサ「だから、カップラーメンの作り方を教えてくれと言ってるんだ。」

ワイナール『旧文明にカップラーメンなかったからね。僕にも分かんないんだ。』

ユート「何で僕なんだ？そんなの僕も分かんないぞ。」

ナギサ「いや、他の人も当たったんだが、

アダム：ルミアとデート

エミリア：シズルと一緒にアダム&ルミアのデートをこっそり尾行

ってな感じでな。で、貴方に白羽の矢が立ったという訳だ。

」

ワイナール『何でか知らないけど作り方あんまり詳しく書いてないんだよ。』

ユート「……じゃあ僕らで考えよう。三人寄ればなんとやらって言うし。」

ナギサ「こんな文章を発見したんだが。」

ユート「なにになに？『熱湯3分』」

ナギサ「ネットウ……熱闘……熱い闘い？」

ユート「熱い……愛撫（闘い）？」

ワイナール『いや、熱湯ってお湯の事だよ？』

ユート「チッ！」

ナギサ「何だそうなのか。じゃあさっそくお湯を」 蛇口を回す

ワイナール『あれ？お湯でくない？』

ユート「ああ、なんかこの前スイドウダイを払えって手紙が来て、怪しかったから無視したらその数日後に水出なくなった。」

ワイナール『水止められてんじゃん!』

ナギサ「…どうする?」

ユート「……おねえさん、ちょっと向こう向いてろ。」ズボンのチャックに手をかける

ナギサ（ワイナール）『アホか!』 ユートにグラビティブレイク

ユート「ばっはあ!」 チートなので無傷

ワイナール『ガイアメモリからの下品なレモン汁で湯わかすなよ!』

ユート「じゃあおねえさんの聖水で」

ナギサ「セクハラ発言はやめろ!」

ユート「チツ!股間のガイドライバー見れると思ったのに。」

ナギサ「ヘンタイ!」

ユート「男は皆スケベだ!」

ワイナール『そう言う奴が一番スケベなんだよ。それより二人とも水持ってないの?』

ナギサ「…あ、ナノトランサーにい〇はすすってた。」

ユート「でかした!」

ワイナール『電気とガスは使えるの？』

ユート「あ、それは大丈夫だ。」

ナギサ「じゃあ早速お湯をわかそ…あ。」

ワイナール『どうしたの？』

ナギサ「このカップラーメン、特殊なバリアで守られている！」
ビニールを突つつく

ユート「ドケ！ブチャブル！」 ユートブラスト発動

ワイナール『やあめえええろ！そんな事したらラーメン消えるから
！』

ユート「じゃあどうすればいいんだ！」 変身を解く

ナギサ「斬って見せよう！」 剣を構える

ワイナール『やあめええええろ！それバリアじゃない！絶対ビ
ニールだから！』

ユート「あ、缺ならあるぞ。」

ナギサ「なんだ、早く言え。」 ビニールを切る

ワイナール『じゃあ、次はお湯をわかそう』

ユート「電気ケトルならあるぞ。」

ナギサ「3分たったぞ。」

ユート「よし、開けよう。」

ワイナル「おいしそうじゃん。」

ナギサ「頂きます。……うん、うまい。」

ワイナル「それは良かった。」

ユート「よかったな。ちゃんと作れて。」

ナギサ「これもお前のおかげだ。」

ユート「ありがとうな。」

ワイナル「浮気なんかじゃないよね。」

ナギサ「当り前だ！」

ユート「一口くれ！」

ナギサ「ああ。」 具だけとる

ブチッ

ユート「メンモヨコセエエエエ！……！」 ユートブラスト

ワイナール「ぎゃああああ……！キレた！ブチギレた！」

ナギサ「どうする？」

ワイナール「逃げろおおお……！」

ヒーローショーは金払わなくても場外から十分見える

ユート「仮面ライダーショー試写会？」

クラウチ「そうだ。ウチって仮面ライダーがアホほどいるだろ。ウチのPRも兼ねてな。」

エミリア「で、どの作品のショーやるの？」

クラウチ「それは決まってる！よし！発表するぞ！」

(当日 観客席で)

ルミア「アダムさん！コルトバジュース買ってきましたよ！」

アダム「お、サンキュー！ほれ、ポップコーン！！買ってきたから。」

ルミア「あ、これ、私が一番好きなキャラメル…ありがとうございます。」

アダム「ルミア……」

シズル「殴りたいしばきたいフルボッコにしたいボコボコにしたい……」

エミリア「あきらめなさい。あたしたちは一生初体験できないのよ。」

ユート「僕には関係ない。」

シズル「リアル嫁がいる超リア充は黙ってる！」

エミリア「もう始まるわよ、静かにしなさい。」

ハル「長らくお待たせしました！ただいまより、仮面ライダーショーを開始します！さあ会場の皆！大きな声で仮面ライダーを呼びましょう！せーの！」

観客「『『『『『
仮面ライダーアアアアアアアアアア！！
！！！！！！」

キット（オニクス）「フハハハハハ！この劇場は我々が制圧した
あ！」

クリス「我らに逆らえば貴様らの命の保証はない！」

ケイス「安心なさい！おとなしくしていれば命まではとらないわ
！まアあなた達には私達のための駒になってもらっけどね！ハハハ
ハハハハハハ！！」

アダム「キットはともかく、クリスとケイスはちょっとなあ……」

ルミア「じゃあ主人公はレンさんですかね？」

???「「「待てえええい！！！」」」

エミリア「誰か出てきたわね。」

シズル「ヴィックとかか？」

リッチー「出たな、悪の組織ゲロシヨッカー！」

ドリュウ「俺達が来たからには、貴様らの野望はここでついでるの
だ！」

JTC「行くぞ皆！俺達の正義の力を見せてやるんだ！」

ルミア「インサイザー、トルク、ストライク……」

アダム「おっそろしいほど正義が似合わない奴しかいない……」

ルミア「つか悪の組織の名前酷すぎませんか？」

JTC「行くぞ！変身するんだ！」

3人「「「KAMEN RIDER！！」」」

キット「それがどうした！いけ！我が兵たち！」

『『TRICK VENT』』

『『トウリック ベーント！』』

秋山蓮、羽黒レン、レン「「「イーン！」」」 全員トリックベ
ントで分身

アダム「トリプルレンかわいすぎるだろ……」

リッチー「皆！行くぞ！」

『『ストウライク ベーント！』』

『『ソード ベーント！』』

3人「「「おりやあああああ！……！！！！」」」

トリプルレン「「「イーーーーッ！！」」」 なぎ倒される

アダム「とことん可哀そう……」

キット「何だと？我が兵たちが一瞬で…所詮雑兵は雑兵か！」

クリス「オニキス將軍、ここは我々に任せてください！」

ケイス「行きますよ！」

3人「「「来い！！」」」

（戦う）

ドリュウ「リッチー！ジェームズ！ちよつとどいてろ！」

『シュートベント！』

『ラUNCH ベント！』

ドリュウ「まとめて吹っ飛べ！」 ギガランチャー&ギガ
キャノンを同時撃ち

クリス&ケイス「「ぐわああああ！！！！」」 場外に吹
っ飛ぶ

キット「ちっ、こうなれば私が直々に滅ぼしてくれるわ！」

『サッバライブ モード！』

キット「本気で行くぞ。」 オニクスサバイブに変身

『ソード ベーント！』

キット「はあああああ！！！！」

（戦う）

リッチー「ぐああ！」

JTC「くっ、強い……」

キット「あきらめろ！我が闇の力にかなうはずがなろう！」

ドリュウ「…確かにお前は強い。しかし！俺達には、こいつらが！
家族とも言える、仲間達がいる！」

リッチー「支えてくれる仲間がいる限り、俺達は負けない！」

エミリア「ホントこの手のセリフ似合わないよね。」

ユート「シズル、なんか様子がおかしいぞ。」

シズル「……」 何かの紙をじっと見る

エミリア「シズル？」

シズル「……………頑張れええええ！！！！仮面ライダーアアアアアアアアアアアア！！！！紙を読み上げる」

子供A「がんばれ！仮面ライダー！」

子供B「仮面ライダー！！！！」

子供「！！頑張れライダー！！！！」

JTC「ありがとう、皆！」

ドリユー「その想い、無駄にはしない！」

キット「フン！応援が何だというのだ？すぐに楽にしてくれる！」

（戦う）

ガキーン！

キット「ぐああ！何だ、この力は……」

JTC「これが、想いの力だ！」

ドリュ―「俺たちの仲間の絆、受けてみる！」

リッチ―「これで、終わりだ！」

『『『ファイナル ベーント！』『』』

（ベノクラッシュとシザースアタックをお見舞いしたのち、ドリュ―がエンドオブザワールド）

キット「ぐあああああ！！おのれ…おのれデ…あつ違った仮面ライダーアアア！！」 場外に退場

アダム「ディケイドって言いかけたよな？絶対おのれディケイドって言いかけたよな？」

JTC「この世に悪がある限り！」

リッチ―「俺たちの戦いは終わらない！」

ドリュ―「覚えていてくれ！俺達が！」

リッチ―「カメンライダーインサイザー！」

ドリュ―「カメンライダートルク！」

JTC「カメンライダーストライク！」

アダム「絶対正義と悪逆の方がいいよな。」

ルミア「ですね。」

誕生日に一番楽しみなのはなんだかんだ言ってもプレゼント（前書き）

今回から青の被魔師を原作に追加します。

誕生日に一番楽しみなのはなんだと言ってもプレゼント

クラウド「おいエミリア、何か来てるぜ。」 エミリアに封筒を渡す

エミリア「……アダムの誕生日パーティ？」

『○月？日 曜日、チエルシーのバー『スコッチド・アース』でアダム・マクスウェルの誕生日パーティを行います。招待状をもらった人は絶対参加すること！理由なく欠席した場合はクサマラムツコロス！』

ウルスラ「……相川が書いた奴ね。」

クラウド「だな。」

エミリア「まあ、あたしはあいつのパートナーなんだし、参加するって。」

燐「何だこれ？パーティ？」

雪男「行つてきなよ。参加したばかりなのに招待されるなんて結構名誉なことだよ。」

しえみ「燐！なんか燐に頼みがあるって人が。」

翔太郎「よお。左翔太郎だ。よろしく。」

燐「よろしく。で、頼みって何だ？」

翔太郎「実は今、フィリップがトリコにはまった影響で料理に凝っててな。アダムの誕生日パーティに料理を持って行ってやりたいって言うんだが……」

燐「？」

翔太郎「アイツ、種類は知ってるのに腕前が絶望的なんだよ。お前が料理うまいって聞いたから、アイツに料理の指導をしてほしいんだ。」

燐「おう、任せろ。」

士「と言う訳で、『フィリップのポイズンクッキングを直そうの会』開始！」

ヴィヴィアン「今回はついでにエミリアさんにも参加してもらえます。」

士「ルールは簡単。お題に沿った料理を作り、審査員の奥村燐君に食べてもらい、評価してもらいます！」

燐「お前らはあれか？俺に死ねと？」

士「大丈夫、お前がFLY AWAYしたらシズルックの雪男君に代わりに務めてもらうから。」

雪男「誰がシズルックだ！声同じだけど！」

ヴィヴィアン「さあ行きましょう。最初のお題は『カレー』です。では料理開始！」

30分後

ヴィヴィアン「3、2、1、終了！」

士「では燐君、フィリップの物から食べ比べをお願いします！」

燐「…見た目は普通だな。頂きます。もぐもぐ…」

フィリップ「カレーは僕の得意料理なんだ。自信あるよ。」

燐「ぎゃあああああああ！！！！！！辛えエエエエエエエエエエ
エ！！！！！！」 青い炎を吐く

雪男「兄さああああん！！！！」

ヴィヴィアン「コメントをどうぞ！」

燐「……口の中で核爆発が起こったかと思った……」

士「次はエミリアのカレーです！」

燐「なんかいやなおい……頂きます。もぐもぐ……」

燐「びやアアアアア!!!xc bんしcバs j b塩はs b c機b
w l s詩b hさl w e l hなx kんさ。ん;アホx d p q h n j c
x l s n b c b k j l s z c b h s b c sカb c k lサb c k sバ
詩b s x c l b師c b sカb x c k l s b n x k z n。んさk h x
c c s h cフイh b氏ウオc kさb c sらb k z m x . k sなりh
s q p x c nさん;アx c jさお院x c k s b c j q gし王s c
がs x : q k d p@w k q c l ;んさk cびおs d s k n l v n d
んw d s kらんファイオb fほアアアアアアあ!!!!!!
!!!!!!」 血とゲロと泡と一緒に吐きながら転げまわる

雪男「もう止めたげてえええ!!!!!!」

しえみ「大丈夫、燐!」

燐「んヴいをえhヴいkうえl c f hうえi q c h p w qひおh c
k f s b f jうえgふいうgさl h c k s hぢb k d f lうえあ
……」

雪男「兄さんが謎の言語しか喋れてない……」

ヴィヴィアン「ではコメントお願いします。」

燐「cそこにおwちw q c n lさb h sばしうおq w b c j s b
しおb c v l q b c v l w q!」

士「形容できないひどさだと言っています。」

雪男「何で理解できるんだ。」

燐「b c sばしおびくおb l q w s b c きq pおsぱl x k n m a
k l x c n s j c b o w q x b s c f p e r w f h c w i q k l b
d s k a l ; c o u e o f g b w k j l g c s i a o g d w i o q
! ! ! !」

士「やってらんねえ！俺は帰る！だそうです。」

ヴィヴィアン「と言う訳でシズルック君に…」

雪男「m w q n j氏フォウエ h q cファイw hくいc f h wくいおh
j w s b c k j l w q b ! ! ! ! ! ! ! ! ! !」

しえみ「雪ちゃんまで！」

士「パンティー大爆発！だそうです。」

雪男「やってたまるか！って言ったんだ！」

誕生日に一番楽しみなのはなんだかんだ言ってもプレゼント（後書き）

明日から4日間、部活の合宿と家の旅行で家を空けます。
その間更新はできません。

ではパソコンに放置プレイをかまして行ってまいります。

誕生日ってのは歳食つと祝われなくなると小5の時の担任の先生から聞いた

チエルシーのバー『スコッチド・アース』にて…

メフィスト「アイン…」

メフィストアンド士&・ヴィヴィアン「…ツヴァイン…」

「

会場「……ドライン！」…

パン！パン！

（店中に設置したクラッカーを全部鳴らす）

会場「……ハッピーバースディ アダム！」…

アダム「Oh thank you my friends！」

ルミア「何故に英語なんですか？」

アダム「ワリ、ちょっとテンションあがって。」

士「さあ、これより、アダム・マクスウェルの誕生日パーティを開きます。まずは」

シズル「やはりお祝いの言葉とかか？」

士「欠席者を発表します！」

アダム「誕生日パーティーで欠席者報告とか聞いたことねえぞオイ。

」

士「え〜、新撰組の方々は重要な任務があつてこられません。また、PSZEROのメンバー達も招待したのですが、最近出番がまるで無い事で完全に地獄兄弟の様になり、出席を拒否。奥村燐君はエミリアとフィリップのポイズンフルコースでやられた精神がまだ回復せず、代理としてシズルツク雪男君が出席しています。MSFの面々はティガレックスとギアレックスを全部隊を挙げて狩猟している真っ最中です。」

雪男「誰がシズルツクだゴラあ。」

」

夏ミカン「そう言えば海東は？」

アダム「招待するわけねえだろ。俺の彼女のストーカーなんだから。」

」

クウキ「なるほど…ってかこの表記なんとかならないの？俺空気がじゃなくてクウガなだけど？」

夏ミカン「作者さん、後でOHANASSIしようね」「キバ―
ラサーベルを取り出す

（勘弁してください BY 作者）

士「え、続いては、鴻上光生会長から、お祝いの言葉です。」

（里中がテレビを持って登場）

鴻上『ハッピーバースデー！アダム君の誕生日を祝して、私から一言言わせてもらおう。』

ナギサ「後藤、彼は確かあなたの上司なんだろう？」

5103「会長が誕生日パーティーで話すなんて初めてだ。」

鴻上『おめでとう！新しいアダム君の誕生だア！すばらしいッ！』

クリス「声大き過ぎるだろ。」

トレント「我慢しなよ。」

鴻上『ケーキはもちろんだが、それ以外に君の誕生日を記念して、私からのプレゼントを里中君に預けてある。上手に使いたまえ！以上！』画面が消える

睦月「鼓膜がいかれるかと思いましたよ……」

ダディ「出鱈目を言うな！」

睦月「橘さんは耳栓してるから分からないんでしょうが……」

ダディ「ルミアの歌が出た時用だ。」

レオ「いや、サイトの規定上の理由でここのキャラは歌えないはずだが…」

士「ではプレゼントを渡します！まずはリトルウイングを代表してクラウド・ミユラーさんから！」

クラウド「おめでとうな、アダム。」 小さい箱を渡す

アダム「ありがとうございますクラウドさん。」

士「続いては、先ほど鴻上会長が行っていた、ケーキ以外のもう一つのプレゼントです！」

里中「おめでとうございます。」 渡す

アダム「……えっと…これって…どこからどう見ても」

里中「カメンライダードラゴンナイトのカードデッキのレプリカです。一応変身もできます。」

アダム「あ、有難うございます…」

エミリア「名前がかぶってるからだね。」

シズル「まア元タドラゴンナイトから取ったんだから、仕方ないと言えは仕方がないが。」

ヴィヴィアン「続いては、アダムさんの恋人、ルミア・ウェーバーさんからです！」

ルミア「あの……これ……その……と、とにかく！……おめでとーござい
ます。」 渡す

アダム「ああ。ありがとな、ルミア。」

海東「何故なんだ！何故僕ではなくアダムなんだ！あの中の人無しの全身タイツコスプレ刀野郎なんだああ！！！」フルーツが盛りつけられた器の中から、フルーツを蹴散らしてパンーで登場。

ルミア「死にたいの？」 超ドSブラックスマイルで海東の口の中にスコープオンの銃口をねじ込む

海東「るいあふあんモガモガ……」

E3 「何か海東に同情しなくなったのは俺だけか？」

「たぶん俺もだ。」

ヴィヴィアン「さあ、ここからのプレゼントはモノではなく、パフオーマンスです。まずは、ルミアさんからお祝いの歌です！」

会場 「 「 「 「 「 「
「 ! ! ! ! ! !
」 」 」 」 」 」

啓太郎「ルミアちゃんってかなり音痴だったよね……」

たつくん「いや、サイト規定上の理由で歌詞は使えないはず…」

ヴィヴィアン「曲はピンクレディーで、『UFO』です!」

アキ「また古い歌だ事…」

ルミア「ワン! ツー! あワンツースリーフォー!

『歌詞は自主規制しているがUFOを歌っている』

会場「「「「「ギヤアアアアアアアアアアアアアアアア!」」」」」
「「「

遊星「俺のライフポイント、8000中残り150…」

ナツ「その手があつたかギヤアアアアアア!」

銀時「ナスティベント…」

真司「ビヤアアアア!」

秋山蓮「ノオオオオオオオ!」

北岡「ギヤアアアアアス!」

浅倉「ヴォエエエエエエ!」

美穂「ごめんね…お姉ちゃん……」

リュウガ「真司iiiiiiiiiiiiiiiiiiii美穂が死にかけてるが！」

真司「美穂…ゴメン…俺もうダメだ…」

美穂「…いいのよ…最後に…あなたが…一緒にいてくれるなら…」

リュウガ「恋愛シーン展開してる暇があるなら耳ふさげエエエエエ
！……！」

（歌い終わる）

士「ハア…ハア…ありがとうございました…続きましては…草加…
雅人による、天津…木村の…エロ詩吟です…ゼエ…ゼエ…」 フラ
ッフラ

草加「ではお送りいたします。草加雅人のエロ詩吟。」

アダム（さっきの歌よりはましでありますように…）

草加「今日はアダムの誕生日パーティーiiiiiiiiiiiiiiii
iiiiiiiiiiii…」

パーティーiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii…

パーティーiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii…

あると思います！」 ドヤ顔

エミリア（意味不明。）

ユート（こんなネタ実際にあったけど！あったけど！）

[illegible][illegible]

真理「氏ねへンタイ！」
拳銃を発射

草加「ビヤゲエ！」
頭にヒット

たっくん「何やってるんだ真理！いくらなんでも殺しちゃ……」

真理「大丈夫だって、Mk2ハツシュパイーだから。」

三原「麻醉ならいいって事でも無くない？」

誕生日ってのは歳食うと祝われなくなると小5の時の担任の先生から聞いた
草加ファンの方々ごめんなさい。
続きは次回に持ち越しです。お楽しみに。

リイマジフィリップ「ならんならん、ならあぁん！これはあすで
に私のお仕事なのだよ。」 マガシのモノマネ

アダム「……おいちよつと待て…この麻婆豆腐…」

ルミア「どうしました？」 汗だく

アダム「タコ足入ってんじゃねえかアアアアアア！！！イヤアア
アアアアア！！！」 腕を振り回して暴れる

銀時& amp・シズル「オブウウウ！！」 アダムの拳が命中
して吹っ飛ぶ

ガシャアアン！

（銀時とシズルがぶつかってユートのプリンが粉々）

ユート「…僕のプリンに何してくれとんじゃあぁ！！！」 ユー
トブラスト発動して暴れる

銀時& amp・シズル「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい
！！」

ユート「ガルアアアアアア！！！」 爆炎ノ咆哮

（ユートの炎で映司のパンツが黒コゲ）

映司「俺のパアアアアアンツ！」 リアルタトバに変身して暴れる

真木「フオオオオウ！」 キヨちゃんを殴り飛ばされる

（キヨちゃんがシャンデリアに衝突、勢いでシャンデリアのチェーンを破壊）

相川「モボオツ！」 シャンデリアの下敷きになる

（相川のカリスアローが手を離れて中を舞い、アंकのＴシャツを切り裂く）

アंक「俺の新品のアイアンマンＴシャツに何してくれとんじゃあ
ああ！！！」 間違えて剣崎を殴る

剣崎「あんまりだアアアア！！！」

店の外

海東「…こうなれば！ディメンジョンシュートで店ごとアダムを吹っ飛ばしてくれる！」

『FINAL ATTACK RIDE DE・DE・DE・DE
END!』

剣崎「わあああああああ！！！」 店の外に吹っ飛んでくる

海東「おびゃああ！！」 剣崎とぶつかってディメンジョンシュート暴発

上空のグリモアハート

ザンクロウ「おい！エンジンブロックにエネルギー弾が当たったぞ！」

プレヒト「ウルティアを呼べ！」

ラストイローズ「ダメだ！メルディと飯を買いに行ってる！」

プレヒト「肝心の時にナニヤッテンデイスカ！」

ブルーノート「俺に任せろ。今日は飛べそうな気がする。」

プレヒト「お前は何もするな！」

ブルーノート「おあああ！！！！」

プレヒト「やああああめええええなさああい（真木風）！」

（グリモアハート墜落）

その下の建物の中

アポロガイスト「今やっているパーティに乱入して暴れれば私は迷惑な存在になれるのだ！」

ゼイビックス「ついでに邪魔なライダーもベントしてしまおう。」

鳴滝「ディケイドめに目にモノ見せてくれる！」

村上「クツクツク……オルフェノクのための世界までもう一步……」

カーシュ人A「ゼイビックス將軍！上空から何か墜落しています！」

カーシュ人B「映像出ました！」

（グリモアハート墜落が映し出される）

アポロガイスト「なにやあああ！！！？？」

ゼイビアックス「ウゾダンドコードン！」

鳴滝「おのれディケイドおおー!!」

村上「オンドウルルラギッタンディスカー！」

ズツドオオオオオオン！

翔太郎「計らずも世界を救った麻婆豆腐だった…」

リイマジフィリップ「ホント君は誰に話してるんだい左翔太郎？」

スコーチドアース店内

チエルシー「私の店を荒らすなら私を倒してからにしろ。」

エンプレス
女帝モード

ガンメタル
硝煙

ユート「スミマセン」

映司「ゴメンナサイ」

アダム「許してください。」

サプライズパーティーって一回されてみたいよね（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回の質問は、咲魔@魚とも呼ばれているさんから！えつと『主人公は誰ですか？』」

作者「明確な主人公はいませんが、途中参加したアダムはPSGで主人公をやっており、立場が安藤なので、アダムが主人公と考えてもらって問題ありません。」

質問は随時募集中。詳しくは活動報告で。

RPGと言われるとドラクエ的なのを思い浮かべる人が多いけど実際は一口にR

今回は外伝的な奴デイスヨダディアナザン！

『リトルウイング』というグループ名なのにリトルウイング以外のメンバーがいるのは見逃して。

RPGと言われるとドラクエ的なのを思い浮かべる人が多いけど実際は一口にR

翔太郎「遠い昔、はるかかなたの銀河系で…

女王ライア・マルチネスの統治により、平和と繁栄を謳歌する国家があつた。その名をグラール王国。

しかし、長き眠りから覚めた大魔王『カリス・ムッコロ
ー』が、王国を手中に収めるべく侵攻を開始。人々の抵抗も空しく、
王国は至る所を制圧されてしまう。

そんな絶望の中、希望を捨てず、武器を持ち、明日を信じて戦う戦士達がいた。

その勇者たち。人は彼らを『リトルウイング』と呼んだ！
担いだステレオから『Resurrection in the
Gantz Field』が流れる

リイマジフィリップ「誰に話してるんだい左翔太郎？」

383

アダム「えゝ皆さん良く集まってくれました。ではメンバーのリストがあるので出席を取ります。

見習いガンツ戦士^{プレイヤー} LV7 アダム・マクスウェル…俺だな。

新米美食屋 LV5 エミリア・パーシバル」

エミリア「あ、それあたし。」

アダム「剣豪の門下生　LV6　シズル・シュウ」

シズル「はい。」

アダム「魔法使いの弟子　LV5　ルミア・ウェーバー」

ルミア「ハイ。」

アダム「新米暗黒剣士…何か響きがすごいな…LV6　ナギサ」

ナギサ「私だ。」

アダム「見習いリンクベント　LV4　ユート・ユン・ユンカース
……見習いリンクベントって何だアアアア!?全然見習いじゃないじゃん!リンクベントって時点でもう免許皆伝じゃん!」

ユート「ヒドオオチヨグッテルトムツコロスゾ!」

エミリア「何か色々混ざってるね…」

シズル「しかし、ろくなレベルのキャラがいらないか?」

ルミア「確かにこれではクローにも瞬殺されそうですね。」

エミリア「せめて装備くらい整えないと。」

ナギサ「アダム、そのリスト、各人の装備は書いてあるか?」

アダム「ああ。じゃあ装備を確認するぞ。」

まず俺。武器：ガンツソード×2

Xショットガン

防具：ガンツスーツ

エミリア 武器：クラーリタ・ヴィサス

Xガン×2

防具：ガンツスーツ

戦場のヴァルキュリアに出演した時の鎧

ユート 武器：トウプ・ナスル

Xガン

ヌイの火炎放射機

ガトリングガン×2

防具：ガンツスーツ

シズル 武器：レンゴクトウ・グレン

レンゴクトウ・レンサ

ツミキリ・ヒヨウリ

防具：裸コート

ナギサ 武器：スティールハーツ

レールガン

防具：根性

…根性って何？どゆこと？」

ナギサ「確認を先にやってくれないか？」

アダム「へーいへい。

ルミア 武器：バトス○カード×45

ヴィエデーマ

防具：不要

まあ、確かにいらねえな。」

ルミア「ハイ！防具なんてつけたら快感が薄れてハアハア……」

エミリア「ドMでガードベントでナステイベントだもんね。」

ルミア「装備に問題はなさそうですね。ではやはりレベルを上げるべきかと。」

ナギサ「最初のステージならレベル上げにつってつけの弱い奴がうるちよろしてると思うが。」

ユート「じゃあ最初のステージにレッチラゴー。」

森1

アダム「森1ってそのまんまぶその第1ステージじゃん。」

エミリア「まアここだったらエルラッピーとかモスマントみたいなのが多いしね。」

ユート「どっからでもかかって来い！」

BGM「チャランチャランチャランチャランチャランチャランチャラン
チャランチャラン

テッテレーレ テッテレーレ チャー
ンチャラララララ
ララララー」

エミリア「何故にポ○モン？」

ゼイビアックスが現れた！

スーパァポロガイストが現れた！

ドラスが現れた！

リアルタトバが現れた！

千手オーズが現れた！

コマンド？

アダム「勝てるわけねえだろオオオオ！！！！」

戦う

特攻

命乞い

靴をなめて許しを乞う

DOG EZA

こびへつらう

国をルラギル

アダム「逃げる選択肢は無いんデイスカー!？」

ありません。

エミリア「いらないところだけ丁寧…」

ナギサ「当然戦う!」

アダムの攻撃!ガンツソード!

アダム「おっ、折れたあ(キット風)!？」

エミリアの攻撃!バータ!

エミリア「カッチーン…」

ルミア「自分が凍ってどうするの!？」

ユートの攻撃!ドウス・ダツガス!

ユート「折れたあ(真司風)!？」

ルミアの攻撃!ラフォイエ!

ルミア「あっひゃああ!熱いでしゅ!?!」 スカートに少しだけ引火

シズル「全部燃えろ！パンツ露わになれ！」

ユート「でもルミアのスカートの中って黒ブルマ＋ガーターだぞ」

シズル「マジかよ…」

シズルの攻撃！シズルよわよわパンチ！

シズル「腕がああ！！」

ルミア「何その攻撃。」

ナギサの攻撃！レールガン！

外れた！

アダム「急にまともになんなよ…」

リアルタトバの攻撃！リアルタトバキック！

全員力尽きました

報酬が0Zになりました

クエスト失敗です

シズル「何故にここはモ〇ハン！？」

続きは次回。

RPGと言われるとドラクエ的なのを思い浮かべる人が多いけど実際は一口にR

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「カイルさんからの質問。『この世界で最強は誰ですか？』

」

アダム「えーっと、ランキングはこちらです。

1位：チエルシー

2位：ユート

3位：映司

コラボキャラは選考対象にいれてませんが、永司は大体ユートと同じくらいです。」

ラスボスは大抵複数の形態がある

翔太郎「それからしばらくして、アダム達は格段にレベルアップを遂げていた…」

リイマジフィリップ「誰に話してるんだい左翔太郎？」

翔太郎「読者だよ。」

リイマジフィリップ「はじめて答えた…」

魔王カリス・ムッコローの城の前

アダム「…いよいよだな。ってかこの門何？何でムッコロフェイスをかたどってんの？」

エミリア「せめてハートにしてほしかったよね。」

シズル「とにかく城にはいるぞ。」

ユート「入るところが口なのが嫌だ…」

城の通路

???「誰だ!」

アダム「見つかった!」

ナギサ「いや、あれは…」

5103「お前たち?何でこんなところにいる?」

アダム「見ての通り、カリス・ムッコーローの討伐だよ。お前もそうなのか?」

5103「ああ。」

ナギサ「だったら私達と同行しないか?」

5103「ああ、構わない。伊達さんも里中もやられてしまったからな…」

ルミア「そうだったんですか…」

5103「精神的に。」

皆「「「「「「?」「」「」「」

相川「フハハハハハハ！！よくぞやってきたな勇者たちよ！俺様が魔王カリス・ムツコーローだ！」 カリスに変身している

ユート「出たな！」

相川「貴様たちは必ずムツコロス！出でよ我が最強の兵、暗黒三人衆！」

テレレンテレレンテレレンテレレン

暗黒剣士ブレイド・ケンジャッキーが現れた！

暗黒銃士ギャレン・ダディアーナが現れた！

暗黒魔導師レンゲル・カミジヨウムツキーが現れた！

魔王カリス・ムツコーローが現れた！

コマンド？

戦う

アイテム

必殺技

特攻

命乞い

靴をなめて許しをこう

こびへつらう

国をルラギル

ルミア「もちろん戦います！」

相手の先攻

ブレイド・ケンジャツキーは魔法の呪文を唱えた！

剣崎「オンドウルルラギッタンディスカー！」

敵全員の攻撃力が100あがった！

ギャレン・ダイアーナの攻撃！ファイアバレット！

ルミアのスキル「囧」が発動した！

ルミア「あっひゃあん！もつといじめてえ！」

まったく効いていない！

レンゲル・カミジヨウムツキーはローカストアンデッドを召喚して
攻撃させた！

シズル「ゲううッ……」

シズルは250のダメージを受けた！

カリス・ムツコーローの攻撃！蔑みの言葉！

相川「やーいやーいルミアの虚乳野郎！」

ルミア「あゝ ああああああ！……！」

ルミアは精神に4億のダメージを受けた！

ルミアが力尽きました。報酬が10000Z減りました。

アダムの攻撃！ドラゴンライダーキック！

剣崎「ぐあああ……！」

ブレイド・ケンジャツキーは2650のダメージを受けた！

エミリアの攻撃！大型GNキャノン！

相川「ぬあああ……！」

カリス・ムツコーローは2700のダメージを受けた！

ユートの攻撃！ヘーゲルバスター！

睦月「チイツ！」

レンゲル・カミジヨウムツキーは1298のダメージを受けた！

シズルの攻撃！レンゴクトウ・グレン！

シズル「お、折れたあ（キット風）！？」

ナギサの攻撃！

ナギサ「ナギサエクスプロージョン！」　　ダディにボディーブロー

ギャレン・ダディアーナは3京のダメージを受けた！

ギャレン・ダディアーナを倒した！

5103の攻撃！

5103「後藤カラストローグ！」　　睦月に頭突き

睦月「ぎゃあああ！！！！」

レンゲル・カミジヨウムツキーは3京のダメージを受けた！

レンゲル・カミジヨウムツキーを倒した！

エミリア「何この二人！？新たな人間アドベントカード！？」

アダム「ナギサがシュートベント、5103がランチベントって言ったところか？」

ブレイド・ケンジャッキーの攻撃！ライティングスラッシュ！

シズル「あああ！！！」

シズルは5200のダメージを受けた！

シズルが力尽きました 報酬が1000Z減りました

カリス・ムツコーローの攻撃！死の宣告！

相川「オルアクサマラムツコロス！」

10ターン後に味方は全員力尽きてしまう！

アダムの攻撃！Xショットガン！

剣崎「ウゾダドンドコードーン！」

ブレイド・ケンジャッキーは2900のダメージを受けた！

ブレイド・ケンジャッキーを倒した！

エミリアの攻撃！2丁Xガン乱れ撃ち！

相川「ぬぐぐっ！」

カリス・ムツコーローは2600のダメージを受けた！

ユートの攻撃！エンドオブザワールド！

相川「ゲアアアアア！！！！」

カリス・ムツコーローは10万のダメージを受けた！

カリス・ムツコーローを倒した！

相川「まだだ！まだ終わっていない！」

大魔王ワイルド「カリス・ムツコーローが現れた！

コマンド？

戦う

アイテム

必殺技

特攻

命乞い

靴をなめて許しをこう

こびへつらう

国をルラギル

アダム「戦うぞ！」

アダムの攻撃！Zガン！

まったく効いていない！

エミリアの攻撃！爆炎ノ咆哮！

まったく効いていない！

ユートの攻撃！ミスティースラッシュ！

まったく効いていない！

ナギサの攻撃！グラビティブレイク！

まったく効いていない！

5103の攻撃！バースIIデイ・アタック！

まったく効いていない！

相川「フハハハハ！そんなものか（ソリダス・スネーク風）？」

ワイルドIIカリス・ムツコロースの攻撃！ライジンググアロー！

ユート「それGガンダムネタかアアアアアアア！？」

ユートは5兆のダメージを受けた！

ユートが力尽きました 報酬が1000Z減りました

アダム「…強過ぎるだろ…」

エミリア「無理ゲーにもほどが無い？」

ナギサ「あきらめるな！私達には、帰りを待っている大切な人がいるんだ！」

5103「仲間達の未練を晴らすためにも、待っていてくれる人たちのためにも、俺達は負けない！」

ナギサと5103の連携攻撃！ドライブディバイダー！

5103「行くぞナギサ！」

ナギサ「ああ！」

5103が突然分身してワイルドⅡカリス・ムッコロースに連続攻撃を仕掛けた！

相川「ぎゃああああ！！！」

ナギサが止めの飛びひざ蹴りを見舞った！

ワイルドⅡカリス・ムッコロースは1000亥のダメージを受けた！

ワイルドⅡカリス・ムッコロースを倒した！

相川「おのれ勇者…しかし忘れるな…光ある限りまた闇もある」

5103「黙れ。」 ドリルアームを相川の肛門に突き刺す

相川「ビヤアアアア！！！！」

アダム「今回は相川が不遇…かな？」

エミリア「さあ……」

別次元？何それおいしいの？（前書き）

此処から数話は、ハルルさんの「おいでよライダータウン！」とのコラボになります。ハルルさん、こんなしょうもない小説にコラボの許可くださり本当にありがとうございます。

ライ町の世界のキャラは区別のために名前表記にRとつけます。

別次元？何それおいしいの？

ルミア「別次元？」

エミリア「そ。あたしとシズルって海東にアホにされたでしょ？つてなわけで真木博士を馬車馬のようにこき使って亜空間の研究してるわけだけど」

アダム「何気にヒデエな。」

シズル「キヨちゃんに危害さえ加えなければいいからな。」

エミリア「真木博士が亜空間とは違う別世界に人を転送する機械完成させたって事で、それをみんなで使っちゃおう的な奴。」

ユート「別世界ってどこに行くんだ？」

エミリア「ライ町。」

皆「「「「「.....!？」「「「「「」

数日後

エミリア「皆準備はいい？」

アダム「おうよ。」

ルミア「ドキドキしますねアダムさん！」

ユート「何でも来いやぁ！」

シズル「頼むから何事も起きないで。」

ナギサ「後藤、もしもの時は守ってくれよ？」

5103「当然だ。」

アंक「映司、頼むから向こうで暴れるなよ？」

映司「失礼な！人を仮面ライダーコアみたいに！」

キット「向こうにはドラゴンナイトはいないんだったね。」

レン「まあ、いいじゃないか。」

真木「では転送します。ポチッとぉ！」

ギ
シ
ユ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ウ
ン
！

アダム「着いたっばいな。」

ルミア「ここがライ町ですか。」

エミリア「パツと見は普通だけど…」

R シンジ「俺のモンハン何処だアアア！！！！」

『FINAL VENT』

チユドオオオオン！

エミリア「……どうやらウチの世界とそつ変わらなそつだね。」

ヒラリッ

シズル「…パンツ？このガラって……映司！これ君のだろう！返す！」

映司「え？俺のはここにあるよ？」　パンツを取り出す

シズル「じゃあこれって何だ？」

R 映司「俺の明日アアアア！！！」　シズルに生身スワリングライダーキック

シズル「ちょべりばああ！！！」

（パンツがシズルの手を離れてて飛んでいく）

R 映司「ああああ！待ってくれ俺の明日ああ！！！」

ブオオオオオオオン…

R 海東「追って来るな！ストーカーか君は！？言っておくが僕は土一筋」　マシンディエンダー（本家ライ町参照）に乗って爆走

R シンジ「俺のモンハン返せやアアアアア！！！」　ダッシュで追いかける

R 海東「やなこった！！あれ？」

R 映司「パンツ返せええええ!!!」

R 海東「えええ？君のパンツは盗んでないぞ！」

R 映司「じゃあそのバイクについてるのは何だ!？」

R 海東「ホントだああ！なんか引つかかってる！」

ナギサ「災難だな。」

5103「おいナギサ、眼帯はどうした？」

ナギサ「え？あ、ホントだ無い。と言うか後藤、あなたのセルメダ
ルホルダー付きグローブは？」

5103「ホントだ無い。…あ！」 海東を指さす

R 海東「はっはっは！それは両方もらったあ！」

ユート「…僕のバンダナも無い！盗まれてる！」

エミリア「バンダナ外したユートカワイイい!!」

ルミア「ヤバいかわいい…頭を撫でさすりたい……」

ユート「バンダナ返せええ!!」 海東をアドベントサイクル
(ライドシューター)で追いかける

R 海東「……あれ? 追つてが増えてる!」

R シンジ「モンハン!」

R 映司「パンツ!」

ナギサ「眼帯!」

5 1 0 3「グローブ!」

ユート「バンダナ!」

5 人「「「返せエエエエエエ!!!!!!!!」」」」

海東に生身ライトニングソニック

海東「ぶらかわにいい!!!!」 マシンディエンダー四散

エミリア「海東ご愁傷さま。」

ルミア「まあ、妖怪とパンツミラクルとシュートベントとラUNCHベントとリンクベントを敵に回したんだから当然でしょう。」

アダム「ファイナルベントが加わらなかったけましたる。」

アंक「間違つてもあいつらと暴れるな映司。いいな!？」

映司「う、うん……というかアダム、ファイナルベントと呼ばないで。」

R海東「……………あああああああああ!?!?!?!」 おか持ちをバイクに着けて走るソウジに激突

Rソウジ「ぐああ!」 バイクが倒れておか持ちのおでんが飛び散る

R海東「……………あ。」

Rソウジ「…何してくれてんの?」

『HENSIN』

『HYPER CAST OFF』

R 海東「違っんだ！これはその…何だ…事故と言っか…」

R ソウジ「天堂屋のおでんに何してくれてんのおお！？…」

『MAXIMUM RIDER POWER

1・2・3

RIDER KICK』

R 士「海東大樹のご冥福を祈る訳ないだろうがバカ。」

R 海東「TUKASAZAN！ONDOXURURURAGITT
ANDEXISUKA！」

R 夏ミカン「何故にアルファベット？」

別次元？何それおいしいの？（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回の質問は特にありません！」

アダム「えゝ、今回の読者と触れ合う質問コーナーは終わります。」

質問はまだまだ募集中です。作者の趣味性に迫るような質問もおKです。

繁華街とか歩くときは外人の怪しい物売りに注意した方がいい

R士「えー、ではグラールから来たお前らにライダータウンを案内しよう。」

ユート「たとえばどんなところだ？」

R士「色々あるぞ。」

R士「えー、ここは劇場版でファイズがエラモステリウムやオーガと戦ったドームだ。ちなみに現在の名前は『これも乾巧って奴の作業なんだドーム』。」

『ready』

Rたつくん「その名前を言うなあー!!!」 ファイズエッジを構える

『EXERDE CHARGE』

エミリア「やっぱり嫌なのね…」

海東「こっちの士！僕に任せろ！」

『カメンライド ガイ!』

ガイ「ボオオウ!!??」 スパークルカットをまともに喰らう

シズル「トラストでやったら思い知らせるところだけどガイだからどうでもいいか。」

キット「何気にひどくない?」

『LAUNCHER ランチャー オン』

ルミア「どうやってきたクソ海東。」 ランチャーモジュールを突きつける

海東「ルミアさんを追っかけて次元移動マシンにしがみついたら着いた」

ルミア「消えろ!」 発射

海東「チョベリグウ!」

アダム「どっからスイッチ手に入れた。」

R士「ここがミルクディッパーだ。もう昼だしここで一旦メシにするぞ。」

皆「「「「「おー。「「「「「

Rウヴァ「いらっしゃ」

アंक「おっ、ウヴァだ。」 ガリ○リ君食べながらウヴァの顔面にゴキジェットプロ噴射

Rウヴァ「ぴやあああああああ！！！！！」

映司「こっちのウヴァこんちわ。他のグリードは？」

Rウヴァ「……が……ガメルはメズールと菓子を買いに行ってる。ロス
トアंकはゲーセンに遊びに行ってる。」

シズル「カザリはどうした？」

Rウヴァ「ん。」 店の奥を指さす

R良太郎モモタロス「ほれほれカザリほれほれ。」 猫じゃらしを振る

Rカザリ「ニャンニャン！……って何やらす！」 モモに竜巻

R良太郎モモタロス「ぼめらあ！」

R侑斗「ほれボールだ。」 転がす

Rカザリ「ニヤアア！！」　じゃれる

エミリア「びつくりするぐらい猫扱い…まあ猫系だから仕方ないけど。」

R牙王「ほれキャットフードだ。」

Rカザリ「ヒドオオチヨゲツテルトヴツトバスゾ！ウヴァ goo！」

Rウヴァ「イーッ！」

（ウヴァ、牙王に飛びかかって地面に押し付け、カザリの方に引きずる）

Rカザリ「はいいいい！！」　腕の爪で刺す

R牙王「がとおっ！」

レン「クリスタルブレイク！？」

キット「しかも掛け声が完全にハントだし。」

R士「ここは海東がライダー相撲大会の特訓と称してその辺の輪ゴムをつなげた命綱でバンジーしたビルの屋上だ。」

ルミア「こっちの海東って意外と勇者なのね。」

R士「もちろん全身の骨を折って病院に担ぎ込まれたけど。」

ユート「…………ルミア、レッツダイブ！」 ルミアを突き飛ばす

アダム「ルミアああああ！！！」

ドゴオオオオン！

ルミア「あっひゃああん！もつとお！」

エミリア「それでも興奮するか。」

R士「ここがおでんの具が少ない事で有名な天堂y」

ドゴオオオオン！バツガアアアン！

ナギサ「何だ？」

（弟切が出てくる）

弟切「ああ、これか。これはだな。

1：伊達がソウジにおでんの具を増やしてくれと頼む

2：ソウジ断る

3：『だったら実力行使』と伊達がプロトバースに変身。ソウジも変身

4：丁度そこに居合わせたR海東が面白がって参戦、王蛇、ストライク、サガを召喚

5：居合わせたR映司がヘビクライシス発動、更に流れ弾でリュウガからもらったパンツを焼かれてパンツミラクルとトモダチボルケイノも発動

6：乱射されたストレイドウームが外の羽黒レンの車を直撃、キレたRシンジがサバイブモードで襲いかかって今に至る

ってわけ。まあ早い話がプチライダー大戦起こってるからかなり危険になってる。」

アダム「なーる。」

ユート「危ないなみんな」 プリン食いながら聞く

（流れメテバレが飛んでくる）

ドガアアアン！

ユート「……」 プリンが黒コゲ

映司「……」 パンツが黒コゲ

エミリア「コレやばくない?」

ユート「ボクノプリンンンンンン!!!」 ユートブラスト発動して参戦

映司「オレノパアアアアアアンツ!」 リアルタトバに変身して参戦

シズル「どうするんだ!3重チートとサバイブ妖怪とファイナルベントとリンクベントが戦いに参加してるぞ!」

ナギサ「止めるぞ!」 スティールハーツを構える

5103「ああ!」 バースに変身

ルミア「ぎゃあああああシュートベントとランチベントまで加わりましたよ?」

R士「レッツエスケープ」

R士「えー、最後は鳴海探偵事務所でごさーい！ちなみに現在の俺のねぐら！」

エミリア「あいつらはいじめないでおうよ。」

R士「しつれいします。と言いかただいま」

ピンポーン！ピンポーンピンポーンピンポーン！

R翔太郎「うるせえ」出てくる

ピンポーンピンポーンピンポーンピンポーンピンポーンピンポーンピンポーンピンポーン！

R翔太郎「チャイムで遊ぶな！」

R士「いやーなんとなくやってみた。」

アダム「こんちわ。」

R翔太郎「新顔か？俺は」

シズル「ハーフボイルド探偵の左小タオルだろ？」

R翔太郎「しょーう！た！ろ！う！」

シズル「ゴメ。」

繁華街とか歩くときは外人の怪しい物売りに注意した方がいい（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回も質問はありません！」

アダム「えーこれで今回の読者と触れ合う質問コーナーを終わります。」

どうでもいい話だけど作者は幼稚園の頃、アンパンマン好きだった友達と、アンパンマンのタイトルと内容は全く関係ありません。ライ町とのコラボは今回で終了です。

どうでもいい話だけど作者は幼稚園の頃、アンパンマン好きだった友達と、アン

士「ではこれより、ライ町キャラと雑務キャラの交流パーティーを始めます！」

R翔太郎「で、鳴海探偵事務所（NOTリボルギャリー格納庫）でこれをやるのは何かのいやがらせか？」

（鳴海探偵事務所に詰め込まれた人数：ざっと30人）

Rガメル「ああ〜狭い〜」

Rアंक「暑苦しい。アイスよこせ。」

ユート「じゃあ壁をブチ抜いたら広くなるんじゃないか？」

Rフィリップ「やめええい！」

レン「俺とキットは鏡の向こうにいる事にする。」

Rダイ「ガイヤヲキメコンデルトヴツトバスゾ！」

エミリア「そこまでしてオンドウル語使いたいか？」

士「結局リボルギャリー格納庫でやることになりました。」

ルミア「頼むからチート連中は羽目を外さないで。」

アंक「黙れ無乳ガードベント。」

(ルミア、部屋の隅でモノクロ状態になって体育座り)

シズル「おい、あのドムルミアがハートブレイクしてるぞ。」

エミリア「胸に関する蔑みには弱いよね。」

ユート「写メとつとこ写メ。」 ラメリまくったオーガフォンを取り出す

ナギサ「ユートのケータイ意外と派手だな。」

ワイナル「いや木場君に失礼でしょ!」

アダム「ちょっと待ってる。」 部屋を出る

皆「「「「「?」「」「」」

アダム「ルミアー、海東連れてきたぞ。」

海東「ルミアさあぁぁん！」

ルミア「消えろ！」
色が戻る

ドリルオン

海東「ヴオエエえええ！！！」
ドリルモジュールを肛門に突き刺される

キット「どこから手に入れたのそのスイッチ。」

ルミア「何かその辺に落ちてました。」 足をグリグリして更にドリルモジュールを海東に突っ込みながら答える

照井「どういう復活方法だ。」

海東「……」
肛門から大出血

「Rウヴァー」「これどつする?」

Rカザリ「電波塔のてっぺんにでも刺しとけば？」

Rメズール「いい加減この手のネタやめなさいよ。」

土「アंकが余計な事言つたせいで遅れましたが、早速行きましよう。隠し芸披露！」

スマートレディ「ではまず最初は、ルミア・ウェーバーさんによる歌の披露です！」

「雑務キャラ一同」「！！！！！！！！」

R映司「どうしたの皆？」

「アダム、悪い事は言わん。耳を塞いでろ。」

ルミア「では行きます！」

レン「やめええええい！」

ルミア「 bくしbウお b c v b sだ c b さ c さいお h c s し l さ
7 あ s づ い g く g で づ さ v g く s h v し う s v く い お w g く こ w b
g q s c b g w s q j g b c w q b ぎを q b ぎ w こ さ b ひ こ h s し
お さ p c i b c u b s c b i s o b c k l n a b x c k s a l c n
s k l c b h i s q c b n s k b c o i h w i h c b s k l b c w
h f p q w j d w l o「

皆「『オオオオウ!』」

Rカズマ「ヴェエエエエエエ！」

R 夏ミカン「カズマにダメージを叩き込んだ！？つか人間の声じゃない…」

R たつくん「威力あり過ぎだろオイ…」

アダム「ぬああああ！！！」 スーツのおかげで周りよりはダメージ少ない

エミリア「あゝ ああああ！！」 アダムと同じ

バリッ！

エミリア「ぎゃああああスーツがオシャレになった！」

スマートレディ「ありがとうございます！では続いて、五代雄介さんによるモノマネです！」 きつちり耳栓してる

五代「…では、最初はメタルギアソリッド ポータブルオプスに登場するジーンのモノマネです。

聞け！全えてのお兵士たちよ。冷戦はあやがてえ終わる。合衆国そしてソ連には（以下略）」

R たつくん「意外と上手い…」

R カザリ「若本ボイスって意外とまねるのムズイよね。」

五代「続いて、スターウォーズのダース・ヴェイダー。

ルーク！運命に従うのだ！　ホーパー！ホーパー！（呼吸音のマネ）」

士「呼吸音のクオリティ高いし。」

五代「最後は、遊戯王の海馬瀬戸。

ゆけ、ブルウアイズホワイトドラゴン！滅びの爆裂疾風弾^{バーストストリーム}！粉碎！玉砕！大喝采い！」

エミリア「上手すぎ。」

士「続いては、ナギサと後藤さんによる…何だこれ、コンクリブレイク？」

ナギサ「え、今から、この厚さ2メートルのコンクリの壁に両側から一撃加えて」

5103「デカイ穴をブチ開けたいと思います！」

ルミア「超パワータイプですね…」

ナギサ「では行きます。

ナギサエクスポージョン！」　コンクリ壁にパンチ

5103「後藤力タストロフィ！」　コンクリに頭突き

バギヤアアン！

（コンクリ壁が粉々に砕け散る）

ナギサ「えーっと、ちょっとやり過ぎて粉々に砕いてしまいました。

」

エミリア「さすがシュートベント& amp; ラーンチベント。」

士「えっと、最後はリュウガによる南京玉簾です。」

リュウガ「さて、さて、あさてさてさてさて、さては南京玉簾。

ちよいと伸ばせば……伸ばせば……又ゴお堅いいい。
なんだこの南京堅簾……

伸ばせ……バアアアアア！！指がアアアア！！！」

南京玉簾で指を挟む

真司（俺の体だぞこれ！）

数10分後

リュウガ「……」 指に包帯を巻く

ナギサ「すまない。さっきのパフォーマンスは少しやり過ぎた。」

5103「いや、悪いのは俺だ。」

ワイナル「そもそもあのパフォーマンズ自体間違ってると思うけど」

ユート「ふんふん」 鼻歌を歌いながら格納庫の壁に油性マジックペン（赤）で落書き

Rフィリップ「やああめえええろ（真木風）！」

映司「この際もつと広くしたらいいじゃん。」 壁に拳を打ち込んで穴をあけまくる

R亜樹子「やああめなさあああい！」 スリッパで殴る

エミリア「やりたい放題にしてんのほとんどウチのキャラじゃん。」

R翔太郎「ウチの事務所をこれ以上荒らさないで。」

アダム「そう言えば今はお前らの寝床って格納庫だったっけ？」

R翔太郎「……ご名答。あいつら俺のベッド取りやがって……」

Rフィリップ「さっきその辺で麻醉スナイパーライフルを手に入れた。撃つか？」

R翔太郎「いや、警察沙汰になりそうだから止めとく」

Rフィリップ「警察が怖いのか翔太郎？」

R 照井「ここに警察がいるぞ。」

翔太郎「そしてパーティも終わり、この世界と別れる時が来た……」

翔太郎「コラボキャラいないからツツコミないじゃん……」

エミリア「と言う訳でグラールに帰ります!」

アダム「楽しかった……のか?」

ルミア「もうすごい楽しかったじゃないですか!特にビルから突き落とされた時とかハアハア……」

シズル「それは君だけな。」

キット「ルミアの弱点も発覚したし。」

R映司「さよなら!」

Rアंक「あんなめんどくさい連中と二度とつる見たくn」

Rシンジ「黙れ」 アंकの鳩尾に水平チョップ

Rアंक「ホゴォッ!」

アダム「じゃあ行くぜ。次元移動マシン、発進!」 スイッチを押す

チュツドオオオオオン！

エミリア「……へ？」　ボンバーヘッド

アダム「ワリ。発進スイッチと自爆スイッチ間違えた。」　エミリアに同じ

シズル「落ちがベタ過ぎだああ！！！」　アダムに同じ

ルミア「この後ちゃんと修理して帰りましたよ。ああ今の爆発最高
ハアハア……」　無傷

どうでもいい話だけど作者は幼稚園の頃、アンパンマン好きだった友達と、アン

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「えー今回はカイルさんからの質問。

『チエルシーが切れたら何が起こるの?』

では、まずはカーツ総司令官に話を聞いてみます。」

カーツ「……悪い事は言わん。チエルシー殿を怒らせるな。以前任務中にチエルシー殿がプチ切れた時があったんだが、その時消し飛んだものが何だか分かるか?」

エミリア「…?なんですか?」

カーツ「……山脈。一つ丸ごと、それも分子レベルまで消滅した。」

アダム「ウゾダドンドコードーン！」

カーツ「あの時は怖かった。ちなみに同盟軍では、その事件はプチセカンドインパクトと呼ばれている。」

アダム「プチってレベルじゃねえだろ。」

学校でどんなにやる気ない奴でも小1の最初の時は張り切ってたはず。

（前書き

今回から、「仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士」のキャラ達も参戦します。

学校でどんなにやる気ない奴でも小1の最初の時は張り切ってたはず。

弦太郎「オデイノナヴァ 如月弦太郎！趣味は友達作り、特技も日課も友達作りだ！」

エミリア「タイムンが趣味じゃないのね。」

弦太郎「まア苦手じゃないけどな！」

士「と言う訳で今日は皆にクラッド学園1年（オメガ）組の生徒となってもらおう。」

エミリア「何なの（オメガ）組って…」

士「特別に作ったクラスだからに決まってるだろ。」

アレン「じゃあせめてZ組とかだろ。」

士「メンバーを発表するぞ。」

担任：士
生徒

- ・アレン
- ・アダム
- ・エミリア
- ・ユート
- ・ルミア
- ・シズル

・ナギサ
・映司
・弦太郎
・永司
・翔太郎
・フィリップ
・澤木翔太郎
・リイマジフィリップ
・賢吾
・燐
・ナツ
・ルーシィ
・刹那
・キット
・レン
・K R D K マヤ
・リイマジレン
・その他諸々

その他諸々のみなさん「「「「「扱いが酷いよおおお！！！！！！！」
「「「「「

朝ホームルーム
士「じゃあホームルーム始めるぞ。」

翔太郎「きりーつ、霊、着席。」

リイマジレン「字が違うぞ。」

翔太郎「気にしたら負けだ。」

士「えゝ、出席…」

エミリア「へえ、真面目にやってんじゃん。」

士「はめんどくさいから取らない。」

ズコーッ！

士「忘れ物した奴はいるか？」

賢吾「やる気と情熱忘れました。」 荷物をまとめる

ルミア「いけません！」

『MAGIC HAND マジックハンドオン』

賢吾「スミマセンうぐ…」 マジックハンドモジュールで首を絞められる

士「えゝ、俺から言いたい事は一つ。仲良くやれ。以上！終わり！終了！フィニッシュ！」

翔太郎「きりーつ、礼、着席。」

1 時間目 地学

田中「え〜では授業を始める。ってか俺田中じゃなくて大杉なんだけど。」

永司「ちっちゃい事は気にするな、それワカチコワカチコ〜。」

田中「では、教科書の23ページをひ〜」

永司「つつこめYO!」 メダジャリバーを取り出す

フィリップ「止めるんだ神童永司!ここで暴れたら色々アレだから止めるんだ!」 永司を取り押さえる

永司「H A N A S E!」

アダム「無理に遊戯王ネタ挟まなくてもいいのに。」

田中「じゃあナツ、26ページの4行目を読んでみる。」

ナツ「この漢字よめねえ!」

田中「如月、代わりに読んでやれ。」

如月「この漢字ワツカリツマスウェ〜ン。」

田中「じゃあ…」

クラス一同（エミリアとアダムは除く）「~~~~~~~~ワツカリツマスウェ〜ン~~~~」

エミリア「いやがらせね完全に。」

アダム「だな。」

2時間目 保健体育

アキ「では授業を始めます。」

ユート「待ってました保健ハアハア」

シズル「で、何なんだ、何をやるんだハアハア……」

アキ「子孫を残さ」

ユート&シズル「「イエアアアアアアア！！」」 ガッツポーズ

アキ「……ローズテンタクルスを召喚。」

シズル「ぼへえ！」 ソーンウィップを喰らう

ユート「ほいつ」 回避

アキ「他の単元だったら実習でもやってもらうつところだけど、流石にこの単元の実習をやるとただのエロ小説になるからやりません。」

エミリア「はああ……良かったあ……」

ナギサ「と言うか、普通はやらないだろう。」

ルミア「S Mじゃないんだったら興味ありません。」

アキ「どうしてもしたいんだったらローションとか『ドキューン』とか『ピーー』とかあるから1階の空き教室で大人のC P U対戦モードでもやってみなさい。」

ユート「大人の2 P対戦モードはやらせてくれないのか？」

アキ「…ケガさせる気でのS Mだったらやってもいいけど？」

ルミア「ぜひお願いしますハアハアハアハアハアハアハア！」

3 時間目 数学 A

翔太郎「きりーつ、礼、着席。」

エミリア&シズル「ドッカーン！」

燐「せんせーい、エミリアとシズルが教科書に触れもしないうちに撃沈しました。」

シユラ「ほつとけ。そのうち治るだろ。」

4 時間目 古典

士「では、教科書45ページを開け。歌星、読め。」 サボり防止のため賢吾に拳銃を突きつける

賢吾「今は昔、竹取の翁といふものありけ…いってえ！舌嚙んだ。」

士「関係あるか、読めゴラ。」

賢吾「いってえ畜生…」

士「てめえ10秒以内に読まなかったらあ、ドタマあぶち抜くぞほれ1。」

Bannon!

賢吾「2から10は!？」

士「しらねえなあそんな数字。男はあ1だけ覚えてればあ生きてけるんだよ。」

リイマジレン「何故に松平。」

昼休み

キット「学食で食べてくる。」

アレン「俺も行くわ。」

キット「えっと、食券の種類いっぱいあるな。どれどれ…カツカレー、唐揚げカレー、サバ味噌定食、カレーうどん…よし、ジャンボハンバーグカレーで。」

アレン「じゃあ俺ざるうどんで。」

キット「すみませーん、食券です」

マヤ「はい、預かります！ちなみにここの食事は私特製なので、たくさん食べてください！」

アレン「嫌アアアア！！！」

翔太郎「その後、二人は食中毒で早退した。」

リイマジフィリップ「誰に話してるんだい左翔太郎？」

翔太郎「これこれ、やっぱツツコミいた方がいいわ。」

学校行事は意外とみんなやる気を出したりする（前書き）

えゝ、桜椿さん、グラハムさん全然出てない事に気付いたのだから意識してみます。

学校行事は意外とみんなやる気を出したりする

5時間目 体育

アダム「体育か。体を使うんだったら得意分野だ。」 ガンツスー
ツ着用

ユート「よし、やるぞ！」 アダムに同じ

シズル「ユート頼むから本気は出さないで……ん？体育と言う事は……」 半そで半ズボン

ルミア「ブルマなんて恥ずかしいです！セクハラじゃないですか！
でもちよつとこの恥ずかしさが逆に気持ちいいハアハア……」 ブル
マにノースリーブの体操服

エミリア「あたしのはこれでちょうどいいかな。」 半そで半ズボン

シズル「ルミアブーーーーーッ！」 鼻血を噴き出して倒
れる

ユート「おねえさんの体操服はどんなんだハアハア……」

ナギサ「どうしたんだ、みんな。」 上下長袖のジャージ

シズル「2！」

クラス一同「「「「2！」「「「

ユート&・燐「「島！」

シズル「3！」

クラス一同「「「「3！」「「「

ユート&・燐「「優！」

シズル「4！」

クラス一同「「「「4！」「「「

ユート&・燐「「子！」

シズル「1、2、3、4！」

クラス一同「「「「2、2、3、4！」「「「

ユート&・燐「「大島優子！」

グラハム「そこ、ふざけない！」 ユートとリンのケツにふき矢を
発射

ユート「ほいつ」 叩き落とす

燐「ヴァハア！」 刺さる

グラハム「よし、では準備体操だ。」

ルミア「絶対イクササイズですよね……」

グラハム「男女に別れる。男子はビーズブー○キャンプ、女子はカー○イーダンスをやってもらう！○リーバンドも用意しているから頑張れ！」

クラス一同「……ウズダンドコードン！」「……」

数分後

シズル「ハアハアゼエゼエ……」

ナツ「ハードすぎるだろ準備体操……」

翔太郎「もう一人ナレーションする気力も起きねえ……」

リイマジフィリップ「それでは僕の仕事が無くなる……」

澤木翔太郎「じゃあ持ちネタが無い俺はどうなるんだ…」

アダム「そんなにきついかな？」 ガンツスーツ着てるから平気

レン「確かに少しハードな気はするな。」 鍛えてるから平気

ユート「僕はまだまだやれるぞ！」 スーツ+リンクベントで平気

グラハム「よし、腕立て伏せ用意！50回！」

ルーシー「鬼か……」

エミリア「ハアハアハアゼエゼエ…これくらいでへばってんの？な
っさけないわねお色気作戦成功確率0%が。」

ルーシー「ああ？もつかい行ってみる幼児体型が。」

エミリア「オイゴラ今なんつった。」

ルーシー「ああ？やんのかオラ。」

エミリア「ジヨトだオラア！」

リイマジレン「結構仲悪いんだなあおの二人。」

グラハム「よし、筋トレは大体終わりだ。じゃあ次は……」

ガシャァン！

映司「何だ？」

サリサ「おうおう、ここがクラッド学園か。ボク達の標的にふさわしいねえ。」 改造セーラー服

カイ「汚してやる、太陽なんて……」 改造長ラン

ガジル「ギツヒツヒ、叩き潰してやらあ。」

グラハム「あれはこのあたりで最凶の不良学校、ゼロ逝セ園ロ学園の生徒だ！」

ルミア「ガジルが明らかに場違いですね。」

弦太郎「たしか、全然出番がないP S Z E R Oのキャラだよな？」

賢吾「発言がストレートすぎだ。」

エルザ「……お前ら、ここでなにをしている？」

弦太郎「おい、あの人って確か、風紀委員長エルザさんだろ！」

エルザ「この学校で狼藉を働くというなら……換装！」

ガジル「!!」

エルザ「噛み殺すよ？」 学ランを肩から掛け、トンファアを構える

シズル&・エミリア「ヒ〇リ!?!」

ユート「加勢するぞ！」 セイレーンのデッキを取り出す

アダム「おう！」 ドラゴンナイトのデッキを取り出す

アダム&・ユート「KAMEN RIDER!」 変身

グラハム「今日の私は、阿修羅すら凌駕する存在だああ!!」

映司「変身!」

『タカ!トラ!トラ!トラ!カマキリ!カマキリ!カマキリ!ゴリラ!ゴリラ!（中略）

セ・ン・ジュ センジュセ・ン・ジュ!」

澤木翔太郎「見せ場が来たな相棒!」

リイマジフィリップ「ああ!オリジナルから借り受けたとおきを使うぞ!」

『コアア!』

『ゼイビアックス!』

リイマジダブル「変身!」

『コアア！ゼイビアックス！』

ルーシー「どこから手に入れたのそのメモリ！？」

フィリップ「僕が貸してやった。」

エミリア「ナニヤツテンダ！フザケルナ！」

刹那「トランザムッ！」

田中「止めえい！今は授業だよ」

ユート「知るか！」 田中にボディーブロー

田中「オボオウツ！」

逝^ゼ_ロ^ロ_ロ^ロ_ロ 学園生徒A「俺らも混ぜろ！」

逝^ゼ_ロ^ロ_ロ^ロ_ロ 学園生徒B「戦争だ！」

ハッピー」で。」

ネーヴ「お前らみんなそろって何をやっておる！」

喧嘩に参加した全員「「「「「ズビバゼン」「」「」「」フルボ
ツコ（攻撃が通らないユートとルミアは除く）

澤木翔太郎「こうして1日学校生活は、生徒指導と言っあまりよく
ない形で終わった……」

翔太郎「俺の仕事を取るな。」

フィリップ「今回くらい勘弁してやれ。」

学校行事は意外とみんなやる気を出したりする（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回の質問は桜椿さんから。えっと、「シズルの『バキューン』が小さいという設定は、水着イベントの真っ平らぶりからですか？www」だって。」

アダム「これは作者に回答してもらいます。」

作者「こんばんは、作者です。この設定は、

シズルって絶対童貞だよな。じゃあソツチ方面でネタ作るか。……やっぱ『ドキューン』ネタが一番だろ

って感じで思いつきました。

ウソです。学校行きの電車の中で外の景色をばーっと見てたら勝手に思いつきました。この小説のネタ作りはいつもそんな感じですよ。」

エミリア「ハイ、作者のテキトーさがよく表れた回答でした。」

部活って、所によっては休みとかほとんどない（前書き）

スゲー微妙なタイミングですが、『SKET DANCE』を原作に追加いたします。ちなみに作者はアニメしか見てないから内容はあんまり期待しないで。

部活って、所によっては休みとかほとんどない

アダム「よし、やっと授業終わった。」

エミリア「次は部活体験だったっけ？」

ユート「カタログあるから見てみるか？」

シズル「えっと、僕は剣道部にする。」

燐「お、料理研究部か。俺はこれにするぜ。」

映司「刹那は何にすんの？」

刹那「……帰宅部」

翔太郎「それは部活じゃねえ！」

刹那「…」 無言でカタログのある部分を指さす

皆「」「」？」「」」

売り文句『他行に負けるな！帰宅部』

エミリア「何を競うのよこれ！」

ユート「あ、何か聞いた事あるぞ。

水泳部のエース：泳ぎがうまくて速い

陸上部のエース：足が速いor持久力が高い

帰宅部のエース：『アイツいつの間に帰ったんだ!?!』

だそうだ。」

アダム「ようするに帰るスピードね。」

ルミア「私は……色々見て回ってみます。」

アダム「あ、じゃあ一緒に行こうぜ。」

ルミア「あ、はい。」

アダム「『黒登山部（ギャグマンガ日和参照）』……まさかあるとは……」

ルミア「とりあえず入りますか。」 引き戸を開ける

海東「ルミアさん！レッツ黒登n」

ルミア「消えやがれ!」

『drill rocket limitbreak』

海東「ヴおええええ!!!!!!」

アダム「いい加減スイッチ手放せ！お前が持つてるせいで弦太郎がフォーゼに変身できないじゃないか！」

ルミア「あ、もう1個はないんですね。」

ルミア「ここ何かまともそうじゃないですか？『クレー射撃部』。」

アダム「何か爆音が聞こえるんだけど。」 扉を開ける

ダディ「そこ！もっと狙いを定める！」

風間「ハイ！」

『RIDER SHOOTING』

北岡「ラジャ！」

『FINAL VENT』

ドッガアアアン！！

アダム「……」 無言で扉を閉める

ルミア「『ヒュペリオン部』……」

アダム「……行くか？」

シズル「よっしコダクサンを取ったぞ！」

山辺「あまい！コダクサンの子供の位置を見たまえ！」

翔太郎「あ！量産型ザフに乗れる状態じゃないか！」

シズル「カッコエエエエエ！！！」

ユート（……ぜんっぜん何にも面白くない）

ルミア「ユートって中の人は女性ですからね。」

アダム「ヒュペリズムってそういうもんなのか？」

ルミア「…あれ？外が騒がしくないですか？」

大文字「トラッシュユゴときが部活を立ち上げるなど生意気な！」

弦太郎「悪いが、もう部員はかなりそろってるぜ。」

モモタロス「そくだそくだ！」

ウラタロス「部活って呼べる状態じゃない？」

キンタロス「第一お前に認められる必要はないやろ！」

リュウタロス「そういうこと！」

ジーク「逆に問おう。なぜ私が庶民になど従わねばならぬ？」

良太郎「皆落ち着いて！」

ゴーストイマジン「黙れ！」

賢吾「実質的に良太郎だけじゃないか。」

ユウキ「……だね。」

アメフト部A「大文字さんに無礼だろ！」

アメフト部B「そくだそくだ！」

アメフト部C「そくだそくだ！」

ルミア「ゴーストイマジンって契約関係じゃないですね。」

アダム「ってか作者さらば電王未視聴だろ。」

大文字「こっちにだって隠し玉がいるのだ！」

芝浦「僕らの邪魔はしないでもらいたいな。」

草加「俺達の事を好きにならない人間は邪魔なんだよ。」

良太郎「電車斬り！」

芝浦& amp・草加「アングィンワダアッ！」

大文字「隠し玉散った！」

弦太郎「どうだ！」

大文字「うるさい！大体貴様、仮面ライダー部立ちあげといて自分は変身できないじゃないか！」

弦太郎「ベルトはあるぜ！スイッチないけど！」

アダム「やっぱり言われたか。」

ルミア「：分かりました。弦太郎さん！受け取って！」 スイッチが入ったアタッシュケースを投げつける

弦太郎「ドブツフォ！」 顔面にケースが直撃

賢吾「よし！これをつk」

スイッチ（スケット団の方）『俺、参上（キリッ！』 ケースの中から登場

ユウキ「そっち！？」

ボッスン「何やってんだよお前！」

スイッチ『安心しろ。アストロスイッチもちゃんとある。』

賢吾「それならよかt」

スイッチ『リーダーとロケットは場所が無いんで俺の口の中にしまつてあつた。』 唾液まみれのスイッチを出す

賢吾「ナニヤッテンダ！フザケルナ！」

スイッチ『俺が入る場所がいたんだ。仕方ないだろう。』

弦太郎「友達の唾液をいやがるなど、男のする事じゃない！」 ス
イッチの唾液を拭かずにドライバーに装着

賢吾「止める！フォーゼドライバーを唾液まみれにするな！」

『3・2・1』

弦太郎「変身！」

賢吾「せめて唾液を拭けええええ！！！！」

アダム「大変だな、賢吾。」

ルミア「と言うか、そもそも賢吾さんってボケですか？ッッコミで
すか？」

不良と一口にいても色々いる……のか？（前書き）

ゼロ高の名前って打つの大変だから予測変換が重宝しますよ……
あ、今回から桜椿さんの『PHANTASY STAR PORT
ABLE 2 - インフィニティ - 死神と小さき翼の物語』お
よび『リトルウイングの非日常』の悠莉・インヴェナーが参戦しま
す。

不良と一口にいても色々いる……のか？

仮面ライダー部部室（たぶんラビットハッチだけど。）

燐「大変だ！」

永司「どうしたの？」

ウヴァ「ルミアが逝^セ函^ロ高にラチられた！」

アダム「何ですとおおお！？」

シズル「……どうする？」

エルザ「……決まっているだろう！兵を集めろ！逝^セ函^ロ高に乗り込む
よお前ら！」 ヒ○リルックスに換装

一同「「「「「サイエツサー！」「」「」「」

逝^セ高^ロ体育倉庫

ヤンキーA「ガジルさん……人質替えた方がよくないですか？」

ガジル「うるせえ。さらうのが簡単そうだったからこいつを選んだ次第だ。」

ルミア「ハアハアハアもつと虐めてハアハアハア」 バイオワイン
ダーで全身ぐるぐる巻き

グラント「オイ俺の武器をこんな目的に使つな。」

サリサ「よいではないか（水戸黄門あたりの悪役風に）」

ヤンキーB「おい！なんかクラッド学園の奴らがウチの敷地で暴れ
回ってるぞ！」

ガジル「ぬぁにい？」

エミリア& a m p ;ユート「ガツガツモグモグバリバリシヤクシ
ヤクモチャモチャグビグビングングモリモリ」
逝^セ_ロ高生徒の弁
当やら学食の食材やらを片っ端から食い荒らす

食堂のおばちゃん「何こいつら!？」

ヤンキーC「4次元胃袋か？」

永司「じゃあちよつと黒板にお化粧でも」
黒板に派手な色の力
ラースプレーを噴霧

教師「やああめなさああい！」

ナギサ& a m p ;5103「窓ガラスブレイク！」

ヤンキーD「止めるそれ窓ガラスじゃない窓の横の壁だから！」

ガジル「……なんか地味な嫌がらせじゃねえかそれ。」

ヤンキーE「でも被害はありますよね。」

サリサ「確かにね。」

ヤンキーF「大変です！普通にあばれてるやつもいます！」

ジュビア「そっちの方がありがたいですけど。」

エルザ「ルミアは何処だぁぁ！？」

悠莉「吐かないとこのコンバットサンボ部部長の悠莉様がちよつと痛めの整型するよ？」 ヤンキーの胸倉をつかむ

アキ「どうするの？もっと痛めつけてほしいの？」 物凄い仮面を着用し、鞭を構えてヤンキーを踏みつける

サリサ「なんかあいつらがまともに見えるのってボクだけ？」

ガジル「たぶん違う。俺もそう見えるから。」

コブラ「いや、アキはただのドSだろ。」

アダム「ルミア発見！」

シズル「助けに来たぞ！」

ルミア「ハアハアハア……」

アダム「……………これってどうすればいいの？縛ったままの状態で運べばいいの？」

シズル「ほつといたらすぐに絶頂行くと思うが。」

アダム「さりげなく下ネタ挟むな。」

レン「と言つかこの設定自体下ネタだろ。」

（数分後 アダムが縛られたままのルミアを担いで出てくる）

アダム「さて、他の奴らはどうなってる？」

悠莉「ハア……………ちょっとやり過ぎたかも……………」

（ヤンキーがごろごろ転がってる）

シズル「あ、悠莉。」

悠莉「シズル……………いや違うんだ……………これはその……………」

シズル「いや、これくらいで君の事を嫌ったりはしないさ。そういう面も含めて好きなんだからね。」

悠莉「……………お前……………」

エミリア「ムギイイイイイイイイ!!」

アダム「これでとうとう海に行ったメンバーの中の非リア充はエミリアだけか。」

ユート「ホントだ。」

不良と一口にいても色々いる……のか？（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回の質問はありません！」

アダム「えー、これで今回の読者と触れ合う質問コーナーを終わります。キャラ個人に対して『○○に質問です』みたいなのも可ですので遠慮せずどんどん送ってください。」

高校は体育大会が始まるのが早い（前書き）

いやー台風すごいつすねマジで。 作者は兵庫在住なんですが、2日も警報で学校ありませんでしたからね。

高校は体育大会が始まるのが早い

士「と言う訳で、ただいまより、『ドキッ！傭兵だらけの大運動会ポロリもある訳ないだろ煩惱滅殺するぞゴラ』を開催いたします！」

夏ミカン「名前に問題ありじゃない？」

ハント「この際どうでもええやん。」

士「では最初に、大会主催者のメフィスト・フェレスさんに挨拶をしていただきます。」

メフィスト「こんにちわ皆さん。と言う訳で挨拶は終わります。」

皆「「「「「なあッ！？」「」「」」

ドシヤアアッ！

士「では、第1種目、『パン喰い競争』を始めます！字がエグイのは気にしない！」

参加者：

紅組：アダム

ユート

映司

白組：大文字

たっくん

新八

フィリップ「位置について よーい…」

バン！

皆「……よし！」「……」

フィリップ「…ってやったらスタートだ。」

アダム「そう来る！？」

フィリップ「よーい…」

カチッ

フィリップ「ゴメン、弾切れた。」

賢吾「じゃあ代わりにこれでもならせ！」 フィリップの股間を蹴る

カーン！

フィリップ「ビヤギヤアア！…」

アダム「ふおおおお！…！」 スーツの脚力全開で走る

ユート「ぬおおおお！…」 リンクベント発動

映司「しやらあああああ！！！」

『タカ！カマキリ！チーター！』

その他「「「に」やあああああああ！！！」」吹っ
飛ぶ

ジャッジ「アダム、ユート、映司、タイム早すぎて計測不能！その他、戦闘不能！とりあえず1位は紅組、火野映司！」

士「紅組が先制！」

ルミア「戦闘不能って何ですか……」

士「第2種目、『球入れ』を開始します！」

参加者

紅組：アダム

映司

弦太郎

悠莉

シズル

永司

白組：澤木翔太郎

翔太郎

ダディ

カラスマチヨチヨン

ウヴァ

フィリップ「ぬおおお…用意…」 股間を抑えて呻く

Bannon!

弦太郎「行くぜ！」 球を大量に抱える

『HOPING ホッピング オン』

弦太郎「行くぜええ！！！」 ホッピングモジュールでジャンプし、抱えた球をすべて投入

翔太郎「ジャッジ！これって反則だろ！」

ジャッジ「ホッピングを使うなというルールはアリマッスエ〜ン。」

士「3、2、1、終了！結果は？」

ジャッジ「紅組1267個、白組17個！勝者、紅組！」

ウヴァ「紅組圧倒的すぎ」

悠莉「黙りなさい。私達が圧倒して何か悪い？」　ウヴァの顔面に
ゴキジェットプロ噴射

ウヴァ「ヴオオオオオウ！」

ダディ「ナニヤツテンダ！」

士「第3種目、『綱引き』開始！」

参加者

紅組：ガメル

サゴッソ
永司

比奈

ヒロシザン

マガシ

白組：クラウチ

シズル

海東

アंक

アレン

シズル「このメンバーは不公平過ぎだ。」

フィリップ「……用意……」　股間を抑える

パン！

紅組「「「「「又アアアアアアアアアア！！！」」「」「」

白組「「「「「に」やあああああああ！！！！」」「」「」引き
ずられる

ジャッジ「勝者、紅組！」

アレ「紅組圧倒的すぎだろ！」

シズル「メンバー変えて！」

翔太郎「と言う訳で続きは次回に持ち越した。作者はもう少し真面目にやってほしい。」

リイマジフィリップ「誰に…あ、これは必要か。」

高校は体育大会が始まるのが早い（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回はカイルさんから。『チエルシーとユートを除くみんなに質問です。永司が混沌神ユニグッドになったらどう対処します？』だって。」

シズル「ん〜…」

クラウチ「どうだろうな……」

ルミア「かなり難しいですね。」

燐「たしかにな。」

アंक「……作者が最終形態と予想した妄想コンボ『タトバコンボブレイブ』に映司を変身させて対処する。」

フィリップ「オーデインのデッキを映司に与えて対処する、とか？」

ウヴァ「止めて世界が滅びる！」

いい加減この長ったらしいサブタイ考えるのも面倒になってきたけど止めるな

ただいまの戦績

紅組：3 0：白組

いい加減この長つたらしいサブタイ考えるのも面倒になってきたけど止めるな

士「えゝ、では第4種目、『相撲』を開始します!」

アダム「何で運動会で相撲?」

士「気にしたら負けさ」

エミリア「あんたのそういう喋りかたって似合わない…」

出場者

紅組：良太郎キンタロス

白組：5103

良太郎キンタロス「相撲なら負けへんで!」

5103「俺は負けない。何としても勝つ!白組のためにも、ナギサの笑顔のためにも!」

ナギサ「頑張れ後藤!」 学校編と同じくジャージ

5103「俺は必ず試練に勝つ、それが後藤慎太郎だ!」

エミリア「何処の仮面ライダーラストよ。」

良太郎キンタロス「行くで!」

フィリップ「用意…」

バン！

5103「行くぞ！」

『CATERPILLAR LEG』

キンタロス
良太郎「変身！」

『AXE FOAM』

キンタロス
5103 & a m p ; 良太郎「うおおおおお！……！！！」
ぶつかり合う

ルミア「凄いですね……一步も譲らない……」

アダム「ああ……すげえ……」

5分経過

キンタロス
5103 & a m p ; 良太郎「うおおおおお！……！！！」
変化なし

エミリア「ものすごいね二人とも。」

アダム「キン！このまま引き離せ！」

ナギサ「頑張れ後藤！諦めるな！」

10分経過

5103 & a m p ; キンタロス良太郎「うおおおおお！……！！！」
変化なし

ナギサ「あきらめるな！粘るんだ！」

アダム & a m p ; エミリア「ファゝハゝ（欠伸）」

30分経過

5103 & a m p ; キンタロス良太郎「うおおおおお！……！！！」
変化なし

ナギサ「頑張れ！負けるなああ！！！」

エミリア「ええ加減にせえええい！」 5103とキンタロス良太郎に延髄
切り（プロレス技）

5103「させるか！」 かわす

キンタロス良太郎「ギャラバァッ！」 喰らう

ジャッジ「良太郎が転倒しました！よって、勝者は5103です！」
キントロス

ナギサ「やったな後藤！」 5103に飛び付く

5103「ああ！これで逆転できるぞ！お前の応援がなかったらここまで粘れなかったよ。ありがとう。」 ナギサを抱きしめる

エミリア「ヌギイイイイイ！！！」 マンガみたくハンカチを噛みしめる

アレン「ドンマイ。」

ユート「イチャラブするにしてもせめてブルマでしろよねえさん……つまらないぞ。」

大文字「ここから巻き返すぞお前ら！」

白組「……………おゝ！……………」

士「では、ここで午前の部は終わります。昼食の時間を取るのので、しっかり燃料補給してください！」

紅組

弦太郎「アダム、その弁当お前が作ったのか？」

ルミア「あ、私が作ったんです。」

アダム「自分でやれるって言ったんだけどな。」

ルミア「でもおいしくできたでしょう？」

アダム「おう！お前の料理って最高だよ。」

海東「ルミアさああん！僕にもお弁当一口くだs」

ルミア「お前は白組だろうが！」

『FINAL ATTACK
RIDE DE・DE・DE・DE
CARD』

海東「ノビヤアアア！！！」

アダム「何でライダーカード使えるんだルミア。」

白組

シズル「もしもし悠莉？」

悠莉「もしもし。私だ。」

シズル「残念だよ、君と組が違うなんて。」

悠莉「私もだ。貴方と一緒に…勝利を祝いたかったのn」

咲魔「ハイそのケータイ没収！」

シズル「あゝ あああ！！ケータイ返せ！返せええ！！」

アレン「まあ今の会話って、聞いててかなりムカつくからな。」

咲魔「みんな〜！シズルの待ち受けけ〇おんだよう！マイピクチャもヲタ系画像だらけ！」

翔太郎「やっぱりヲタだな。」

カザリ「それがシズルだからね。」

シズル「返せ！返せええええええええ！！」

悠莉「シズル…私より2次元の方がいいのか…？」 白組サイドに
駆け付けた

シズル「ズビバゼン待ち受け変えるの忘れてました。」 フルボッコ

悠莉「部屋のヲタグッズを二人で全部片付けたと思ったら…」

シズル「…じゃあこれで許してくれ！」 ケータイを近くのため池
に投げ込む

悠莉「シズル！？」

シズル「ゴメン悠莉。もう二度としないから。」

エミリア「いや、シマウマ…」

出場者

紅組：リュウガ

アダム

辰見シンジ

ユート

白組：キット（ドラゴンナイトはアダムが使うのでオニクス）

アレン

K R D K アダム

ナギサ

エミリア「何この組み合わせ！」

クラウチ「8人中6人龍騎とリュウガじゃねえか…」

士「鉢巻きを取られるか、馬から落ちた者は脱落！全員が先に脱落したチームの負けです。」

フィリップ「用意…」

バン！

紅組「」「」オラアアアア！！」「」「」

白組「」「」だらアアアア！！」「」「」

リュウガ「お前何でリュウガなのにイイモンなんだよ！」 キット

と取っ組み合う

キット「お前こそ何でオニキスなのにワルモンなんだよ！僕らからすればワルモンのオニキスは異常なんだよ！」　リュウガと取っ組み合う

アダム「安藤ポジションにふさわしいのは俺だアレンんんんんんんん！！！！」　アレンと取っ組み合う

アレン「いいや俺だアダムううううう！！！！」　アダムと取っ組み合う

シンジ「リイマジだからってなめんなよアメリカかぶれがアアア！！」　K R D K アダムと取っ組み合う

K R D K アダム「ふざけんな先輩は俺だアアアアあ！！！！」　シンジと取っ組み合う

エミリア「何で見分けてんの。」

ルミア「それよりほら、アレ見なさいエミリア。」

エミリア「？」

ユート「負けないぞおねえさん！その鉢巻きをよこせ！後ついでにその蒸れて臭う靴下もください豊満な体もくださいハアハアハアハアハアハアハア……」

ナギサ「変態！貴方などに純潔は渡さん！」

ユート「甘い！」 ナギサの後ろに周り込む

ナギサ「なっ！後ろからなど卑怯な！」

ユート「卑怯もラッキョウも大好物だぜヒャッハアアア！！！」

シズル「何故にDCDシザース。」

ナギサ「せめて前からしろ！後ろなどダメだ！」

ユート「一度でいいからこうやって後ろから攻めたかったんだ！」

エミリア「純粹に騎馬戦してるだけなのにはたから聞いたらすつくヤラシイ会話だよねこれ。」

ウヴァ「作者の変態性がにじみ出てるな。」

作者「黙れ虫野郎。」 ゴキジェットプロを噴射

ウヴァ「ヴォオオオオオウ！」

シズル「作者出てきた！」

翔太郎「しかし大混戦になってきたな。」

映司「もう全員で入り乱れてるからね。」

騎馬戦選手「「「「「うおおお!!」「」「」「」」

ナギサ「誰だ!どさくさにまぎれて胸やら太腿やらお尻やら触った奴!」

アダム「アレンに決まってるだろ非リア充だから欲求不満なんだよ!」

アレン「ふざけんな俺はそんな変態じゃねえ!」

リュウガ「あ、それ俺。」

ユート「僕より先に手を出すな!」　リュウガを殴る

リュウガ「ヴォオオオウ!」　ゼブラスカル・アイアンから落下

アダム「リュウガの敵!」

シンジ「紅組が仲間割れしたぞ!」

ナギサ「今だ!まとめて叩き落とせ!」

キット&アレン&KRDKアダム「「行くぞ!」」

『『『ストウライク　ベーント!』『』』

キット&・アレン&・KRDKアダム「ウエエエ
エエエイ!!!」 ドラグクローファイア

紅組「みゆぎやああ!!!」 ゼブラスカル・アイアンか
ら落下

ジャッジ「紅組全滅!よって勝者は白組!」

翔太郎「よっしゃああ!!!」

エミリア「ぬうう...これは分からなくなってきたわね...」

士「最終対決は、全メンバーによる『500メートル走』です!人数
かなり多いけど気にしない!」

エミリア「いや気にするわよ。」

(全メンバーが横1列にズラリ。言ってみるならオールライダー体
大ショッカーのワンシンのもつとすごい奴)

士「ちなみにこの競技に勝利した方の優勝です!」

エミリア「『じゃあ今までの何?』とかベタだから言わない方が
いいわね。」

フィリップ「位置について！用意…」　ギガランチャーを空に向ける

チュイイイン　チュドオン！

選手「…………ぬおおおおお！！！！」……………

エミリア「しゃらあああ！！」　スーツの脚力で爆走

たつくん「こいつでい」　アクセルメモリーを外す

永司「はい阻止！」　ファイズアクセルをメダジャリバーで壊す

たつくん「お前はナニヤツテンダ！」

映司「行くぞおお！」

『ライオン！トラ！チーター！

ラッタ　ラッタ　ラトラーター！』

ウヴァ「させるか！」　足を引つ掛ける

映司「ドおおおお！！」　転倒

紅組「…………負けるかアアアア！！」……………

白組「…………うおおおおおこなくそオオオオ！！！！」……………

翔太郎「いつけええええ！！」

『ルナア！ジヨオオカアア！』

ファーンファーン デンデンデン！

翔太郎「おらああああ！！」 腕を伸ばしてゴールテープを切る

ジャッジ「1位、左翔太郎！よって優勝、白組！」

映司「何やってくれてんの？」

永司「せこくない？」

ユート「僕らの走りを返せ。」

翔太郎「あ……」

いい加減この長ったらしいサブタイ考えるのも面倒になってきたけど止めるな
飛びきりヤラシイネタを入れてすんません。

海外旅行に行くときはガイドの振りをした詐欺師にご用心

弦太郎「何だろうな、俺達に召集って。」

スイッチ『リンクベント（ユート）とかファイナルカメンアタック
フォームライド（チエルシー）の討伐か何かか？』

賢吾「ナニツテンダ！フザケルナ！」

悠莉「そう言えば、このメンバーってみんな最近加わった面子じゃないか。」

ユウキ「確かに。」

ニール「よう、待たせたな。」

賢吾「ロックオン兄弟か。俺達に何の用だ。」

ライル「えゝ、この世界に来てまだ日が浅いお前らに、色んなところを案内してやろうって感じだ。」

悠莉「確かに、私がいたグラールとは結構違うからな。」

ニール「じゃ、1か所ずつ案内するぜ。」

ボッスン「この縦も横も規格外の大きさのビルは何なんだよ？」

ライル「えつとこれはだな、ポレポレ兼S・A・U・L兼OREジヤール兼流星塾兼BOARD兼ハカランダ兼甘味処たちばな兼ZECT兼ビストロサル兼ミルクデ IPPA 兼キャッスルドランのビル兼カフェ・マル・ダムール兼グレース堂書店兼No Man本部兼光写真館兼ATASHIジャーナル兼リイマジBOARD兼スマートブレインハイスクール兼（中略）……被魔塾兼フェアリーティル兼マザーベースなのだ！」

ヒメコ「どんだけ色々兼ねとんねん！」

ニール「ちなみにこの隣のビルは敵の施設をまとめてある。一応シエードもあるぞ。」

弦太郎「ビルをまたいで喧嘩とかならないのか？」

ライル「なるに決まってるだろ。特にBOARDとスマブレの間な

んて1日1回はプチライダー大戦が起こってるぞ。」

ニール「3日前なんてすごかったよな。ライオトルーパーが3万人は出動して、カリスとグレイブ以外のライダーで三国無双状態だったよな。」

椿「何でBOARDとスマブレがぶつかる？」

安形「かっかっか、まア細かい事はいいじゃねえか椿。」

ニール「ちなみにその時はチェルシーが出動して事無き事を得たぜ。」

ヒメコ「それって殲滅されたって事か!？」

ライル「それ以来チェルシーはそいつらに女王様って呼ばれてる。」

ボッスン「調教されてるじゃねえか!」

ニール「もう知ってると思うけど、ここがクラッド学園でござーい
！」

ヒメコ「あたしらはここ通ってるもんな。」

悠莉「^ゼ逝^ロ函高とよく揉めるのか？」

ボッスン「ああ……向こうもライダーとか普通にいるし。」

スイッチ「1週間前など地獄兄弟が影分〇の術を習得して無数のホ
ッパ―軍団として乗り込んできたよな。」

ヒメコ「あれはきつかったで。羽黒先生と事務員の秋山さんがトリ
ックベントで何とかしてくれたから良かったようなものの。」

ユウキ「あの二人ここでも働いてんの!？」

ライル「ここがここ数年空気化してるガーディアンズコロニーでござーい！」

悠莉「く、空気が重い……」

弦太郎「コロニー自体が半透明に見えっけど。」

大文字「いや、見えるというか半透明だ。」

ニール「とりあえず入るか。」

ミーナ「ガーディアンズにようこそ……」

ユウキ「テンション低っ！」

美羽「ガーディアンズがリトルウィングに出番取られてからミーナみたいな受付嬢の出番は皆無になったものね。」

ネーヴ「どうした…以来か…？」

賢吾「ネーヴもテンションが低いな。」

ニール「最後はこの世とあの世をつなぐ『ヘブンスゲート』でございーい!」

(皆の前にはブレイ○ストーリーの要観^{カナメノミトヒラ}雇みたいな雇)

ユウキ「何それ!」

ニール「これがあるから原作で死んだキャラが出演できるんだよ。ちなみに俺もここ通ってきた。」

弦太郎「ギアアアアアアアアアアアアアアアアゾンビイイイイイイイイイイイイ!」

『rocket drill limit break』

弦太郎「せいやあああああああ!」

ニール「ドブツフオオ!」

ユウキ「弦ちゃんが恐怖のあまり暴走してしかもキャラ間違えたあああ!」

ライル「ちなみに敵方のほとんどはここ通って来たぜ。」

悠莉「じゃあひよつとしたらカムハーンも来るってことか?」

フハハーン「フハハハハ!我が名は太陽王カムh」いきなりへ

ブンズゲートからシズルの姿で出て来る

弦太郎「あ、フハハーン。」

賢吾「最低91回は大人の2P対戦モードをやったフハハーン。」

ユウキ「ドS太陽王フハハーン。」

大文字「精力だけは一人前のフハハーン。」

美羽「43人の妃と91人の子息がいる事から単純に考えると妃一人と最低2回は『ドキューン』を『ドキューン』してるフハハーン。」

悠莉「厨2病真っ盛りのフハハーン。」

ボッスン「たまにゆでダコみたいな色で出てくるフハハーン。」

ヒメコ「本来の人間の姿が未登場のフハハーン。」

スイッチ「誰からも尊敬されてないフハハーン。」

フハハーン「ぬあああああああ!!!!!!これだから消えゆく存在どもは嫌いなんだアアアアアアアアアアア!!!!!!」
へブンズゲートに泣きながら走って入る

ヒメコ「打たれよわっ!」

椿「Sは打たれ弱いと聞いた事がある。」

海外旅行に行くときはガイドの振りをした詐欺師にご用心（後書き）

皆質問遠慮せず送ってね！

『今回の質問はありません』みたいなのが無い時も質問は受け付けてるお！

抜き打ち中間テスト：プロローグ（前書き）

めっちゃイケでやってたので……

抜き打ち中間テスト：プロローグ

エミリア「何？レギュラー陣で写真撮影って。」

燐「俺達に参加したときはこんなの無かったけど。」

弦太郎「文句言うな！」

カメラマン「じゃあ撮りまーす！3・2・1で行きますよ！3！2
！1！ハイ！」

ガラッ！

皆「……………」

（カメラマンのすぐ後ろの壁が横に開く。後ろには教室のセットが。）

士「……………どうした？何してる？」 教師ルックス

アダム「……………え？これってまさか…アレか？めっちゃイケの…」

士「お前ら何でそんなカッコしてるんだよ。制服に着替えろ！テスト始めるぞ！」

シズル「やっぱりー！」

ナギサ「ん？どういう事だ？」

アंक「『メチャ？イケてるっ！』ってバラエティの企画の一つだ。ニセ企画で呼び出されたメンバーが抜き打ちテストを受ける羽目になるってわけだ。」

ワイナル「最下位になった人は『国民荣誉バカ』の称号を頂戴するってわけなの。」

士「全員でやると参加者が多くて作者の処理能力が追い付かないからベスト3とワースト3のみ発表だな。」

永司「俺達もやるの！？」

咲魔「勘弁して！実年齢100歳越えてるからブランク長いの！」

ボッスン「俺達現役学生には有利だろ！」

銀時「勘弁しろってマジやってらんねえよ。」

士「更衣室があるから早くそこで制服に着替えろ！」

数分後

（全員紺のブレザーに着替える。男子は赤か青のネクタイをしめ、女子はリボン。）

士「えゝ参加者はこのリストに記載されてるからな。」

参加者：アダム

エミリア

ユート

ルミア

シズル

ナギサ

アレン

クライス

五代

津上

真司

たっくん

剣崎

相川

ダディ

睦月

ヒビキ

明日夢

天道

やさぐるま

影山

良太郎

遊星 沖田 土方 近藤 新八 銀時 カズ スネーク グレイ ルーシィ ナツ スイッチ ヒメコ ボッスン しえみ 勝呂 燐 K R D K アダム レン キット 賢吾 弦太郎 5 1 0 3 アンク 映司 照井 翔太郎 吾郎 海東 渡

ジャック

クロウ

永司

澤木翔太郎

咲魔

悠莉

士「テストは5教科、各90分で行う。100点満点で採点するか
ら、合計点数は最大500だ!」

エミリア「あたし達バカに対する嫌がらせ?」

シズル「僕はバカじゃない!断じてバカじゃない!」

剣崎「俺は結構頭良い(公式設定)からな!」

士「私語は止めだ!じゃあ1教科目行くぞ!」

抜き打ち中間テスト：PART 1

テスト終了

エミリア「ぬあゝ、死ぬかと思った……」

シズル「ムズすぎ……」

良太郎「二人ともお疲れ。」

スネーク「俺はほとんど教育を受けてないんだが、自信はあるぞ。」

士「では結果発表だ！まずは社会から行くぞ。最初に上位生徒を発表する。」

アレク「だれだろ。」

士「勝呂龍司！93点！」

勝呂「しゃあ！見たか！」

士「ルミア・ウェーバー！92点！勝呂とは1点差だ。」

ルミア「あゝ、1点足りませんでしたか……」

士「じゃあ、メンバーの回答を発表しよう。最初はこの問題だ。」

）（画面に問題が映し出される。）

士「空欄問題だ。『インド人傭兵シパーヒーは、（ ）の使用を拒否してインドの大反乱を起こした。』まずはルミアの回答。」

デン！

ルミアの回答『…シパーヒーは（新式銃）の使用を拒否して……』

士「見事正解だ。では次は、ユートの回答だ。」

デン！

ユートの回答『…シパーヒーは（コンドーム）の使用を拒否して……』

ユート「だってそうだろ？中出しの無い『ドキューン』なんてルーが無いカレーみたいなもんだ！」

エミリア「回答にまでユートのスケベ趣味が出てるね。」

士「エミリア、お前のもヒトのと言えないぞ。」

デン！

エミリアの回答『…シパーヒーは（パンツ）の使用を拒否して……』

エミリア「いや……使用拒否って言ったらノーパンがパンツを拒否するくらいしか……」

アダム「酷くねえか二人とも？」

士「じゃあ次の問題行くぞ。『この写真はなんの様子を映しているか答えよ。』」

（画面にオイルショックでのトイレットペーパーの奪い合いが映し出される）

士「まずは剣崎。」

デン！

剣崎の回答『オイルショックに伴う日用品の買い占め』

士「お見事。次はアダム。」

デン！

アダムの回答『女子プロレス』

士「ここまで多数のプロレスが何処にある？」

アダム「いや、そう見えたし……」

士「次は隣だ。」

デン！

燐の回答『女子プロレス』

勝呂「お前もかい奥村！」

士「次はシズルだ。」

デン！

シズルの回答『オバサン達によるヨン様争奪戦』

ルミア「何でヨン様が出てくるの！？」

士「さあ、続いては次の問題。『次の国の首都を答えよ。1：アメリカ合衆国 2：イギリス 3：中国』最初はクライスの回答だ。」

デン！

クライスの回答『1：ワシントンD・C 2：ロンドン 3：北京』

クライス「ま、こんなものだよ。」

キット「リイマジでしかも裏切り者でも流石は正式な仮面ライダーってところ？」

アंक「知るか。」

士「続いては、アंक。」

デン！

アンの回答『1：小浜町^{オハマ} 2：キャメロン市 3：洛陽』

士「キャメロン市って何だよ！小浜町は実在するけど！後3番は隋の都だ！」

アンの「せめて よこせ。」

士「ムリだろこれは！絶対バツの領域だろ！次は弦太郎！」

デン！

弦太郎の回答『1：知らん 2：分かりません 3：これが俺の実力だ！』

士「1と2はまだいいよ！3番は何！？これ何！？」

弦太郎「これが俺の実力だからです！」

士「もういいや。次はこれだ。『非核3原則は何か答えよ。』今回はもうバカの回答から行くぞ。近藤。」

デン！

近藤の回答『核兵器をもたず、つくらず。持ち込むのはオッケー。』

士「何で持ち込むのはオッケーなわけ！？これ非核じゃなくね！？」

近藤「俺はこう習ったぞ。」

士「嘘こけ！」

翔太郎「次回の強化は理科だ。楽しみにな。」

ピリッピリッ ピリッピリッ

翔太郎「ハイもしもし？」 スタッグフォンを取り出す

リイマジフィリップ『誰に話してるんだ左翔太郎？』

翔太郎「その執念は表彰モノだよ！」

抜き打ち中間テスト：PART 2

士「続いては理科だ。まずは上位の発表だ。もちろん発表した以外にも成績のいい奴はいるぞ。

まずは、剣崎一真！98点！」

剣崎「ウエエエイ！」

士「神童永司！99点！」

永司「つしゃあああ！！！」

士「ちなみに映二は『分子間力』の『間』の字のうち、『日』の部分を間違えて『目』って書いてただけだ。」

エミリア「永司惜しいね。」

士「さあ、正解発表だ。まずはこの問題。『脊椎動物は全部で5種類に分類される。その分類すべてを答えよ。』まずはエミリアの回答だ。」

エミリア「ドキドキ……」

士「科学者時代の知識が生きてたんだろ？。奇跡的に全問正解！」

デン！

エミリアの回答『哺乳類 爬虫類 鳥類 魚類 両生類』

エミリア「よっしゃああああああ！！！」

士「続いてはアंकの回答。」

デン！

アंकの回答『ウヴァ カザリ ガメル メズール 俺』

士「それはグリードだ！グリードの分類だ！後この『俺』って何だよ！」

アंक「いいじゃねえか別に。」

士「まあいい。続いては賢吾。」

デン！

賢吾の回答『哺乳類 爬虫類 鳥 魚 カエル系』

士「カエル系って何だ！」

賢吾「スミマセン。たった今やる気を忘れた事に気が付いたので帰ります。」 席を立つ

士「オイてめえ3秒以内に席に着かネえとドタマぶち抜くぞ。ほれ」

『ATTACKRIDE BLAST』

バン！

賢吾「ビヤアア！2と3は！？」

士「しらねえナ（ry）」

士「続いてはこれだ。『次の元素記号はそれぞれの原子を表わしているか答えよ。1：H 2：Cu 3：O』まずは悠莉の回答。」

デン！

悠莉の回答『1：水素 2：銅 3：酸素』

士「見事正解だ。続いてはユート。」

デン！

ユートの回答『1：はああん！ 2：くああっ！あああん！ 3：オオイエエス！オオ！オオ！オオ！』

士「全部見事に嬌声じゃねえか！」

ユート「分からなかったから仕方ないだろ！」

士「仕方なくネエエエエエエエエエよ！」

士「次はこれ。『太陽系の第2、第4、第5惑星をそれぞれ答えよ。』
『まずは翔太郎。』

デン！

翔太郎の回答『1：金星 2：火星 3：木星』

翔太郎「どうだ？」

士「澤木翔太郎も同じく正解だ。よかったな。」

澤木翔太郎「つしゃあ。」

士「次はナギサだ。」

デン！

ナギサの回答『1：コル○ント 2：タトウ○ーン 3：ジ○ノー
シス』

士「何でスター○オーズ！？」

ナギサ「いや、分からなかったから適当に答えた。」

士「ハア……次は映司。」

デン！

映司の回答『1：ウル○ラの星 2：しし座L7○番星 3：ガ○ラス』

士「何で3だけ宇宙戦艦ヤ○ト！？」

映司「いやぁハハハ……」

士「もういい。次は海東。」

デン！

海東の回答『1：ウメ星 2：オット星 3：不動遊星』

海東「でも面白くないか？ねえルミアs」

ルミア「知るかボケ！」

『FINALFOAMRIDE KA・KA・KA・KA・KAIDOU』

ベキヤツ！バキバキボキボキヤアアン！

海東「びゃあああああああ！！！」

五代「止めたげてさすがにかわいそう。」

ナギサ「落ち着けルミア。相手がいくら海東でもやり過ぎだ。」

海東「そ、そうそう…」

ナギサ「一撃で楽にしてやるのが筋と言っものだろう。KAMEN RIDER！」 スティングに変身

シズル「ナギサさん止めてえええ!!！」

『ファイナルベント!!』

ナギサ「ぬあああああ!!！」 海東にハイドベノン

海東「ズビヤウ!!」

ユート「なあ、あれどう思うアレン？」

アレン「何が？」

ユート「スティングにおねえさんをチョイスした作者の神経だ！あの爆弾オパーイが全く見えないぞ！」

アレン「ああ！それ思った！ナギサの一番の特徴のあのデカパイが完全に殺されてるよな！」

ユート「あれは許せないよな！僕達爆乳好きへの嫌がらせだ！」

アレン「全くだ！爆乳を隠す意味が分からねえよ！」

アダム「お前ら話がずれてる」

アレン「貧乳好きなんて呼びじゃねえんだよこのマイノリティが！」

アダム「行ったなゴラぁ！そこまで言うんだったら小っぱいの魅力について語りつくしてペチャパイ派にするぞお前！」

アレン「上等だ！爆乳の魅力について布教してやんよ！」

エミリア「何の話だ。」

抜き打ち中間テスト：PART 2（後書き）

ナギサはKRDK小説で実際にスティングになってますので。

抜き打ち中間テスト：PART 3（前書き）

え、ども。少し前までオルタナティブを『オルタナティブ』と読み間違えていた作者です。現在この小説では第2回人気投票を開催しております。投稿対象は今まで登場したすべてのキャラです。第1回は自然消滅しちゃったんで、今回こそはよろしくお願いします。第2回は自然消滅しなかった奴には罰ゲームもあります。

抜き打ち中間テスト：PART 3

士「えゝ、では次の科目をはっぴゝ」

たつたらゝたつたつたつたらゝたらたつたらゝたゝたゝ（
士の携帯の着メロ。ちなみにクライマックスE）

士「はい、もしもし？……なに！？分かった、すぐ行く！」

咲魔「なに？どうしたの？」

士「夏ミカンから鳴滝とアポロガイストの奴がデイケイドに変装して街中でコサックダンスを踊り狂いながらイタリア語で女性器を意味する単語をわめき続けてるって連絡があつたんだ！ちよつと行つてぶちのめしてくる！」

アダム「オイ！結果発表はどうするつもりだ！」

士「大丈夫だ！夏ミカンが代役頼んでくれたって！じゃあ行つて来る」

『KAMEN RIDE DECADE！』

エミリア「…行っちゃったね。」

ルミア「代役って誰なんだろう。」

がらららっ

（黒いキャストが入って来る。ちなみに頭はバスケットと同じ。）

????? 「え、ども。俺が代役だ。」

エミリア「え！？あんだ…作者のマイキャラ？」

シーブック「そうだ。作者は地球人だからな。グラールに9分58秒以上いると体が粒子化して消滅する事が分かったから、この作品に干渉したいときに俺を使うことにしたってわけ。ってなわけで、英語の結果を発表するぞ。」

エミリア「この世界はミラーワールドじゃないっての！」

シーブック「さあ、いくぞ。まずはトップ発表だ。クライス99点、剣崎一真95点。さて、行くぞ。最初はこの問題だ。『次の英単語の日本語の意味を書け。1：chair 2：plain 3：city』。最初は土方の回答。」

デン！

土方の回答『1：椅子 2：飛行機 3：都市』

シーブック「お見事。続いては咲魔。」

咲魔「やーめーろーやーめーろー（真木風）！」

デン！

咲魔の回答『1：茶 2：プレーンヨーグルト 3：ベロ』

シーブック「せめて3番の『ベロ』は何とかならなかったのか？」

咲魔「良いでしょ別に！」

シーブック「……次行くぞ。次の問題は長文だ。『傍線部の英文（I thought that he loved Lucy）を日本語に訳せ。』まずは吾朗。」

デン！

吾朗の回答『私は彼がルーシーを好きだと思った。』

シーブック「正解だ。次は永司。」

永司「どうしよ…俺絶対長文で落としてるし…」

デン！

永司の回答『私はあの彼がちょっと幸運だと愛する。』

シーブック「意味不明だ！」

永司「俺こういうの苦手なんだって！」

シーブック「ハア……じゃあ、次だ。『次の英単語のうち、アクセントの位置が異なるものの記号を書け。1：i n t e - r e s t i n g 2：p e r - f e c t 3：D e - c e m b e r』。まず

は照井。
」

デン！

照井の回答『3』

シーブック「正解。次はヒメコ。」

デン！

ヒメコ『知るかボケえ！』

シーブック「真面目に答えんかい！と言つかお前はツッコミじゃねえか！」

ヒメコ「ほんまに分からなかったんや！」

シーブック「だからってこれは無いだろ！」

翔太郎「次回は数学。楽しみにな。」

たつたつたゝらゝたつたゝらゝ たつたつらたゝらゝ (c y c l
o n e e f f e c t)

翔太郎「メールか？」

リイマジフィリップのメール『誰に話してるんだい左翔太郎？』

翔太郎「せめて電話にしろ！」

抜き打ち中間テスト：PART 4（前書き）

もう期末テストシーズンですね（汗）。

現在、『リトルウイング雑務日誌 カオスとヤバスとクロスオーバー』では人気投票を開催してます。今まで一瞬でも登場したキャラであれば誰にいれてもかまいません。

抜き打ち中間テスト：PART 4

シーブック「え、じゃあ次は数学だ。」

エミリア「……」 絶賛諦めモード

シズル「大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い大丈夫だ問題無い……」 イー○ツク風

シーブック「最初の問題、の前に、一人酷い回答の奴がいる。」

剣崎「誰でしょうねダディアナザン？」

ダディ「俺に聞くなケンジャキ！」

シーブック「お前だ剣崎！」

剣崎「！……！」

シーブック「……これだ。」

デン！

（剣崎の答案の全体像がが映し出されるが、名前以外の部分は字が汚すぎて判読不能）

「シーブック「安心しろ、名前はきれいにかけてたから5点やったぞ。」

剣崎「ウゾダドンドコードン！」

ボッスン「ある意味0点よりひどくねえか？」

スネーク「俺には分かん。」

シーブック「じゃあ優秀者発表。悠莉、97点。」

悠莉「…」無言だが表情は明らかに喜ばしげ

シーブック「遊星、100点！」

遊星「お、よかった。」

アキ「やったじゃない遊星！」

シーブック「じゃあ行くぞ。最初の問題。『次の計算問題を解け。』

1 : 1 + 1 2 : 1 0 + 2 4 3 : 1 6 + 3 1 』。サービス問題

だな。最初はエミリア。」

デン！

エミリアの回答『1 : 2 2 : 3 4 3 : 4 7 』

シーブック「奇跡的に正解。」

エミリア「奇跡的って…傷付くんだけど。」

シーブック「そしてシズル…お前…逆に称賛モノだけど…」

デン！

シズルの回答「1 : 4 6 4 6 4 8 4 6 4 9 8 4 2 : 7 9 4 8 5 4
6 5 2 6 4 9 4 6 3 : 5 9 6 5 6 7 4 7 9 4 6 4 7 9 4 6 5 9 4
5 6 8」

シズル「僕の脳内コンピュータによれば…ぶつぶつ…」

シーブック「まあいい。不正解者はシズルだけだから次の問題だ。」

シズル「ウゾダンドコードン！」

シーブック「『次の方程式を解け 1 : ? ? + 2 ? + 1 = 0 2 :
X ? - 4 = 0 3 : 2 (X + 3) = 15』。まずは新八だ。」

デン！

新八の回答「1 : X = 1 2 : X = ±2 3 : X = 9 / 2」

シーブック「……普通すぎて失望したぞ。」

新八「何でそこで酷評！？何でけなすの！？何？間違えてたら良かったの！？」

シーブック「次はスネーク。」

新八「無視すんな！」

デン！

スネークの回答『 $1 : X \parallel - 1 \quad 2 : X \parallel \pm 2 \quad 3 : X \parallel 9 / 2$ 』

アダム「アレ？外すと思ったけど。」

シーブック「考えてみる。バカな指揮官に兵士が付いてくると思ったか？」

ミカ『確かに、そうですね。』

エミリア「久しぶりの登場だね。」

ミカ『このまま永遠に出番ないのかと思いましたよ。』

シーブック「次はこれだな。『次の文章の空欄を埋めよ 二等辺三角形の（ ）の（ ）は（ ）を（ ）する』。情報が少ない難問だが、正解者は意外と多かったぞ。例えば、スイッチ。」

デン！

スイッチの回答『二等辺三角形の（底辺）の（二等分線）は（頂角）を（2等分）する』

スイッチ『どうだ。これが俺の実力だ。』

ボッスン「作者：文章じゃテンション高い時のスイッチのセリフ表現はムズイかもしれないけどさ…もつと工夫あっていいだろ…」

シーブック「しかたないやん、この小説を台本形式にしたのやって、自分の文才の無さをごまかしたいからなんやから！っていつてるぜ作者。」

隣「何でわかるんだ！？」

シーブック「俺は監視者だからな。作者の思考は俺に伝達され、俺の思想も作者に伝達されるようになってるんだよ。」

雪男「監視者：この小説をライダーバトル、作者を神崎士朗に例えると、君はさしずめ仮面ライダーオーデインと言ったところか？」

シーブック「ま、そんなところだな。あと、作者が抹消したいと思った設定がもしあれば、それを消すこともできる。ちなみに、このパートが終わったら作者のマイキャラからえりすぐった3人を監視者として追加するつもりだから。」

シズル「まだいるん」

シーブック「ちなみにその内1人は口リな。後巨乳もいるぞ。」

ユート& amp; アレン「…!!」

抜き打ち中間テスト：PART 4（後書き）

神崎士朗よ、すまん。

抜き打ち中間テスト：PART 5（前書き）

ただ今『リトルウイング雑務日誌 カオスとヤバスとクロスオーバー』では人気投票を開催しています。よろしければ投票お願いします。票が入ったキャラの中で1番ビリだった奴には罰ゲームも用意しているので。

抜き打ち中間テスト：PART 5

シーブック「内容がぺらっぺらのテスト編も今回で終わりだ！」

ヒメコ「作者批判で始めんなや！」

シーブック「最後は国語だ！では、成績優秀者発表だ。」

剣崎「どうせ俺はここで優秀になったとしても1位にはなれませんよーだ…」

相川「元気出せ剣崎。」

剣崎「相川…サンキュ…」

（剣崎と相川、男の友情ならぬアンデッドの友情の只中）

シーブック「バカコンビはほつとこう。優秀者は、勝呂、99点（誤字一つだけ）。」

勝呂「見たか！」

燐「グヌヌ…」

雪男「兄さんは勝呂君の全身の垢を煎じてがぶ飲みした方がいいね。」

燐「黙れビビリメガネのシズルックが！」

雪男「久しぶりにシズルックって言われた…」

シーブック「次はヒビキ、94点。」

明日夢「やりましたねヒビキさん！」

ヒビキ「まあね。」

シーブック「では、最初の…どうした天道？」

天道「さっきから俺の名前がちつとも上がってないが。」

シーブック「良いじゃん。」

天道「よくない！」

『KABUTO ZABEE DREIK SASWORD PO
WER MAXIMUM HYPER CYCLONE』

天道「うらあああああ！…！」

シーブック「ハア。」

（シーブックが片手をひらつかせるとマキシマムハイパーサイクロンの軌道がそれ、ルミアに命中）

ルミア「ひゃいいん！…！」

皆「…！！！！…？…？…？」

シーブック「ん？ああ、この能力は全監視者に備わってる。ま、監視者権限とでも呼んでくれや。監視者がキャラに倒されたら話にならねえだろ？」

アダム「まア、そうだけどさ…」

シーブック「ちなみに、アダムも作者のキャラとしては存在するけど、監視者じゃないからこの力は無い。」

アダム「なにも言つてねえけど!？」

シーブック「さあ、気を取り直して最初の問題。『次のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書け。カタカナを漢字に直す場合は振り仮名も書くこと。』
1：トッキョ 2：スウセイ 3：力
ツチュウ 4：マヌカレル 5：中枢 6：成敗 7：幕府。最初はルミアだ。」

デン！

ルミアの回答『1：特許 2：趨勢 3：甲冑 4：免れる 5：ちゆうすう 6：せいばい 7：ばくふ』

シーブック「流石だなルミア。」

ルミア「ハアハアハアいいわ！もっと虐めて！もっと痛めつけてえ！」
さっきのマキシマムハイパーサイクロンのダメージが残ってる

皆「……」

アダム「シーブツク！ルミアのどM趣味を監視者権限で消せねえか！？」

シーブツク「あゝ、権限は作者が無かった事にしたいと思った設定にしか効果が無いから。」

アダム「さああああくううううしやあああああ！！！！」

ヒュイイイイイイイン ミシミシミシミシ……

アダム「うらあ！」 ガンツソードをスーツのフルパワーで天空に投げつける

エミリア「何処に投げたの？」

アダム「いや、ちょっとな。」

地球

作者「鯉はさつきあげたやろ…カリカリ（ビスケットみたいなタイプの餌）食べるよ。」 自宅で猫に餌をやっている

（天井を突き破ってガンツソードが降って来る）

作者「ぬがあああ！！」 間一髪でかわす

作者の家の猫「ニヤアアアア!!」 作者に同じ

シーブック「……とりあえず次の答えを発表する。神楽。」

神楽「あゝ、やっぱ外れてたアルか。」

デン!

神楽の回答『1:とくきよ 2:なんとかせい 3:こうなんとか

4:めんれる 5:厨趨 6:性売 7:爆婦』

シーブック「とりあえず突っ込ませろ。6番がめちやくちヤラシイ感じだろ!あと7番も何?夫人が爆発するみたいになってっけど!?!」

神楽「この問題は捨ててたアル。」

シーブック「ま、いいだろ。次の問題だ。これは文学史。『次の作品の作者を答えよ。1:みだれ髪 2:吾輩は猫である 3:レベル7 4:蟹工船 5:THUGUMI』。まずは勝呂。」

デン!

勝呂の回答『1:与謝野晶子 2:夏目漱石 3:宮部みゆき 4:小林多喜二 5:よしもとばなな』

シーブック「流石だな。よし、次は睦月。」

睦月「げ…」

デン！

睦月の回答『1：与謝野大臣　2：納吊麻蒼斥　3：宮部ミュッキ
ーナ　4：小林多喜二　5：吉本ばなな』

シーブック「4は正解だし、5は昔のペンネームだからいいけど…
2なんか投げやり丸出しじゃねえか…1と3も…ふざけてんの？」

睦月「いや、なんか書いたら点数もらえるだろうと思って…」

シーブック「ハア…次は渡。」

渡「げげっ。」

デン！

渡の回答『1：和田アキコ　2：ナツメ・シュウ　3：宮部さん
4：（白紙）　5：フィリピン産』

シーブック「アッコさんに謝れ！」

渡「……」　机に頭をガンガンぶつける

音也「やめろ！」　渡を止める

シーブック「次だ。文中（「おっちゃんにもなア、あんたぐらいの子供がおるんや。女の子やけどなア。」（A）無愛想な親子にこれ以上かわっているのは面倒だと思ったのであるう。）の（A）に当てはまる接続語を答えよ。」。まずは天道だな。」

天道「フッ。」

デン！

天道の回答『だが』

シーブック「見事正解だ。次は映司…」

デン！

映司の回答『お礼を言う時のモンゴル人並みに』

シーブック「長えよ！」

映司「分かるか！」

シーブック「接続語って言っただろ！」

シーブック「さあ、成績発表だ。まずは上位3人。1位から行くぞ！さあ、第1位は…

勝呂龍司！」

勝呂「よっしゃあ！」

剣崎「あはははー、羨ましいなあ」

ダディ「落ち着け。」

シーブック「さあ、2位行くぞ！第2位は…

橘搾也！」

ダディ「っしやああああ！見ているかザヨゴオオオオオ！！！」

剣崎「よかったですねあはははは……」

シーブック「剣崎はほつといて、第3位発表だ。

ルミア・ウェーバー！」

ルミア「……」

アダム「やったじゃねえか！」

ルミア「……ハイ！」

シーブック「さあ、最初に言った通り、上位3人を発表したら後はワースト3まで省略だ。作者の処理能力の問題だな。ワースト3は、シズル、燐、弦太郎！」

弦太郎「俺は1回しか答え出てないじゃん！」

シーブック「だからってワースト3無くなったとは思うなよ。」

シズル「エミリアは！？彼女もバカになったが！」

シーブック「あ、知りたい？じゃあ特別に発表しよう。ワースト4だ。」

エミリア「ギリギリだった…」

シーブック「今は順不同での発表だからな。順に行くぞ！ワースト3位は！」

奥村燐！」

燐「よ、良かった国民栄誉バカじゃない！」

シーブック「じゃ、次はいよいよワースト2位と国民栄誉バカだ。
ワースト2位は！」

シズル&弦太郎「……………」 合掌して神に祈りまくる

シーブック「シズル・シュウ！」

シズル「やったああギリギリセーフ！」

シーブック「と言うのは嘘で、如月弦太郎！」

シズル「ウゾダンドコードーン！」

シーブック「さあ、シズルは罰ゲームだ。撃苦青汁一気飲み！」

シズル「そんな！私聞いてない！」

翔太郎「亜樹子をパクるシズルであつた……」

ピリリリリッ　ピリリリリッ

翔太郎「もしもし？」

ダブルフィリップ「誰に話してるんだい（左）翔太郎？」

翔太郎「このネタで締めかよ！」

抜き打ち中間テスト：PART5（後書き）

アダム「読者と触れ合う質問コーナー！」

エミリア「今回は質問つてより要望だけど、咲魔@テラ駆け出しド
ンダーさんからの『アダムに貧乳について語ってもらってください
です！』」

アダム「よし分かった！なら、まずは俺が小っぱいの素晴らしさに
目覚めた時の話からだ！忘れもしない、あれは中3の時の修学旅行
（ry）」

ユート「なア、これから僕の家で食事会しないか？カーシュ族の伝
統料理作ってやるよ！」

映司「お、いいねえ！」

エミリア「いこいこー。」

アダム「…その時気付いたんだ！俺が彼女たちのあつてないような
小さな胸に見とれているという事に…ッていない！既に誰もいない
し！」

原作さらに追加＋監視者増員で作者の頭に狂慌キターー！（前書き）

えー、今回から『ファイブレイン 神のパズル』、『トリコ』も原作に追加します。一時期は『GANTZ』でも行こうかと思ってましたが、不謹慎だと思ったので止めました。ちなみにトリコに関しては、僕がアニメより原作が好きなので原作に準じます。ティナも要望が大量に寄せられなければ別ですが、今のところ出すつもりはありません。

さて、ただいま雑務日誌では人気投票を行っています。投票よろしくお願いします。

原作さらに追加＋監視者増員で作者の頭に狂慌キターーー！

カイト「よお、俺は」

ナギサ「クロウ・ホーガン？」

カイト「大門カイトだ！声がいつしよってだけじゃねえか！」

ギャモン「お前なんか呼びじゃねえんだよ！俺の名は」

ミカ『失礼ながら、この世界で名乗る時は『俺の名は』ではなく『オディノナヴァ』と言った方がいいと思うのですが…』

エミリア「新メンバーにオンドウル語を勧めないで！」

アナ「アナが思うにー、このルールには従うべきだよー。」

シズル「お、悠莉ほどではないにしろ結構かわいいn」

カイト「あ、そいつ男だぜ。」

アナ「そだよー。」

シズル「何ですとー！ー！？」

悠莉「ちなみにさっきミカにオンドウルを勧められた…なんて言っ
たっけな…坂上田村麻呂って言ったけな…彼はシズルと声が同じだ
が。」

ギャモン「逆ノ上ギャモンだ！」

シズル「いきなり名前間違えないでやってくれ…」

小松「あれ？トリコさんは何処に？」

大文字「あいつならエミリアと食べ比べするって言ってクラッド学園の食堂に行ったが。」

サニー「まったく、相変わらず美^{ツク}しくねえ奴だ。」

ココ「ゼブラもないけど。」

美羽「ゼブラは……その……」

ココ「どうしたの？」

美羽「マヤさんが料理好きだって聞いて、」

ゼブラ『なら、それなりにうまいもん作れるんだろうなア!?!』

美羽「って言ってマヤさんの家に飛んで行ったけど。」

ヒューガ「マズイ、このままじゃ、キレたゼブラさんにマヤさんが！」

マヤ宅

ゼブラ「ぶくぶくぶくぶく」 マヤのオムライスを一口食べた瞬間
泡を吹いてダウン

マヤ「あれ？味付け間違えたかしら？」

ルウ「警告。マヤさんのオムライスから素成不明の化学物質が大量
に検出されました。」

カレン「どういう調理したらそうなるんだ姉さん！」

ココ「……むしろゼブラの方がヤバい事になってるね。」

サニー「何あの料理！キショッ！美しさ0！キモさ2万！」

小松「もしこれがマンガだったら絵ヅラがすごい事になってるでしょうね。」

ヒューガ「ヅラじゃないヒューガだ。」

小松「いえ、貴方には言ってますん。」

トリコ「え？エミリアいないのか？」

アレン「ああ、そうだよ。ファイブレインのキャラの所にいる。あ、でも料理置いていったぜ。新メンバーにふるまってくれって。」
紫色の煙を上げて皿の上でうごめく何かを取り出す

アダム「止める食わすな！」

ゾンビ「俺に任せやがれ！ってか作者！ゾンビじゃなくてゾンゲだ！」

アレン「いいじゃねえか。」

サンゲリア「よくねえ！ってかまた変わってるし！俺は！ゾ・ン・ゲ・だ！」

トリコ「アレ、お前の名前って確か……ああ！死霊のはらわた！」

死霊のはらわた「ゾンゲだ！死霊のはらわたって何だ！ってか作者くらいきちんとやれボケ！ったく、それにしてもお前からこんなもんも食えネえのか。もぐもぐ………」

アニメではRPGの経験則に突っ込みを入れている方の手下（以後手下A）「どうです？」

ゾンゲ「……」

もう片方（以後手下B）「あ、表記が戻った。」

ゾンゲ「……」

トリコ「おーい、ゾンビー。」

ゾンゲ「……」よく見たら顔面蒼白

アダム「これ……立ったまま気絶してね？」

アレン「あ、ホントだ。」

1時間後

シーブック「ってな感じで、原作追加したからみんな仲良くな。」

アダム「って言われても、まだ一部しか出てなくね?」

シーブック「さて、ここからが本題。俺をサポートする監視者を紹介する!カモーン!」

エミリア「あたしらは見慣れてるけどね。」

アスカ「ちょっと、何であたしが…」 ヒュマ子。白と黒のファンタスタムドレスを着用し、髪形はエミリアと同じ。シーブックが言ってた『巨乳』。

ジュード「文句言つな。」 P S Z E R Oのデフォルトヒューキヤスのカラーリングを黒とオレンジにただけ。

シノ「こんにちわ、シノです!ぶそに出てきたシノとは一切何の関係もないからよろしく!」 アスカと同じくヒュマ子。ロリ。黒のフォニユエセットで固めてる。

シーブック「ってなわけで、今後はこの4人でこの作品にバンバン干渉するからよろ。」

クライス「おい待て。」

シーブック「？」

クライス「何でヒュマ子とキャス男のみ？」

シーブック「いや、そのほうがきれいに収まるだろ。」

クライス「沼男の立場は！？」 ユートとDNAが同じだから一応沼男

アスカ「いいじゃんどうせ沼尾なんて絶滅危惧種なんだし。」

クライス「言うなよ！って沼男使いに謝れ！」

アスカ「ごめりんこ。」

クライス「心こもってなあああああい！」

エミリア「よかったクライスツッコミだ。」

アダム「俺らの負担がまた軽くなるな。」

シズル「本当にそうだ。」

エミリア「あんたは存在自体がボケよ。」

シズル「久々に言われたなそれ。」

原作さらに追加＋監視者増員で作者の頭に狂慌キターーー！（後書き）

ハイ、まとまりのない内容でスミマセンでした。

いないとは思いますが、もし監視者に自分のキャラを参加させたい！と思う人がいたら、そのキャラのなまえ、種族、外見的情報、その他の備考をかいて感想またはメッセージボックスに送ってください。

オリキャラ紹介（前書き）

紹介もなしだと分かりづらいつと思ったのでオリキャラ達を紹介します。もちろん監視者もです。

オリキャラ紹介

アダム・マクスウェル イメージCV：浪川大輔

『PHANTASY STAR GANTZ』主人公。主役がない小説がコンセプトのはずのこの小説においても実質的に主人公。ユートやチエルシーと言ったチート連中を除けばこの小説の中で文句なしに最強の戦闘センスの持ち主。無類の貧乳好きでもあるが、あくまで女性の好みに留まってるためユートの様にセクハラに走る事は無い。キャラ立ち要素に乏しいため、自己アピールの目的でガンスーツを常時着用。予備も大量に所持しているためオシヤカになっても特に問題は無し。ドラゴンナイトのデッキも所持しているが、レプリカのためオリジナルより性能が低い。

ルミアとは恋人同士で、お互いにとても愛し合っているが、恋人がガードベント級DMなものには困っている様子。

一応ツッコミポジションだがボケるときはボケる。

名前はKAMEN RIDER DRAGON KNIGHTのアダムから。

アレン・クラウド イメージCV：鈴木達央

『仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士』主人公。

安藤ポジション、オリ主、ドラゴンナイトと言った風にアダムとのキャラかぶりが激しいため基本的にボケ。ユートと並ぶ無類の巨乳好きで、ユートとよく意気投合。カードゲームマニアと言う設定は後々反映する予定。

名前はテキトーに考えてたら思い浮かんだ物をつけた。

クライス イメージCV：沢城みゆき

アレンと同じ作品の出身。正式な仮面ライダーストライクだったが、ベントラを裏切ってゼイビアックス側についた。ただしこの世界では普通に生活している。リンクベントでも巨乳好きでもなく常識人だがDNAが同じなためユートと瓜二つで、またブルース（アビス）のデッキを使うため裏でのあだ名はショタザメ。基本ツッコミの予定。ちなみに作者が個人的に一番気に入っているキャラ。名前はKRDKでの正式なストライクのプライスをもじってつけた。

シーブック イメージCV：三木眞一郎

キャス男。PSP02iでの作者のメインキャラで、監視者のライダー。仮面ライダーオニクスをイメージしてクリエイトしている。ツインセイバーを振り回して後先考えず突っ込むのがゲーム中の基本戦術。たまに返り討ちにあっておしゃかになる。名前はガンダムF91のシーブック・アノーから。

アスカ イメージCV：川澄綾子

ヒュマ子。監視者メンバーの一人。少し大人っぽい感じのキャラを目指して作ったが完全に失敗作。何も考えず転生してしまい使う武器が限りなく少なかったのはここだけの話。基本戦術はライフとレーザーカノンでチキン戦法。弾が切れたらシーブックと同様の戦法を満タンになるまで続ける。名前は最初に思い浮かんだ物をつけた。

シノ イメージCV：白石涼子

ヒュマ子。PSP01での作者のサードキャラ。ロリ。プロトラ
ンザー以外の全タイプを極めている。基本はアクロマスターで、戦
法はクローをクレイジーな速度で振り回して攻撃か、ウオンドでテ
クニックをバンバン乱射のどっちか。ライフルも使う。名前は頭に
中に引っ掛かっていた物を使ったら、後でそれがPSOのNPCの
名前だと思いだした。

ジウドー イメージCV：矢部雅史

監視者の中で唯一のPSZERから参戦。デフォルトのヒュー
キヤスのカラーリングを黒とオレンジに変えただけ。基本戦術はソ
ードもしくはダガーで突貫攻撃。プレイに使っている弟のDSのL
ボタンが壊れて使い物にならないため、フォトンプラストもロック
オンもなしでエターナルタワーを突破した事がある。だが、その分
銃はクソみたいに当てづらい。名前はガンダムZZのジウドー・ア
ーシタから。

リフォームはいったんやったら取り返しがつかなくなるので慎重に

美羽「皆、いい知らせがあるわよ！」

ユウキ「ん？なにになに？」

美羽「喜ばなさい、仮面ライダー部がクラウド学園の正式な部活に認定されたわ！」

JK「マジっすか！？」

賢吾「まあ、この世界には仮面ライダーなんてごろごろいるし、学生も今までいたからな。」

美羽「そして、新入部員もいるわ。何と、内3人が仮面ライダーよ。」

大文字「それは良いな。弦太郎にかかる負担が減るし、複数の場所で起きた事件にも対応できる。」

美羽「来ていいわよ！」

アダム「アダム・マクスウェル、仮面ライダードラゴンナイトです。よろしく願います。」

アレン「アレン・クラウド、同じく仮面ライダードラゴンナイトだ！よろしく。」

エミリア「エミリア・パーシバルです。よろしく!」

ユート「仮面ライダーセイレーンと仮面ライダーストライクのユー・トン・ユン・ユンカーズだ!」

ルミア「ルミア・ウエーバーです。至らないところもあると思いますが、今後よろしくお願いします。」

ナギサ「仮面ライダーステイング、ナギサだ。」

賢吾「……言いたい事があるんだが。」

美羽「ん?なに?」

賢吾「アレんって…二十歳じゃなかったか?後、アダムも21じゃなかったっけ?」

アレ「気にすんな。」

アダム「もっかい勉強したかったんだよ。」

賢吾「ってか何で全員ドラゴンナイト系!?これだったら如月一人アウエー感丸出さるうが!一人だけ色々浮いてるだろおがあああああああ!!!!!!」

弦太郎「心配無用だ。アウエーには慣れてるからな!」

賢吾「いや、もっというんなジャンルで選ぶべきだろ。と言うかそもそも、リンクベントがいたらその時点で他のライダーほぼ飾りだ

る！」

友子「確かに。」

美羽「その点は心配しないで。このたび就任した顧問の先生もライダーだけど、こちらは作品がバラバラだから。」

賢吾「顧問？あ、そうか。正式な部活だったら顧問もいるのか。」

美羽「先生、どうぞ。」

吾朗「この度顧問に就任した吾朗と」

香川「香川英行と」

伊達「伊達章。よろしく。」

賢吾「……伊達さん、クラッド学園に勤めましたっけ？」

伊達「おうよ。収入が安定してるからな。とりあえず体育教師やってるぜ。」

良太郎「伊達さん以外と厳しいからなあ……」

賢吾「なるほど、その点は分かった。だが、一つ、絶対に突っ込みたい事がある。」

皆「「「？」「」」

賢吾「……ラビットハッチに勝手に増築されてるあのブロックは何なんだ！と言うかラビットハッチ本体の方が増築されたみたいない感じになってるぞ！ラビットハッチ：新ブロックで0.5：9.5位だぞ！」

エミリア「あゝ、あれはいろんな施設が詰め込まれてるからね。あたしたちがどんなものを設けるか相談した後、真木博士を馬車馬のようにこき使って作らせたの。」

賢吾「馬車馬のようにな？」

エミリア「一応給料はあつたけど。」

美羽「とりあえず皆、賢吾君を案内してあげて。」

皆「「「いえっさー。」」」

賢吾「ちよつと待て！アレの間取り知らないの俺だけ！？何で皆知ってる！？何で俺だけ知らないのオオオオオオオ！！！！！！」

ユウキ「ここが、休憩室。アダムの要望で畳部屋になったよ。」

賢吾「おお、確かにここならゆっくり休めそうだな。」 畳に寝

転がる

アダム「その窓から地球…じゃなかった、パルムも見えるし、外を見ながらくいつと一杯やるのも良いぜ。」

ユウキ「ここが食堂だよ。」

賢吾「…エミリアだな。」

エミリア「正解。あたしが天才だったところにつくったコックマシナリーに調理を任せてあるから。ちなみに食材費は作者の共有倉庫から負担してるよ。」

賢吾「コラ。」

ユウキ「ココが、兵器格納庫兼アドベントビースト用厩舎よ。」

賢吾「確かにこれはいるかもな。で、兵器と言うのは？」

大文字「パワーダイザー、マシンマッシグラ、アドベントサイクルなんかだ。出勤するときはその転送装置に乗ればいい。」

賢吾「さりげなくグラールの技術を応用したのか。」

JK「そう言う事っス。」

ユウキ「……ココが宿舎」

賢吾「誰だ泊まり込むつもりなの奴！」

ユート「ここは僕が提案したんだ。複雑な廊下だから他人同士が顔を合わせる事もないし、室内の照明も控えめにしているから……」

賢吾「ラビットハッチ何に使ったつもりだお前！」

賢吾「ココはまだ建設中みたいだが。」 閉じられた扉の前に立つ

アダム「……ここはルミアの案で作られた……」

エミリア「……地下牢。」

賢吾「!？」

ルミア「ええ、色んな設備を備えた地下牢よ！ああ、完成したらここに監禁されて縛り上げられて鞭とか蝋燭とか三角木馬でハアハアハアハアハアハアハアハア！」

アダム「……………」 悲しげな表情

ナギサ「確かに、恋人があれば困るだろうな。」

賢吾「……結論。」

弦太郎「気にいったか？」

賢吾「宿舎と地下牢、いるか？」

ユート「いるに決まってるぞ！」

ルミア「いますよ！」

賢吾「いらねええエエエエエエエエエエだろ！」

今年は笑ってはいけないう……らしい。あくまで噂の段階だけど。

（前書き

ハイ、性懲りもなく3回目です。

それはそうと、現在人気投票開催中です。票が入った中で一番ビリの奴には罰ゲームが待ってます。ホント投票お願いします。まだ2票しか来てないんだから。

今年は笑ってはいけ無いが無い……らしい。あくまで噂の段階だけど。

エミリア「旅行？」

クラウチ「そうだ。お前ら最近疲れてるだろ？」

ウルスラ「はい、リゾート地区の無料招待券と旅館のチケットよ。皆でゆっくりしてきなさい。」

アダム「スツゲエやな予感するんだけど。」

ナギサ「どういう所に泊まるんだ？ちょっとチケット貸してくれ。

……なにに？『絶対に笑ってはいけない温泉旅館 無料宿泊券』

……」

エミリア「……………もう勘弁して。」

クラウチ「いいだろ別に。」

アダム「なるほど、ルミアがいないのは」

クラウチ「アイツ、催眠術に耐性が出来たらしいからな。今回は仕掛け人だ。」

クライス「何で僕までやるんだ!？」

ウルスラ「作者の気まぐれよ。」

皆「」「」「」……「」「」「」

参加者：アダム・マクスウェル

エミリア・パーシバル

ユート・ユン・ユンカース

シズル・シュウ

ナギサ

アレン・クラウド

当日

エミリア「あたしとユートとシズル、何気に皆勤賞じゃん。」

ユート「嬉しくないぞ。」

（バスが来る）

ハント「よお、ガイドを任されてる、ハントや。お前らにはこのバスに乗って、旅館まで行ってもらつ。乗った瞬間から笑ったらアカンからな。気いつけや。」

皆「……………へーい。……………」

座席

ハント	一通
アダム	——ナギサ
エミリア	——クライス
ユート	一路アレン
シズル	

スタート！

アダム「おお、コレ観光バスじゃん。」

エミリア「停留所に着くたびにドキドキしなくて済むわけね。そういやあんたは始めてだったよね。一緒にがんばろ。」

クライス「何でお前が励ますんだ。僕とお前は敵同士だ。」

エミリア「この世界に来たからには、あんたも家族みたいなもんよ。仲良くやろうよ。」

クライス「……まア…考えて、やってもいいかな。ただ！勘違いするなよ！別にお前らとなれ合うつもりなんて無いからな！ホントだからな！」 顔がスゲー赤い

エミリア「意外とツンデレ？」

クライス「う、うるさい！」

デデン

『エミリア OUT』

レッドミニオン「ヴォオッ！」

エミリア「痛い！」

ハント「今回笑ったらレッドミニオン（アメリカ版ゲルニウト）にケツぶたれるで。」

シズル「いつホワイトミニオン（アメリカ版シアゴースト）になるか分かんないし、気をつけないと。」

ハント「お前ら、ちょっと聞くけど、太陽の塔って知ってるやんな？」

エミリア「まア、そうだね。」

シズル「確か、生命の樹とか言うのが中にあるんだっけ？」

ハント「そう、それや。実は、アレには試作型があるんや。」

アダム「嫌な予感しかない。」

ハント「オ、見えたで。右を見てみい！アレが太陽の塔の試作型、
『ジョーカーの塔』や！」

（形は太陽の塔と同じだが、上の顔は相川のムツコロフェイス、下の顔は翔太郎のムツコロフェイスの塔が出てくる。ちなみに後ろにある顔は志村のムツコロフェイス）

皆「「「「「「ぶっ！」「」「」「」」」」」

デデン

『全員　OUT』

レッドミニオン「ヴォオッ！」

アダム「痛い！」

エミリア「きゃあ！」

ユート「オウッ！」

シズル「ぎゃあ！」

ナギサ「なあっ！」

クライス「に、ゃあ！」

アレン「いぶつー」

ナギサ「痛いなこれは…」

クライス「Sは打たれ弱いのに…」

アレン「そう言えばお前って少なくともK R D K小説ではドSだもんな。」

（残りは黙ってジョーカーの塔から顔をそむける）

シズル「……あ、軽トラだ。なんか積んでいるが…」

（軽トラの荷台を覆うブルーシートが取れ、巨大な鳴滝の頭部の模様が出現）

シズル「ぶつぶつ。」

アダム「ブツクク…」

デデン

『アダム シズル O U T』

に入り、座席を拳でどんどん叩いて涙を流しながら大爆笑

デデーン

ナギサ クライス OUT

レッドミニオン「ヴォオッ！」

ナギサ「はっ はっ はっ はっ はっ はっ！」
いまだに大爆笑

クライス「いでえ！」

絶対に笑ってはいけない温泉旅館 PART 1 (前書き)

ただ今のケツをぶたれた回数

アダム：2回

エミリア：3回

ユート：1回

シズル：2回

ナギサ：2回

クライス：2回

アレク：1回

絶対に笑ってはいけない温泉旅館 PART 1

アダム「ん？なんかでかいトラックが。」

（トラックがバスと並走、その荷台がゆっくり開く）

アダム「……」 笑いすら忘れて呆然

（トラックにダブルライダーと753が乗ってる）

753「それでは軽く…イクササイズ！」

ちゃんちゃんちゃんちゃんちゃんちゃん

753「イクササイズ、俺は正しい！攻撃開始、ついてきなさい！
腕振りなさいーい振りなさいーい、早くしなさい跳びなさい！
腕振りなさいーい振りなさいーい、早くしなさい跳びなさい！
腕振りなさいーい振りなさいーい、早くしなさい跳びなさい！
腕振りなさいーい振りなさいーい、早くしなさい跳びなさい！」

（753とダブルライダーでイクササイズ）

アダム「名護さん！恥を知れ！」

ナギサ「生ける伝説に何てまねをさせる！」

クライス「流石に僕も大先輩があんな醜態をさらすのはちょっと…」

（参加者全員が例外なく753に大ブーイング）

753「…蹴りなさい 蹴りなさい 悪い奴らを蹴りなさい
蹴りなさい 蹴りなさい悪い奴らを」

ダブルライダー「ライダーキック！」

753「らいじんぐ！」 ダブルライダーキックをともに喰らって荷台から転落

本郷「いや、すまないね皆。」

一文字「見苦しいところを見せてごめん。」

(トラックの荷台が閉じる)

エミリア「やっぱりあのおふた方もイラついてたんだね。」

753「待ちなさい！俺を置いていくな！」 血まみれのケガだらけで去り行くトラックを追いかける

アレン「ふふっ」

ナギサ「ぶっ」

デデン

『ナギサ アレン OUT』

レッドミニオン「ヴォオッ！」

ナギサ「げえっ！」

アレン「いてえ！」

753「イクサリオン！………やっぱり無理か。」宇宙刑事ギヤバンがサイバリアンを呼ぶポーズでイクサリオンを呼ぼうとする

（トラックの助手席の扉が開く）

シャドームーン「うるせえ黙れハゲ！」ステインガーマサイル（歩兵用対戦闘機ロケットランチャー）を753に発射

ズッギヤアアアン！！！！

753「じゃっじめんと！」

アダム&ユート「……ふっ」

デデン

『アダム ユート OUT』

レッドミニオン「ヴオオッ！」

アダム「いだい！」

ユート「ボウッ！」

753「パワードイクサアアア！！！！」さっきと同じポーズで

無駄な足掻き

シャドームーン「黙れ糞が！」 MGS2でフォーチュンが持ってたのと同じレールガンで753にぶっ放す

753「げべらっはあ！」

（皆もう飽きてる）

ハント「まあ、名護には天罰が下ったんやな」

ナギサ「当然の報いだ。」

シズル「…う、ちょっと気持ち悪くなってきたな。外の空気入れよ。」 窓を開ける

（ちょうど通りかかった車から永司が身を乗り出してシズルの顔面に毒々しい緑色のローションを発射。ちなみに運転手は咲魔）

エミリア& a m p・ユート」「ぶっ

デデーン

『エミリア ユート O U T』

シズル「……」 顔がローションまみれ

ハント「……こっち向くな…ぷぷぷ…」

シズル「……喰らえ！」 エミリアに顔面のローションをなすりつける

エミリア「何すんのよヘンタイ！」 シズルの顔を殴るがローションで滑って大したダメージにならない

クライス「あっはっはっは！……あ。」

デデーン

『クライス O U T』

レッドミニオン「ヴォオッ！」

クライス「びやげえ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5219s/>

リトルウイング雑務日誌 カオスとヤバスとクロスオーバー

2011年12月5日20時51分発行